



VDI-in-a-Box 5.0.x

2015-03-16 16:21:24 UTC

© 2015 Citrix Systems, Inc. All rights reserved. [Terms of Use](#) | [Trademarks](#) | [Privacy Statement](#)

目次

VDI-in-a-Box 5.0.x	5
VDI-in-a-Box 5.0.x.....	6
このリリースについて.....	7
主な機能	8
既知の問題	10
VDI-in-a-Boxのアーキテクチャ	18
VDI-in-a-Box 5.0.2のシステム要件.....	21
VDI-in-a-Boxを導入する前に	26
VDI-in-a-Boxについて	27
Citrix XenServerでのWindows 7イメージの使用.....	28
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	29
グリッドの作成と構成	31
最初のWindowsイメージの作成.....	38
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	48
テンプレートを編集するには	52
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	53
ユーザーとしての接続のテスト.....	57
Citrix XenServerでのWindows XPイメージの使用.....	59
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	60
グリッドの作成と構成	62
最初のWindowsイメージの作成.....	69
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	79
テンプレートを編集するには	83
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	84
ユーザーとしての接続のテスト.....	88
Microsoft Hyper-VでのWindows 7イメージの使用	90
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	91
グリッドの作成と構成	92
最初のWindowsイメージの作成.....	99

公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	109
テンプレートを編集するには	113
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	114
ユーザーとしての接続のテスト	118
Microsoft Hyper-VでのWindows XPイメージの使用	120
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	121
グリッドの作成と構成	122
最初のWindowsイメージの作成	129
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	138
テンプレートを編集するには	142
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	143
ユーザーとしての接続のテスト	147
VMware ESXiでのWindows 7イメージの使用	149
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	150
グリッドの作成と構成	152
最初のWindowsイメージの作成	160
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	170
テンプレートを編集するには	174
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	175
ユーザーとしての接続のテスト	179
VMware ESXiでのWindows XPイメージの使用	181
VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには	182
グリッドの作成と構成	184
最初のWindowsイメージの作成	191
公開イメージから最初のテンプレートを作成するには	200
テンプレートを編集するには	204
ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て	205
ユーザーとしての接続のテスト	209
VDI-in-a-Box 4.1から5.0.2への移行	211
VDI-in-a-Boxの管理	217
イメージの作成、アップデート、および修復	218
デスクトップとユーザーセッションの管理	220
汎用ユーザーアカウントの構成	224
グリッドの管理	227
MACアドレスのプールからのデスクトップの生成	232
資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新	234
VDI-in-a-Boxキオスクの構成	235

キオスクとしてのユーザーデバイスの構成	237
安全なリモートアクセスの構成.....	240
ユーザープロファイル管理の構成.....	244
スマートカード認証の構成	246
VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン	248
ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス	249
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのWindowsデバイスの構成	252
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのMacデバイスの構成	254
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのLinuxデバイスの構成.....	256
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのiOSデバイスの構成	258
VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのAndroidデバイスの構成	259

VDI-in-a-Box 5.0.x

Citrix VDI-in-a-Boxは、市販のサーバー上で動作するデスクトップ仮想化ソリューションであり、さまざまな種類のデバイスを使用するすべてのユーザーに、一元管理された仮想デスクトップを配信します。

このリリースについて	導入
既知の問題	管理
システム要件	ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス

Citrix VDI-in-a-Box 5.0.xについて

VDI-in-a-Boxは、仮想デスクトップの作成、プロビジョニング、管理、および負荷分散に必要なすべての機能を単体で提供する仮想アプライアンスです。VDI-in-a-Boxには、接続ブローカー、負荷分散機能、ユーザーマネージャー、およびデスクトップProvisioning Servicesサーバーが組み込まれています。共有ストレージや高速の相互接続、複数の管理サーバーを別個に用意する必要はありません。このアプライアンスは、Citrix XenServer、Microsoft Hyper-V、VMware ESXiなどのハイパーバイザーを実行するコモディティサーバー上で実行されます。

Windowsデスクトップ管理者は、VDI-in-a-Boxサーバーのグリッドを集中管理します。ウィザードを使った直観的なインターフェイスにより仮想化の詳細が抽象化されるので、ストレージ担当者、ネットワーク管理者、または仮想化の専門家が不要になります。

Citrix Receiverは、VDI-in-a-Boxデスクトップのユーザーに高度なセキュリティの接続を提供し、高品位なユーザーエクスペリエンスを実現します。Citrix HDXテクノロジーを装備したVDI-in-a-Boxにより、Flashマルチメディアやアプリケーション、3Dグラフィック、Webカメラ、オーディオ、および支社への配信などにおける高品位なユーザーエクスペリエンスを提供できます。デスクトップはリモートサーバー上で実行されますが、ユーザーはこのデスクトップを、ローカルのWindowsデスクトップと同じように操作できます。ユーザーは、ローカルデスクトップにログオンする場合と同じ操作で仮想デスクトップにログオンできます。

新機能

- ・ Microsoft Hyper-Vのサポート
- ・ コンソールインターフェイスの拡張による使いやすさの向上

Citrix VDI-in-a-Box 5.0.xについて

VDI-in-a-Boxは、仮想デスクトップの作成、プロビジョニング、管理、および負荷分散に必要なすべての機能を単体で提供する仮想アプライアンスです。VDI-in-a-Boxには、接続ブローカー、負荷分散機能、ユーザーマネージャー、およびデスクトップProvisioning Servicesサーバーが組み込まれています。共有ストレージや高速の相互接続、複数の管理サーバーを別個に用意する必要はありません。このアプライアンスは、Citrix XenServer、Microsoft Hyper-V、VMware ESXiなどのハイパーバイザーを実行するコモディティサーバー上で実行されます。

Windowsデスクトップ管理者は、VDI-in-a-Boxサーバーのグリッドを集中管理します。ウィザードを使った直観的なインターフェイスにより仮想化の詳細が抽象化されるので、ストレージ担当者、ネットワーク管理者、または仮想化の専門家が不要になります。

Citrix Receiverは、VDI-in-a-Boxデスクトップのユーザーに高度なセキュリティの接続を提供し、高品位なユーザーエクスペリエンスを実現します。Citrix HDXテクノロジーを装備したVDI-in-a-Boxにより、Flashマルチメディアやアプリケーション、3Dグラフィック、Webカメラ、オーディオ、および支社への配信などにおける高品位なユーザーエクスペリエンスを提供できます。デスクトップはリモートサーバー上で実行されますが、ユーザーはこのデスクトップを、ローカルのWindowsデスクトップと同じように操作できます。ユーザーは、ローカルデスクトップにログオンする場合と同じ操作で仮想デスクトップにログオンできます。

新機能

- ・ Microsoft Hyper-Vのサポート
- ・ コンソールインターフェイスの拡張による使いやすさの向上

主な機能

簡単な導入：仮想デスクトップ環境の導入に必要なものは、ハイパーバイザーとVDI-in-a-Boxソフトウェアがインストールされた市販のサーバー1台のみです。ソフトウェアをロードして起動するだけで、準備は完了です。オールインワン設計なので、高可用性のために個別の接続ブローカーやProvisioning Servicesサーバー、負荷分散機能や共有ストレージを用意する必要がありません。

オンデマンドのスケラビリティ：VDI-in-a-Boxでは高可用性などの主要な機能を実現するために、オーバープロビジョニングすることなくスケールアップできます。サーバーは1台または2台などの少数から開始し、必要に応じてサーバーをグリッドに追加していくことができます。再設計は必要ありません。VDI-in-a-Boxは、グリッド上のすべての接続ブローカーと負荷管理を制御し、サーバーに障害が発生した場合は自動的にフェールオーバーします。

優れたユーザーエクスペリエンス：ユーザーデバイスの種類に関係なく、ユーザーの個人設定やアプリケーションを組み込んだ初期状態のデスクトップがユーザーに即座に提供されます。ユーザーは、必要な業務生産性アプリケーションを仮想デスクトップ上で操作できます。VDI-in-a-Boxは移動プロファイル、フォルダーのリダイレクト、サードパーティ製のプロファイル管理サービスなどの既存の個人設定とシームレスに連携し、そのユーザー用にカスタマイズされた仮想デスクトップを提供します。

高品位なパフォーマンスとマルチメディアサポート：ネットワークや表示の最適化およびパフォーマンスの強化テクノロジーであるCitrix HDXにより、（待機時間が長く低帯域幅なWAN接続を含む）あらゆるネットワークにおいて最高のパフォーマンスを提供します。データセンターのHDXはサーバーの処理能力やスケラビリティを活用して、ユーザーデバイスの処理能力に関係なく、高度にグラフィカルでマルチメディアなパフォーマンスを提供します。ネットワーク上にHDXを組む込むと、高度な最適化およびアクセレーション能力が提供され、待機時間が長く低帯域幅の環境におけるリモートデスクトップアクセスを含む、あらゆるネットワークにおける優れたユーザーエクスペリエンスが実現されます。デバイスにHDXを装備すると、ユーザーデバイスのコンピューティング能力を活用して、実現可能な最も効果的な方法によりユーザーエクスペリエンスが強化されます。HDX MediaStreamテクノロジーにより、ユーザーは仮想デスクトップの一部としてマルチメディアコンテンツをスムーズにシームレスに操作できます。HDX MediaStream Flash Redirectionにより、Adobe Flashコンテンツをユーザーデバイス上でローカルに再生でき、ユーザーに優れた操作性を提供します。SmoothRoamingを使ってユーザーは、デスクトップセッションを一時停止し、別の場所からそのセッションにアクセスして停止した時点から再開できます。

単一イメージデスクトップ管理：データセンターで単一のマスターデスクトップイメージを保持することで、ユーザーのログオン時に最新の初期状態のデスクトップを提供できます。また、パッチやアップグレードを適用する手間や時間を軽減して、ストレージコストを最大で90%削減します。

データのコントロール：画面の更新、マウスのクリック、キーボード入力（データではなく）のみがネットワーク上で通信されます。内部およびリモートのユーザーへのデスクトップ配信で、SSLによる高パフォーマンスで標準ベースの暗号化が使用されます。

開かれたアーキテクチャ：VDI-in-a-Boxは、Citrix XenServerだけでなく、Microsoft Hyper-VおよびVMware ESXiとも統合でき、シンクライアントが配備された環境でもそのまま使用できます。このため、仮想化またはユーザーデバイスに対してのベンダー制約はありません。ユーザーはWindows、Mac OS、Linuxなどの一般的なクライアントデバイスから

仮想デスクトップにアクセスできます。

費用効率が最も高いデスクトップ：VDI-in-a-Boxによりデスクトップのライフサイクル管理が一拠点化かつ単純化され、ストレージおよびユーザーデバイスに対するコストが削減されます。デスクトップのライフサイクル全体を1つの場所で管理でき、デスクトップのプロビジョニング、パッチの適用、セキュリティ保全、およびアップデートを簡素化できます。アプライアンスにかかる費用は、ユーザーデバイス保守の最少化、電気使用量の減少、ハードウェアライフサイクルの延長化、および老朽デバイスの再目的化能力により減少します。デスクトップイメージを1つにして保存することでストレージ要件を減少させ、より消費電力の少ないシンクライアントを使用してサーバー上の仮想デスクトップをまとめることで、全体のエネルギー消費量と冷却要件を減らします。

ローカルの周辺機器のサポート：VDI-in-a-BoxユーザーはUSBデバイスをローカルに装着して、それをローカルのマシンと同じように仮想デスクトップやアプリケーションで使用できます。サポートされるUSBデバイスとして、フラッシュドライブ、スマートフォン、PDA、プリンター、スキャナー、MP3プレーヤー、およびタブレットなどがあります。HDX Plug-n-Play USBサポートにより、Webカメラ、マイク、スピーカー、およびヘッドセットなどのアイソクロナスデバイスがサポートされます。デバイスは、一般的に遅延のない高速LAN環境でサポートされます。Bloombergキーボードデバイスもサポートされます。

マルチモニターサポート：ユーザー固有のマルチモニター構成が、仮想デスクトップに反映されます。たとえば、L字型、T字型、およびU字型のモニター構成や、異なるサイズと解像度のモニター構成による環境を使用できます。HDX Plug-n-Playマルチモニターのサポートにより、アプリケーションとマルチモニター構成との互換性が確保されます。マルチモニターサポートについて詳しくは、Citrix eDocsの「ReceiverとPlug-in」の「Receiver for Windows」を参照してください。

インターナショナルサポート：VDI-in-a-Boxでは、日本語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、韓国語、簡体字中国語、および繁体字中国語のオペレーションシステムを使用したデスクトップを公開することができます。ユーザーがデスクトップに接続するときに表示されるWebページは、日本語、スペイン語、ドイツ語、フランス語、および簡体字中国語にローカライズされています。ただし、VDI-in-a-Boxには英語版のハイパーバイザーが必要です。

既知の問題

VDI-in-a-Box 5.0.2の既知の問題

- Receiver for Macでは、VDI-in-a-Boxデスクトップに接続できません。代わりに、WebブラウザまたはJavaデスクトップクライアントを使用して接続してください。 [3513]
- VMware vCenter 5.0で管理しているホストでは、vdiManager_ESX_v5_0_2.ovaの直接インポートに失敗します。この問題を避けるには、vCenterを使用してvdiManager_ESX_v5_0_2.ovaをインポートしてください。 [3190]
- VDI-in-a-Boxを60分間非アクティブのままにすると、VDI-in-a-Boxのダイアログボックスが閉じる場合があります。この場合、ダイアログボックスに入力した未保存の作業内容は失われます。ワークステーションから離れる前に作業内容を保存してください。 [3834]
- Citrix Receiver 3.0を使用して起動されるデスクトップセッションには、 [VDI-in-a-Box Admin] > [Advanced Properties] ダイアログボックスで設定したサイズパラメーターが反映されません。 [3401]
- Citrix Access Gatewayを使用する環境で、キオスクモードが正しく動作しなくなる場合があります。キオスクモードでは、デスクトップがユーザーデバイスのIPアドレスに基づいて割り当てられます。Access Gatewayを介してVDI-in-a-Boxマネージャーに接続する場合は、ユーザーデバイスではなくゲートウェイのIPアドレスが使用されます。複数のユーザーがAccess Gatewayを介してキオスクステーションにアクセスすると、それらのユーザーが同じキオスクステーションに接続することになるのでセッションが切断されます。 [3848]
- Kaviza VDI-in-a-Box 4.1からCitrix VDI-in-a-Box 5.0.2に移行した後、 [Desktop] ページに何も表示されず、 [User Sessions] タブにエラーメッセージが表示されることがあります。これらのページに正しい内容が表示されるようにするには、移行後にブラウザを更新してください。 [3573]
- 資格情報の変更後にサーバーを再起動しなかった場合、デスクトップでエラーが発生し、VDI-in-a-Boxマネージャーの [Desktop] タブの [Summary] ページにある [Broken] 列にそのデスクトップが表示されます。サーバーを再起動するには、グリッドをメンテナンスモードにしてから、 [Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックし、 [Restart] をクリックします。 [3800]
- [Generate a Base Desktop Image] プロセスの [Test Connection] ページにある [Test port] ボタンをクリックしたときに、テストに成功しても失敗として示されることがあります。この現象は、Desktop Agentのインストールの直後に [Test port] をクリックした場合に発生することがあります。30~60秒待ってから、 [Test port] を再度クリックしてください。 [3482]
- インターネットインフォメーションサービス (IIS) がインストールされたHyper-Vサーバーでは、VDI-in-a-Boxマネージャーのインストールにより一部のIIS設定が変更されます。IISのSSL (Secure Sockets Layer) バインドは、デフォルトのポート443からポート9875に変更されます。この設定を元に戻すには、IISマネージャーを使用してポート443のバインドを作成し、 [種類] (https)、 [IPアドレス] (未使用のIPアドレスすべて)、 [ポート] (443)、 [SSL証明書] を指定してください。ただし、Hyper-VサーバーにMicrosoft Exchange Serverもインストールされている場合、この方法では問題を解決できません。IIS、Exchange Server、およびMicrosoft SQLは、Hyper-Vサーバーではなく仮想マシン上で実行することをお勧めします。 [3963]

- ・ ドメインコントローラーまたはバックアップドメインコントローラーとして動作する Hyper-VサーバーにVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をインストールすると、同じグリッド内のサーバーとの間でイメージの配布に失敗することがあります。ドメインコントローラーにvdiManagerをインストールすると、kavizaというドメインユーザーアカウントが作成されます。グリッド内のほかのサーバーでは、kavizaはローカルの管理者アカウントとして作成されます。その結果、ドメインコントローラー上のvdiManagerには、ドメインコントローラーからグリッド内のほかのサーバーにファイルをコピーする適切な権限が割り当てられません。ドメインコントローラーにはvdiManagerをインストールしないことをお勧めしますが、インストールする必要がある場合は、Domain Adminsグループにkavizaドメインユーザーアカウントを追加してください。これにより、ドメインコントローラー上のvdiManagerに、グリッド内のほかのサーバーにイメージをコピーするための権限が付与されます。 [3910]

グローバル化に関する問題

- ・ VDI-in-a-Boxは、以下の項目について非ASCII文字をサポートしません：イメージ名、ネットワークアダプター名、ハイパーバイザーホスト名、ローカルストレージ名、Active Directory組織単位名、およびハイパーバイザーまたはドメインコントローラーのユーザー名とパスワード。 [2891, 2950, 2960, 3677-3679, 3681-3682]
- ・ VDI-in-a-Boxは、ハイパーバイザー項目（仮想マシン名やネットワークアダプター名など）に使用されたサロゲートペア文字をサポートしません。 [318681]

VDI-in-a-Box 5.0.2で解決された問題

VDI-in-a-Box 5.0.2で解決された問題については、Citrix Knowledge Centerの [CTX132754「Hotfix Rollup Pack 2 for Citrix VDI-in-a-Box 5.0」](#) を参照してください。

VDI-in-a-Box 5.0.1の既知の問題

- Receiver for Macでは、VDI-in-a-Boxデスクトップに接続できません。代わりに、WebブラウザまたはJavaデスクトップクライアントを使用して接続してください。 [3513]
- VMware vCenter 5.0で管理しているホストでは、vdiManager_ESX_v5_0_1.ovaの直接インポートに失敗します。この問題を避けるには、vCenterを使用してvdiManager_ESX_v5_0_1.ovaをインポートしてください。 [3190]
- VDI-in-a-Boxを60分間非アクティブのままにすると、VDI-in-a-Boxのダイアログボックスが閉じる場合があります。この場合、ダイアログボックスに入力した未保存の作業内容は失われます。ワークステーションから離れる前に作業内容を保存してください。 [3834]
- Citrix Receiver 3.0を使用して起動されるデスクトップセッションには、 [VDI-in-a-Box Admin] > [Advanced Properties] ダイアログボックスで設定したサイズパラメーターが反映されません。 [3401]
- Citrix Access Gatewayを使用する環境で、キオスクモードが正しく動作しなくなる場合があります。キオスクモードでは、デスクトップがユーザーデバイスのIPアドレスに基づいて割り当てられます。Access Gatewayを介してVDI-in-a-Boxマネージャーに接続する場合は、ユーザーデバイスではなくゲートウェイのIPアドレスが使用されます。複数のユーザーがAccess Gatewayを介してキオスクステーションにアクセスすると、それらのユーザーが同じキオスクステーションに接続することになるのでセッションが切断されます。 [3848]
- Kaviza VDI-in-a-Box 4.1からCitrix VDI-in-a-Box 5.0.1に移行した後、 [Desktop] ページに何も表示されず、 [User Sessions] タブにエラーメッセージが表示されることがあります。これらのページに正しい内容が表示されるようにするには、移行後にブラウザを更新してください。 [3573]
- 資格情報の変更後にサーバーを再起動しなかった場合、デスクトップでエラーが発生し、VDI-in-a-Boxマネージャーの [Desktop] タブの [Summary] ページにある [Broken] 列にそのデスクトップが表示されます。サーバーを再起動するには、グリッドをメンテナンスモードにしてから、 [Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックし、 [Restart] をクリックします。 [3800]
- [Generate a Base Desktop Image] プロセスの [Test Connection] ページにある [Test port] ボタンをクリックしたときに、テストに成功しても失敗として示されることがあります。この現象は、Desktop Agentのインストールの直後に [Test port] をクリックした場合に発生することがあります。30~60秒待ってから、 [Test port] を再度クリックしてください。 [3482]
- Microsoft Hyper-V向けのVDI-in-a-Boxは、以下の機能をサポートしません。
 - ダイナミックメモリ
 - 仮想マシンへの複数vCPUの割り当て
 - RemoteFXのサポート仮想マシンをVDI-in-a-Boxマネージャーにインポートすると、これらの機能の設定はすべて失われます。 [3943]

- ・ インターネットインフォメーションサービス (IIS) がインストールされたHyper-Vサーバーでは、VDI-in-a-Boxマネージャーのインストールにより一部のIIS設定が変更されます。IISのSSL (Secure Sockets Layer) バインドは、デフォルトのポート443からポート9875に変更されます。この設定を元に戻すには、IISマネージャーを使用してポート443のバインドを作成し、[種類] (https)、[IPアドレス] (未使用のIPアドレスすべて)、[ポート] (443)、[SSL証明書] を指定してください。ただし、Hyper-VサーバーにMicrosoft Exchange Serverもインストールされている場合、この方法では問題を解決できません。IIS、Exchange Server、およびMicrosoft SQLは、Hyper-Vサーバーではなく仮想マシン上で実行することをお勧めします。[3963]
- ・ ドメインコントローラーまたはバックアップドメインコントローラーとして動作するHyper-VサーバーにVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をインストールすると、同じグリッド内のサーバーとの間でイメージの配布に失敗することがあります。ドメインコントローラーにvdiManagerをインストールすると、kavizaというドメインユーザーアカウントが作成されます。グリッド内のほかのサーバーでは、kavizaはローカルの管理者アカウントとして作成されます。その結果、ドメインコントローラー上のvdiManagerには、ドメインコントローラーからグリッド内のほかのサーバーにファイルをコピーする適切な権限が割り当てられません。ドメインコントローラーにはvdiManagerをインストールしないことをお勧めしますが、インストールする必要がある場合は、Domain Adminsグループにkavizaドメインユーザーアカウントを追加してください。これにより、ドメインコントローラー上のvdiManagerに、グリッド内のほかのサーバーにイメージをコピーするための権限が付与されます。[3910]

国際文字セットに関する問題

- ・ デバッグログと監査ログに含まれる非ASCII文字は、正しく表示されません。[2947, 2948]
- ・ VDI-in-a-Boxは、以下の項目について非ASCII文字をサポートしません：イメージ名、ネットワークアダプター名、ハイパーバイザーホスト名、ローカルストレージ名、Active Directory組織単位名、ハイパーバイザーまたはドメインコントローラーのユーザー名とパスワード、およびグリッドアップグレード時のファイルパス。[2891, 2950, 2960, 3677-3679, 3681-3683]

サードパーティ

- ・ Citrix XenServer 6.0向けのXenServer Toolsがインストールされた、フランス語版のWindows 7 SP1 Enterprise Editionベースの仮想マシンは、イメージのインポート中にVMの選択の一覧に表示されません。この問題を解決するには、XenServer 6.0を6.0.2にアップグレードしてください。[3919]

VDI-in-a-Box 5.0.1で解決された問題

VDI-in-a-Box 5.0.1で解決された問題については、Citrix Knowledge Centerの[CTX132058「Hotfix Rollup Pack 1 for Citrix VDI-in-a-Box 5.0」](#)を参照してください。

VDI-in-a-Box 5.0の既知の問題

- ・ Citrix Access Gateway 5.0を使用する環境では、Webブラウザでデスクトップに接続するときに、[ログオン] 画面が表示されません この問題を回避するには、Access GatewayでJavaデスクトップクライアントのURL (https://IPAddress/dt/vdiclient.jsp)、またはモバイルデバイスの場合はPNAgentのURL (https://IPAddress/dt/PNAgent/config.xml) を指定してください。 [3081]
- ・ Receiver for Macでは、VDI-in-a-Boxデスクトップに接続できません。代わりに、WebブラウザまたはJavaデスクトップクライアントを使用して接続してください。 [3513]
- ・ VMware vCenter 5.0で管理しているホストでは、vdiManager_ESX_v5_0_0.ovaの直接インポートに失敗します。この問題を避けるには、vCenterを使用してvdiManager_ESX_v5_0_0.ovaをインポートしてください。 [3190]
- ・ Linuxデバイス上のMozilla Firefoxでは、VDI-in-a-Boxマネージャーを開くことはできません。この問題を解決するには、Firefoxの [Preferences] ダイアログボックスで [Applications]、[Citrix ICA settings file] の順にクリックします。 [Citrix ICA settings file] で、アクションを [Use Other] に変更します。Citrix Receiver for Linux 11.100を実行しているデバイスでは、[File System] をクリックし、[User]、[lib]、[ICAClient]、[wfica.sh]、[Open] の順にクリックします。Citrix Receiver for Linux 12.0を実行しているデバイスでは、[File System] をクリックし、[opt]、[Citrix]、[ICAClient]、[wfica.sh]、[Open] の順にクリックします。 [3647]
- ・ VDI-in-a-Boxを60分間非アクティブのままにすると、VDI-in-a-Boxのダイアログボックスが閉じる場合があります。この場合、ダイアログボックスに入力した未保存の作業内容は失われます。ワークステーションから離れる前に作業内容を保存してください。 [3834]
- ・ Citrix Receiver 3.0を使用して起動されるデスクトップセッションには、[VDI-in-a-Box Admin] > [Advanced Properties] ダイアログボックスで設定したサイズパラメーターが反映されません。 [3401]
- ・ Citrix Access Gatewayを使用する環境で、キオスクモードが正しく動作しなくなる場合があります。キオスクモードでは、デスクトップがユーザーデバイスのIPアドレスに基づいて割り当てられます。Access Gatewayを介してVDI-in-a-Boxマネージャーに接続する場合は、ユーザーデバイスではなくゲートウェイのIPアドレスが使用されます。複数のユーザーがAccess Gatewayを介してキオスクステーションにアクセスすると、それらのユーザーが同じキオスクステーションに接続することになるのでセッションが切断されます。 [3848]
- ・ Kaviza VDI-in-a-Box 4.1からCitrix VDI-in-a-Box 5.0に移行した後、[Desktop] ページには何も表示されず、[User Sessions] タブにはエラーメッセージが表示されます。これらのページに正しい内容が表示されるようにするには、移行後にブラウザを更新してください。 [3573]
- ・ 資格情報の変更後にサーバーを再起動しなかった場合、デスクトップでエラーが発生し、VDI-in-a-Boxマネージャーの [Desktop] タブの [Summary] ページにある [Broken] 列にそのデスクトップが表示されます。サーバーを再起動するには、グリッドをメンテナンスモードにしてから、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックし、[Restart] をクリックします。 [3800]

- ・ [Generate a Base Desktop Image] プロセスの [Test Connection] ページにある [Test port] ボタンをクリックしたときに、テストに成功しても失敗として示されることがあります。この現象は、Desktop Agentのインストールの直後に [Test port] をクリックした場合に発生することがあります。30~60秒待ってから、[Test port] を再度クリックしてください。[3482]
- ・ Microsoft Hyper-V向けのVDI-in-a-Boxは、以下の機能をサポートしません。
 - ・ ダイナミックメモリ
 - ・ 仮想マシンへの複数vCPUの割り当て
 - ・ RemoteFXのサポート仮想マシンをVDI-in-a-Boxマネージャーにインポートすると、これらの機能の設定はすべて失われます。[3943]
- ・ インターネットインフォメーションサービス (IIS) がインストールされたHyper-Vサーバーでは、VDI-in-a-Boxマネージャーのインストールにより一部のIIS設定が変更されます。IISのSSL (Secure Sockets Layer) バインドは、デフォルトのポート443からポート9875に変更されます。この設定を元に戻すには、IISマネージャーを使用してポート443のバインドを作成し、[種類] (https)、[IPアドレス] (未使用のIPアドレスすべて)、[ポート] (443)、[SSL証明書] を指定してください。ただし、Hyper-VサーバーにMicrosoft Exchange Serverもインストールされている場合、この方法では問題を解決できません。IIS、Exchange Server、およびMicrosoft SQLは、Hyper-Vサーバーではなく仮想マシン上で実行することをお勧めします。[3963]
- ・ ドメインコントローラーまたはバックアップドメインコントローラーとして動作するHyper-VサーバーにVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をインストールすると、同じグリッド内のサーバーとの間でイメージの配布に失敗することがあります。ドメインコントローラーにvdiManagerをインストールすると、kavizaというドメインユーザーアカウントが作成されます。グリッド内のほかのサーバーでは、kavizaはローカルの管理者アカウントとして作成されます。その結果、ドメインコントローラー上のvdiManagerには、ドメインコントローラーからグリッド内のほかのサーバーにファイルをコピーする適切な権限が割り当てられません。ドメインコントローラーにはvdiManagerをインストールしないことをお勧めしますが、インストールする必要がある場合は、Domain Adminsグループにkavizaドメインユーザーアカウントを追加してください。これにより、ドメインコントローラー上のvdiManagerに、グリッド内のほかのサーバーにイメージをコピーするための権限が付与されます。[3910]

国際文字セットに関する問題

- ・ デバッグログと監査ログに含まれる非ASCII文字は、正しく表示されません。[2947, 2948]
- ・ VDI-in-a-Boxは、以下の項目について非ASCII文字をサポートしません：イメージ名、ネットワークアダプター名、ハイパーバイザーホスト名、ローカルストレージ名、Active Directory組織単位名、ハイパーバイザーまたはドメインコントローラーのユーザー名とパスワード、およびグリッドアップグレード時のファイルパス。[2891, 2950, 2960, 3677-3679, 3681-3683]

サードパーティ

- ・ Citrix XenServer 6.0向けのXenServer Toolsがインストールされた、フランス語版のWindows 7 SP1 Enterprise Editionベースの仮想マシンは、イメージのインポート中にVMの選択の一覧に表示されません。この問題を回避するには、イメージにXenServer 5.6バージョンのXenServer Toolsをインストールしてインポートしてください。これ

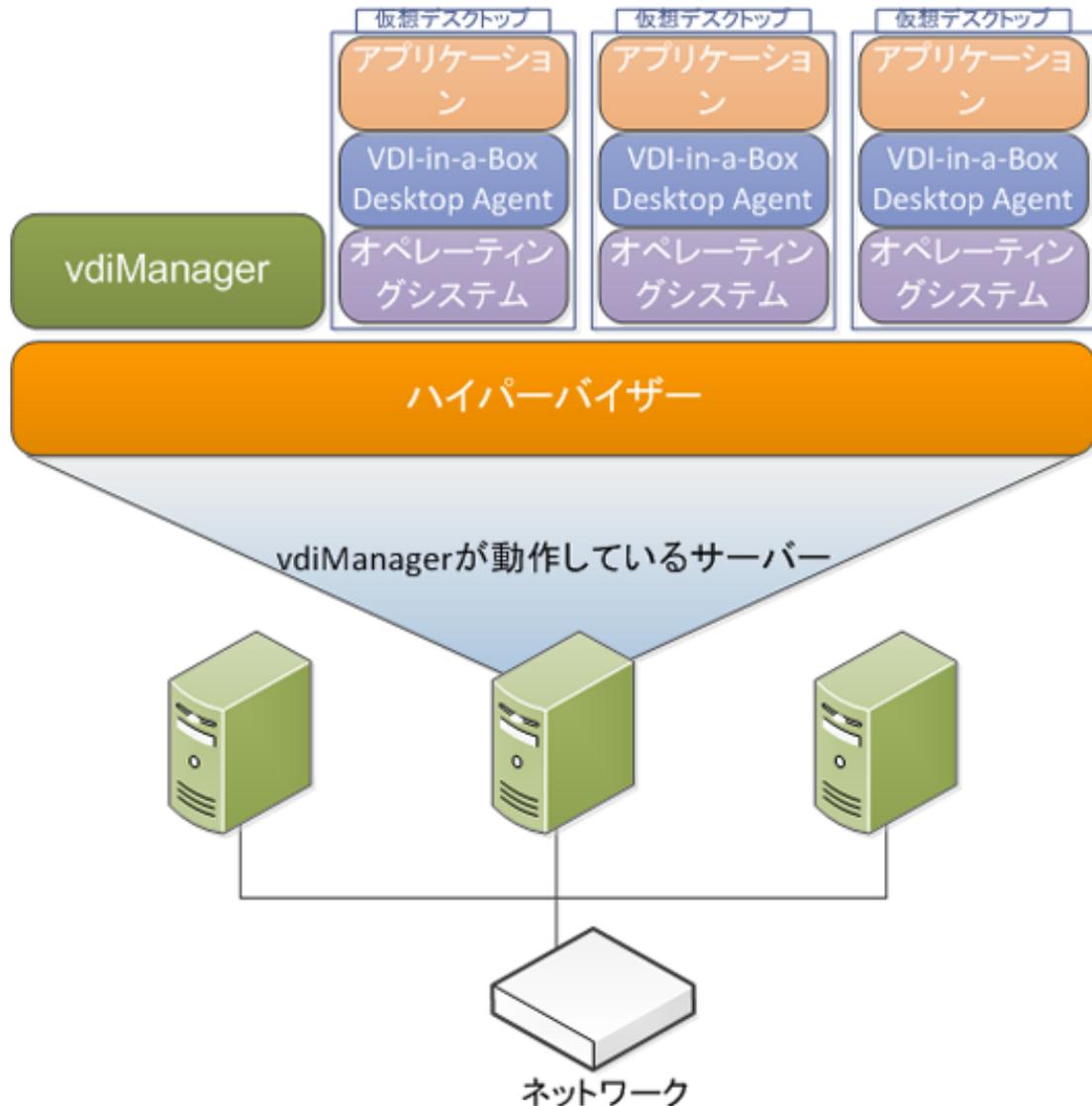
により、仮想マシンがVMの選択の一覧に表示されます。仮想マシンがVDI-in-a-Boxマネージャーにインポートされたら、XenServer ToolsをXenServer 6.0バージョンに置き換えてください。 [3919]

VDI-in-a-Box 5.0で解決された問題

このリリースでは、Kaviza VDI-in-a-Box 4.1以降に確認された以下の問題が解決されています。

- ・ ユーザーがUPNアカウント (user@domain.com) を使用してデスクトップにアクセスすると、既存のセッションへの再接続で問題が発生することがあります。

VDI-in-a-Boxのアーキテクチャ



VDI-in-a-Boxアプライアンスは「VDI-in-a-Boxマネージャー」または「vdiManager」と呼ばれ、ハイパーバイザー上の仮想マシンとして実行されます。vdiManagerはローカルのハイパーバイザーと通信することで、ローカル物理サーバー上に仮想デスクトップを作成し、管理します。

各vdiManagerは、単一の物理サーバーとして実行したり、「VDI-in-a-Boxグリッド」と呼ばれる物理サーバーの結合ファブリックの一部として実行したりできます。グリッド内の各vdiManagerは、次の機能を実行します。

- ・ テンプレートからの仮想デスクトップの作成。テンプレートは、次の項目から構成されます。

- ・ デスクトップオペレーティングシステム（Windows 7やWindows XPなど）、一連のアプリケーション、およびVDI-in-a-Box Desktop Agentがインストールされたイメージ。VDI-in-a-Box Desktop Agentは、ユーザー接続とデスクトップのヘルス状態についてvdiManagerと通信します。複数のテンプレートで同じイメージを使用できます。
- ・ 作成するデスクトップの数、それらのデスクトップに割り当てるRAMの量、仮想デスクトップからローカルUSB周辺機器へのアクセスの可否、およびデスクトップ更新ポリシーなどの特性を指定するポリシー。
- ・ グリッド内での負荷分散。vdiManagerは、各サーバーで現在実行されているデスクトップの数と、各サーバー上のコンピューティングリソース（メモリおよびCPUコア）の使用状況に基づいて、vdiManagerを実行しているサーバー全体でデスクトップ作成を均等に配分します。ユーザーがログオンすると、vdiManagerは負荷が軽いサーバーでデスクトップのプロビジョニングを行います。
- ・ 高可用性の提供。物理サーバー上のvdiManagerインスタンスは互いに通信を行って、運用および構成に関する主要な情報を共有します。

たとえば、VDI-in-a-Boxのテンプレートとイメージは複数のサーバーに格納されるので、1台の物理サーバーに障害が発生しても失われることはありません。物理サーバーに障害が発生しても、グリッド内の残りのサーバーには、別のデスクトップを作成して障害の発生したサーバーのデスクトップを置き換えるために必要な情報が存在しています。障害の発生したサーバーが修復されグリッドに再度追加されると、運用と構成に関する主要な情報がそのサーバーに送られ、デスクトップのプロビジョニングが再開されます。

- ・ 接続の仲介。これにより、ユーザーがグリッド内の任意のサーバーにログオンできるようになります。
- ・ WebベースのインターフェイスであるVDI-in-a-Boxコンソールの提供。このコンソールを使用して、vdiManagerを実行しているサーバー、デスクトップ、テンプレート、イメージ、ユーザー、およびグリッドの構成と管理を、すべてグリッドレベルで行います。VDI-in-a-Boxコンソールでは、グリッドが、vdiManagerを実行している単一の論理サーバーとして表示されます。必要に応じて、各サーバーの状態と動作を個別に表示することも可能です。1台のサーバーでvdiManagerを更新すると、vdiManagerがその変更内容をグリッド内のすべてのサーバーに配布します。

ユーザーの認証とユーザーデータ

VDI-in-a-Boxでは、認証にはActive Directoryが使用され、ユーザーデータの保持には簡易ネットワークファイルシステムが使用されます。



Windowsドメイン環境では、ユーザーの承認と認証を提供するためにActive Directoryサービスが必要になります。VDI-in-a-Boxには、Microsoftワークグループを使用しているサイト用のユーザーデータベースが含まれています。

Active Directoryは、「移動プロファイル」を提供するためにも使用できます。これにより、ユーザーのアプリケーション構成とマイドキュメントフォルダーをデスクトップ以外の集中管理用の場所に格納することができます。この手法により、ユーザーがログオンするたびに、カスタマイズされたデスクトップが表示されます。移動プロファイルの使用はオプションですが、この機能を使用すると、物理デスクトップに近いユーザーエクスペリエンスを仮想デスクトップで提供できるようになります。サードパーティ製のプロファイル管理ツールは、そのエージェントを各VDI-in-a-Boxイメージ上にインストールしておくだけで簡単に使用可能になります。

vdiManagerを実行している各サーバーには、高可用性システムが必要とする、イメージ、テンプレート、および構成情報を保持するために十分なローカルストレージが必要です。VDI-in-a-Boxでは、仮想デスクトップ上に格納されるユーザーデータはバックアップされません。一般的な使用法としては、テンプレートからデスクトップを動的に作成して、更新ポリシーに基づいてデスクトップを破棄します。簡易ネットワークファイルシステムは、デスクトップの外部にユーザーデータを保持するためには十分です。

VDI-in-a-Box 5.0.2のシステム要件

Citrix VDI-in-a-Boxを使用するには、以下のハイパーバイザー、ユーザーデバイス、およびシステムリソースが必要です。

サポートされるハイパーバイザー

Citrix XenServer

- ・ Citrix XenServer 6.0 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版
- ・ Citrix XenServer 5.6 Feature Pack 1 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版
- ・ Citrix XenServer 5.6 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版

注：XenServerリソースプール内のサーバーは、VDI-in-a-Boxではサポートされません。

サーバー上のディスク使用を最適化するために、XenServerシンプロビジョニング機能を使用することをお勧めします。

Microsoft Hyper-V

- ・ Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 Service Pack 1
- ・ Hyper-Vの役割を有効にしたWindows Server 2008 R2 Service Pack 1 Enterprise Edition
 - ・ DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーをサポート
 - ・ Active Directoryをサポート
- ・ Hyper-Vの役割を有効にしたWindows Server 2008 R2 Service Pack 1 Server Core
 - ・ DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーをサポート
 - ・ Active Directoryをサポート

注：Windows Server 2008 R2 Service Pack 1, Standard EditionでのHyper-Vは、VDI-in-a-Boxでサポートされません。

注：Citrixでは、Microsoft Hyper-VおよびVDI-in-a-Boxでのインターネットインフォメーションサービス (IIS : Internet Information Services) の使用を推奨していません。IISを使用する場合は、インターネットインフォメーションマネージャーでIIS SSLバインドを追加する必要があります。方法について詳しくは、Microsoft社のドキュメントを参照してください。ポート9875上のVDI-in-a-Box SSLバインドはそのまま、(ポート443上のものを含む) ほかのバインドを手動で復元する必要があります。

VMware ESXiまたはVMware vSphere

- ・ VMware Essentialsまたはそれ以上のライセンス

注： Citrix VDI-in-a-Boxを評価するためにVMware社のWebサイトからESXiの無償版をダウンロードした場合は、そのバージョンに付属するライセンスキーをインストールしないでください。このライセンスキーをインストールすると、Citrix VDI-in-a-Boxがハイパーバイザーと連動するために必要なAPIが使用不能になり、セットアッププロセスが終了してしまいます。ライセンスの選択を、[Evaluation Mode (No License Key)] のままにしておき、試用期間中に有償のハイパーバイザーライセンスに変更してください。

- ・ VMware ESXi 5.0
- ・ VMware ESXi 4.1

ユーザーデバイス

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップには、Webブラウザ、Citrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」)、またはVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアント (Java Runtime Environment (JRE) 1.6以上を使用) からアクセスすることができます。

- ・ Citrix Receiverは<https://www.citrix.com>からダウンロードしてください。
- ・ JREは<https://www.java.com>からダウンロードしてください。

以下のデバイスがサポートされます。

- ・ 32ビットまたは64ビットのWindows XP、Windows Vista、またはWindows 7を実行しているコンピューター
- ・ 以下の32ビットLinuxオペレーティングシステムを実行しているコンピューター：
 - ・ RHEL 5.x
 - ・ CentOS 5.x
 - ・ Ubuntu 10.x
- ・ Mac OS X 10.5または10.6を実行しているコンピューター。
- ・ 以下のいずれかのオペレーティングシステムを実行するモバイルデバイス：
 - ・ iOS 4.2.3 (iPhoneおよびiPad)
 - ・ Android 3.1
- ・ Windows XP EmbeddedまたはLinuxオペレーティングシステムを実行するシンクライアント。
- ・ Citrix Receiverの最新バージョンを実行するシンクライアント。
- ・ サポート対象の認定シンクライアントは以下のとおりです：
 - ・ Wyse C10LE
 - ・ Wyse R10L
 - ・ Wyse R90L7

- ・ Wyse R90LE
- ・ Wyse Xenith
- ・ Wyse Xenith Pro
- ・ 10ZiG 5682v/5672v
- ・ 10ZiG 5617v
- ・ 10ZiG 5616v
- ・ Devon IT TC5Xc
- ・ Devon IT TC5Dc
- ・ OptiPlex FX130
- ・ OptiPlex FX170
- ・ Hewlett-Packard t5740e

安全なリモート接続

以下の製品では、ユーザーデバイスから仮想デスクトップへの安全なリモート接続がサポートされます。

- ・ Citrix Access Gateway VPX 5.0.4
- ・ Citrix Access Gateway 9.3 Enterprise Edition

仮想デスクトップオペレーティングシステム

- ・ Windows XP Service Pack 3 (Professional Edition) 32ビット版
- ・ Windows 7 Service Pack 1 (ProfessionalおよびEnterprise Edition) 32ビットまたは64ビット版

Windows 7 Nはサポートされません。

仮想デスクトップにアクセスするには、Windows Virtual Desktop Accessのボリュームライセンスが必要です。ライセンスについて詳しくは、<https://www.microsoft.com>を参照してください。

必要なシステムリソース

VDI-in-a-Box環境の規模を決定するためのCPU、メモリ、およびディスクの割り当ての推奨値を以下に示します。これらの推奨値は、平均的なタスクワーカーのデスクトップに基づいたものであり、デスクトップのニーズによって異なる場合があります。

- ・ VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス

- ・ 1 GBのRAM
- ・ 40GBの空きディスクスペース（必要に応じて増減可能）
- ・ CPUの要件
 - ・ ハイパーバイザーのベンダーから提供されるガイドラインを参照してください。一般的に目安としては、CPUコアごとのデスクトップの最大数は6~10です（タスクワーカーの場合は10、ナレッジワーカーの場合は8、ヘビーユーザーの場合は6）。プロセッサのハイパースレッディングテクノロジーが有効で、十分なRAMと、IOPS（Input/Output Operations Per Second）が高い十分な容量を持つディスクを備えているサーバーでは、多くのデスクトップをサポートできます。
- ・ メモリの要件

各サーバーに必要なメモリは、そのサーバー上で各仮想デスクトップを実行するためのメモリと、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）の実行に必要なメモリの合計となります。

- ・ ハイパーバイザー用に、1GBを確保してください。
- ・ 各Windows 7デスクトップ用に、1.5GB以上が推奨されます。
- ・ 各Windows XPデスクトップ用に、0.5GB以上が推奨されます。
- ・ たとえば、サーバー上で50個のデスクトップを実行し、各デスクトップに1GBのメモリを割り当てる場合、サーバーに必要なメモリの内訳はハイパーバイザーに1GB、vdiManagerに1GB、50個の仮想デスクトップにそれぞれ1GBとなります。さらに、サーバー自体の実行を考慮に入れて10%追加する必要があります。つまり、このサーバーでは59GBのメモリが必要です。この結果から、64GBのサーバーを使用することができます。

注：システムが十分なRAMを備えていることを確認してください。十分なRAMがないと、仮想デスクトップのプロビジョニングに大変時間がかかり、プロビジョニングされたデスクトップの応答時間が低下します。

- ・ ディスクサイズの要件（シンプロビジョニングが有効なCitrix XenServer、およびVMware ESXiの場合）

各サーバーに必要なディスクサイズは、デスクトップイメージの格納、仮想デスクトップの実行、およびvdiManagerの使用に必要なディスクスペースの合計となります。

- ・ VDI-in-a-Boxは、イメージの複数のバージョンを保持するために、最大でデスクトップイメージのサイズの2倍を使用します。
- ・ VDI-in-a-Boxで使用される複製テクノロジーでは、通常、元のデスクトップイメージのディスクサイズの15%が各仮想デスクトップで必要になります。ただし、永続デスクトップでは、元のディスクサイズの100%が使用されます。このため、必要なディスクサイズを以下のように計算できます。
- ・ デフォルトでは、vdiManagerは74GBのディスクスペースが必要な構成になっているので、最大で60GBのサイズのデスクトップイメージをサポートできます。

例1：ホスト上にそれぞれディスクスペースが20GBの3つのイメージを含む非永続デスクトップが25個ある場合、少なくとも269GB [(2×3×20) + 25× (20GBの15%) + 74] が必要になります。

例2：20GBの公開イメージ3つ、非永続デスクトップ15個、永続デスクトップ10個を含むサーバーには、439GB [(2×3×20) + 15× (20GBの15%) + 10× (20GBの100%) + 74] が必要になります。

- ・ ベストプラクティスとしては、ある程度の追加スペースを用意します。サーバーごとに450GB～500GBのディスクサイズを使用することをお勧めします。
- ・ ディスクサイズの要件（シンプロビジョニングを備えていない、またはシンプロビジョニングが無効なCitrix XenServerの場合)
 - ・ vdiManagerによって管理される各仮想デスクトップは、Citrix XenServerホスト上のディスクスペースの予約分の100%を必要とします。たとえば、デスクトップイメージのディスクスペースが20GBで、仮想デスクトップが1GBのRAMで構成されている場合、各仮想デスクトップで利用される合計ディスクスペースは20GB（20GBの100%）です。

例：Citrix XenServerホスト上にそれぞれディスクスペースが20GBの3つのイメージを含む仮想デスクトップが25個ある場合、VDI-in-a-Boxグリッドの設定後に使用可能な空きディスクスペースが少なくとも694GB [(2×3×20) + 25× (20GBの100%) + 74] が必要になります。ベストプラクティスとしては、ある程度の追加スペースを用意します。サーバーごとに1TBのディスクサイズを使用することをお勧めします。

- ・ ディスクサイズの要件（Microsoft Hyper-Vの場合)
 - ・ vdiManagerには、60GB以上の空きディスクスペースが必要です。
- ・ ディスクの種類
 - ・ デスクトップのスループットをサポートするには、25以上のデスクトップを実行するホストには4つ以上のディスク、50以上のデスクトップを実行するホストには6～8つ以上のディスクを使用することをお勧めします。
 - ・ VDI-in-a-Boxが提供する冗長性をサポートするために、RAID 0構成またはRAID 1 + 0構成が推奨されます。
 - ・ 10KのSAS（Serial Attached SCSI）またはそれより高速のハードドライブをお勧めします。

VDI-in-a-Boxを導入する前に

Citrix VDI-in-a-Boxをインストール、構成、および使用する前に、以下のものを用意する必要があります。

- ・ 以下のハイパーバイザーシステムのいずれかを実行している1台または複数のサーバー（およびそのシステムの管理ツール）
 - ・ Citrix XenServer/XenCenter
 - ・ Microsoft Hyper-V/Hyper-V Manager
 - ・ VMware ESXi/vSphere Client
- ・ Windowsボリュームライセンス
- ・ DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバー

VDI-in-a-Boxについて

ここでは、Windowsオペレーティングシステムのイメージを使用して、ハイパーバイザー上にCitrix VDI-in-a-Boxグリッドを作成する手順について説明します。以下のシナリオが対象となります。

- ・ [Citrix XenServerでのWindows 7イメージの使用](#)
- ・ [Citrix XenServerでのWindows XPイメージの使用](#)
- ・ [Microsoft Hyper-VでのWindows 7イメージの使用](#)
- ・ [Microsoft Hyper-VでのWindows XPイメージの使用](#)
- ・ [VMware ESXiでのWindows 7イメージの使用](#)
- ・ [VMware ESXiでのWindows XPイメージの使用](#)

Citrix XenServerでのWindows 7イメージの使用

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドの作成と構成](#)
- ・ [最初のWindowsイメージの作成](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) はVDI-in-a-Box仮想アプライアンスとして提供されています。この仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Citrix XenServerにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_XenServer_v5_0_2.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_Xen_v5_0_2.xvaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約1.9GBの空きディスクスペースが必要です。

注：Citrix XenCenterからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. [Downloads] をクリックします。
3. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
4. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
5. 登録フォームに必要事項を入力して、[Get Trial] をクリックします。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
6. 連絡先の情報を確認し、必要な場合は修正して、[Submit] をクリックします。サポートされる各ハイパーバイザーに対応したダウンロードパッケージへのリンクのページが開きます。

注：登録フォームに入力したメールアドレスには、これらのリンクが含まれた電子メールも送信されます。
7. [VDI-in-a-Box 5.0.2 for Citrix XenServer] をクリックします。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
8. [Download Now] をクリックします。
9. 必要に応じてCitrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_XenServer_v5_0_2.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
10. ZIPファイルから、vdiManager_Xen_v5_0_2.xvaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_Xen_v5_0_2.xvaを抽出したら、この仮想アプライアンスをCitrix XenCenterを使用してXenServer上にインポートします。XenCenterでの仮想アプライアンスのインポートについては、XenServerのドキュメントを参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはXenCenter管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドの作成と構成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

ハイパーバイザーとvdiManagerには、IPアドレスを使用することをお勧めします。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注： vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。

2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。 [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。

5.

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Are you migrating an existing 4.1 Kaviza Manager? [Migrate it to this VDI-in-a-Box Manager](#)

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

-  Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
-  Generate a Base Desktop Image
-  Create Desktop Templates from the Base Image
-  Assign Users to Desktops

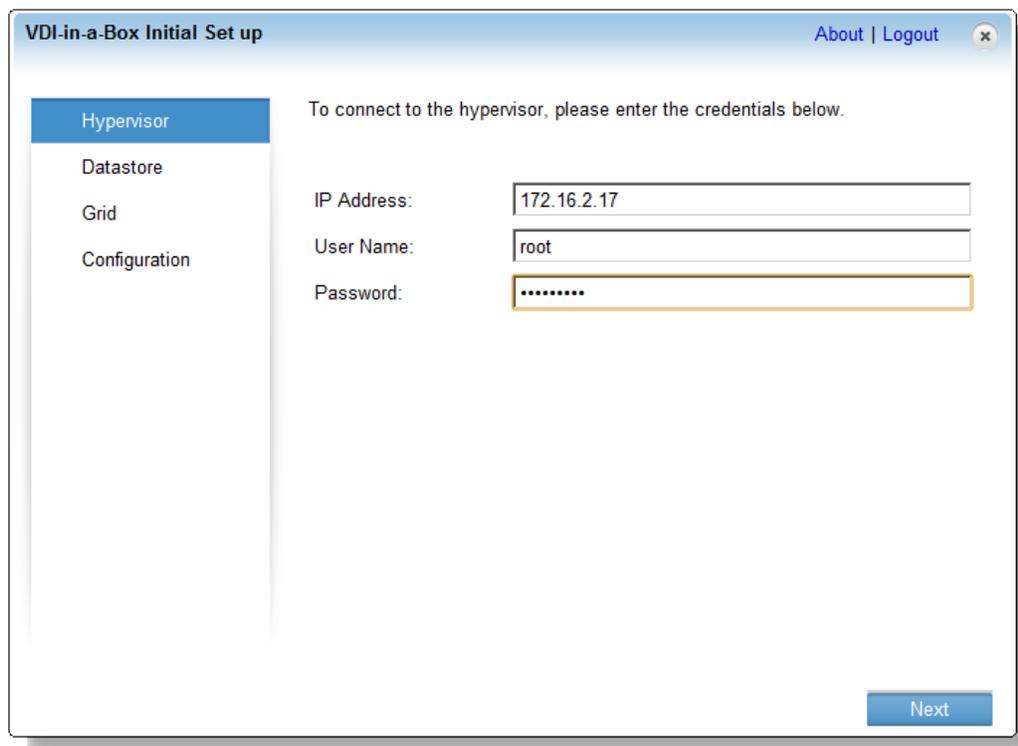
[Get Started](#)

[パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。Set up Hypervisor and VDI-in-a-Box Gridページが開きます。

2.



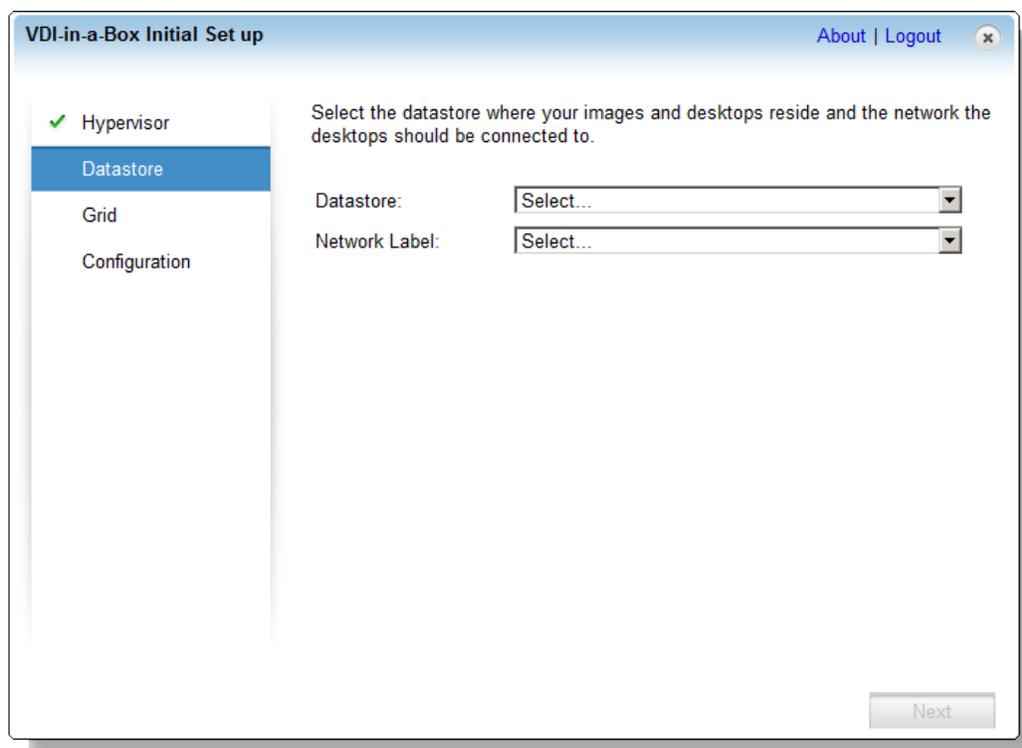
[続ける] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

1.



[Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。

2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のグリッドまたは既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [New Grid Name] ボックスに、新しいグリッドの名前を入力します。
- 3.

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration

New Grid Name: EasternGrid

User Database: VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

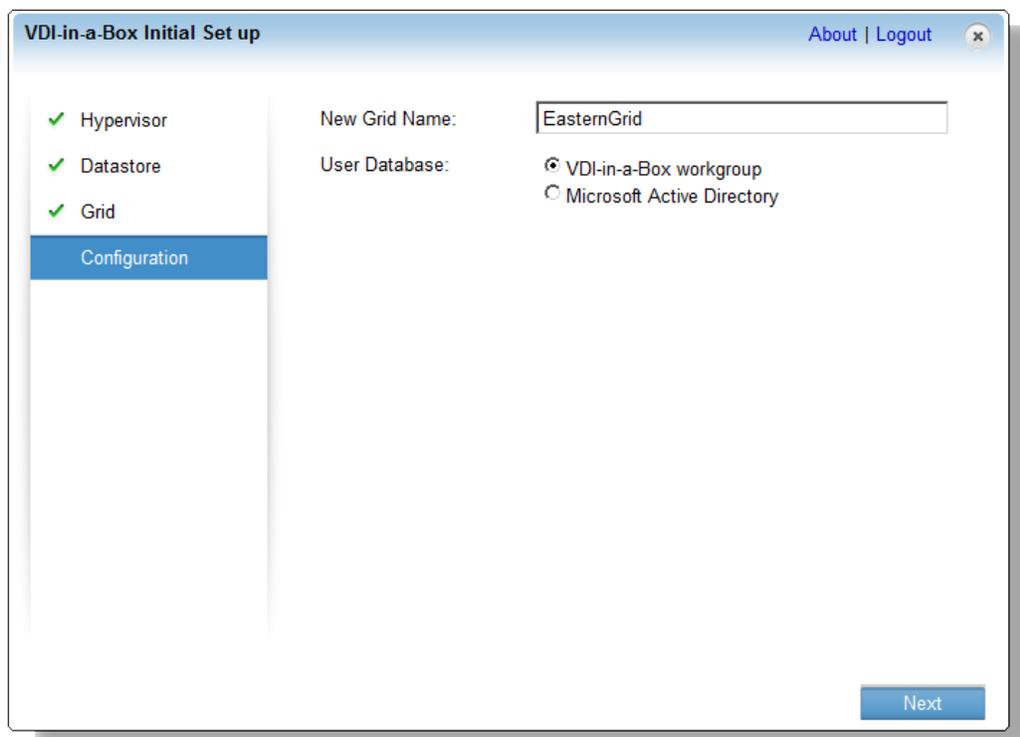
IP Address: 172.16.1.23

Domain: <domain.com>

Username: administrator

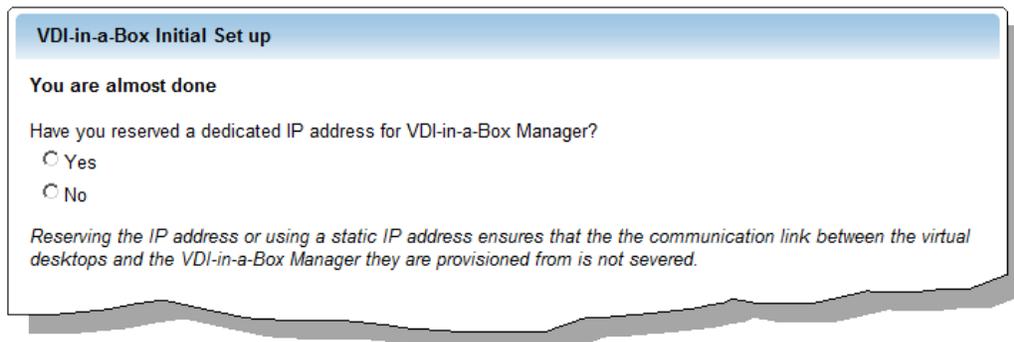
Password:

Next



[User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

4. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
6. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 7.



[次へ] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。

8. VDI-in-a-Boxマネージャー用のIPアドレスを予約してある場合は [Yes] 、予約していない場合は [No] を選択し、 [Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、Join a VDI-in-a-Box server on an existing gridを選択し、 [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードのDatabaseページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作しているvdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージの作成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシンにMicrosoft .Net Framework 3.5 SP1がインストールされ、有効になっている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
4. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

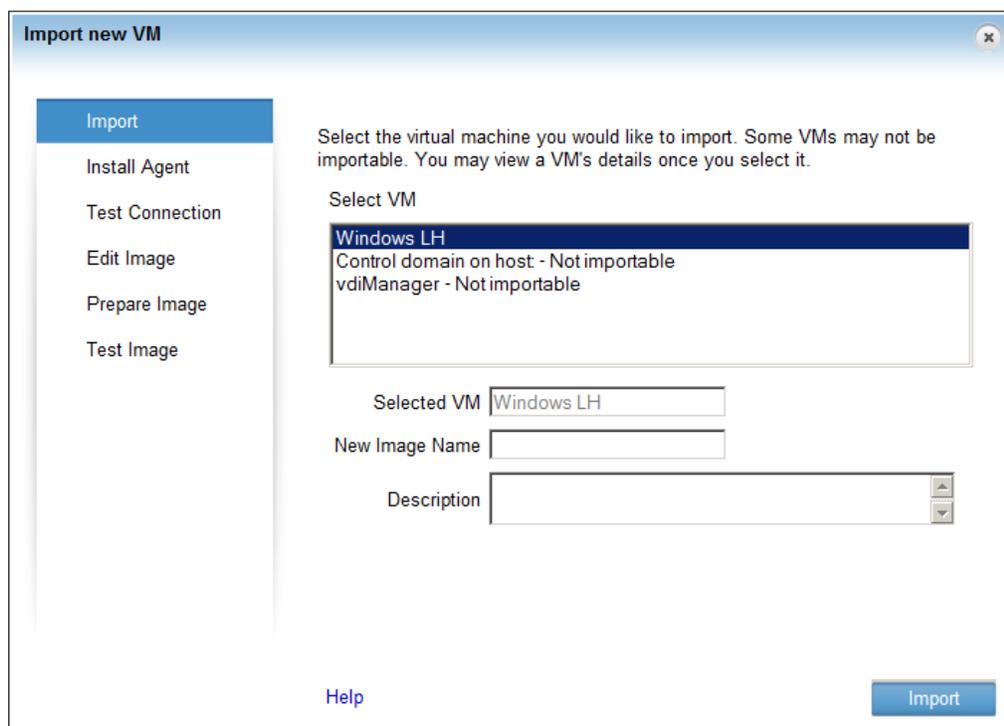
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

5. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
6. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォールの設定を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
- 2.



-
-
3. [Import] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。
[New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。

注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。

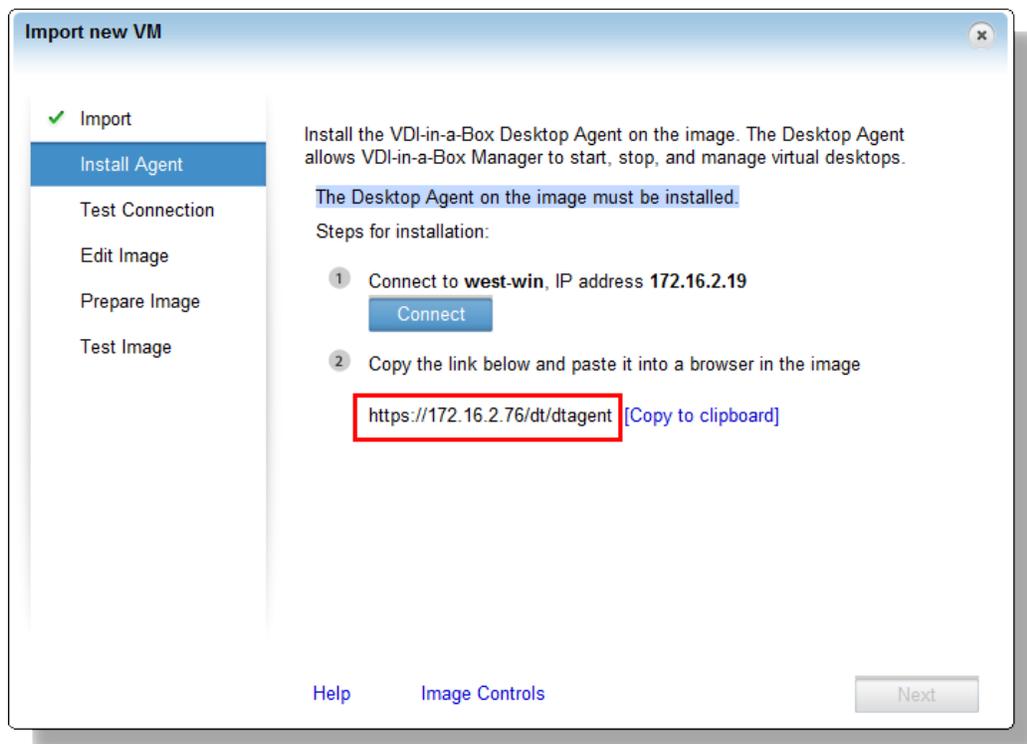
-
-
-
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。インポート処理が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。インポート処理が完了すると、Import new VMウィザードの [Install Agent] ページが開きます。

VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールするには

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

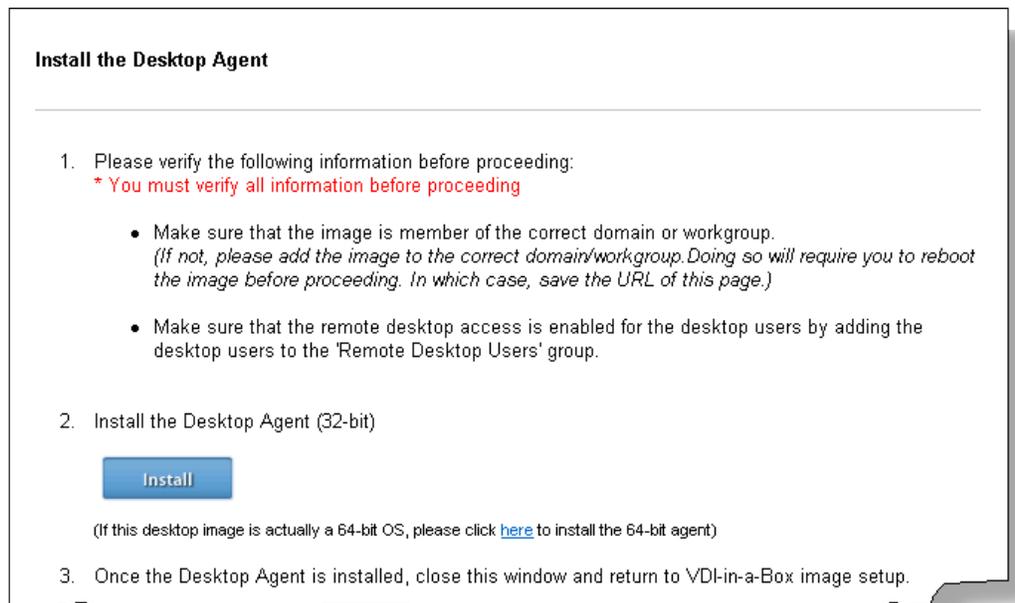
1.



[Install Agent] ページで、Desktop Agentのアドレス（`https://<IPaddress>/dt/dtagent/`）を選択してクリップボードにコピーします。

2. [Connect] をクリックします。イメージに対するRDP接続が確立されます。
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、次の操作を行います：
 - a. イメージが、目的のドメインまたはワークグループのメンバーであることを確認します。
 - b. デスクトップユーザーをイメージのRemote Desktop Usersグループに追加して、リモートデスクトップアクセスを有効にします。
4. イメージのWebブラウザを起動して、手順1.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押します。これにより、VDI-in-a-Box Desktop Agentのインストールページが開きます。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

5.



証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。

6. [Install the Desktop Agent] ページで、 [Install] をクリックします。

注： インストールに失敗した場合は、 [here](#) をクリックして、別の方法でインストールします。

[ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。

7. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。必要なソフトウェアをインストールするためのウィザードが起動します。

8. [次へ] をクリックします。 [Prerequisites] ページが開きます。

9. [Prerequisites] ページでは、そのまま [次へ] をクリックします。

10. ライセンス契約書を読み、同意することを選択して、 [インストール] をクリックします。いくつかのウィンドウが開き、自動的に閉じます。インストールウィザードの完了を示すメッセージが表示されます。

11. [完了] をクリックします。Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setupウィザードが起動します。

12. [次へ] をクリックします。 [Ready to Install] ページが開きます。

13. [Install] をクリックします。インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。

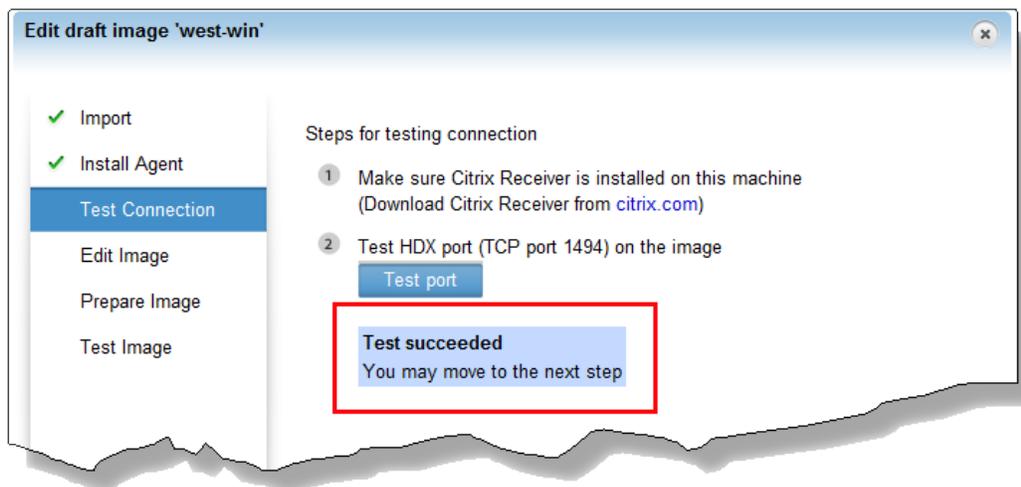
14. メッセージが表示されているダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。 [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページが開きます。

15. [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページで、 [Finish] をクリックします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
16. [次へ] をクリックします。 [Test Connection] ページが開きます。

接続をテストするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールを表示しているコンピューターにCitrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」) がインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。

2.



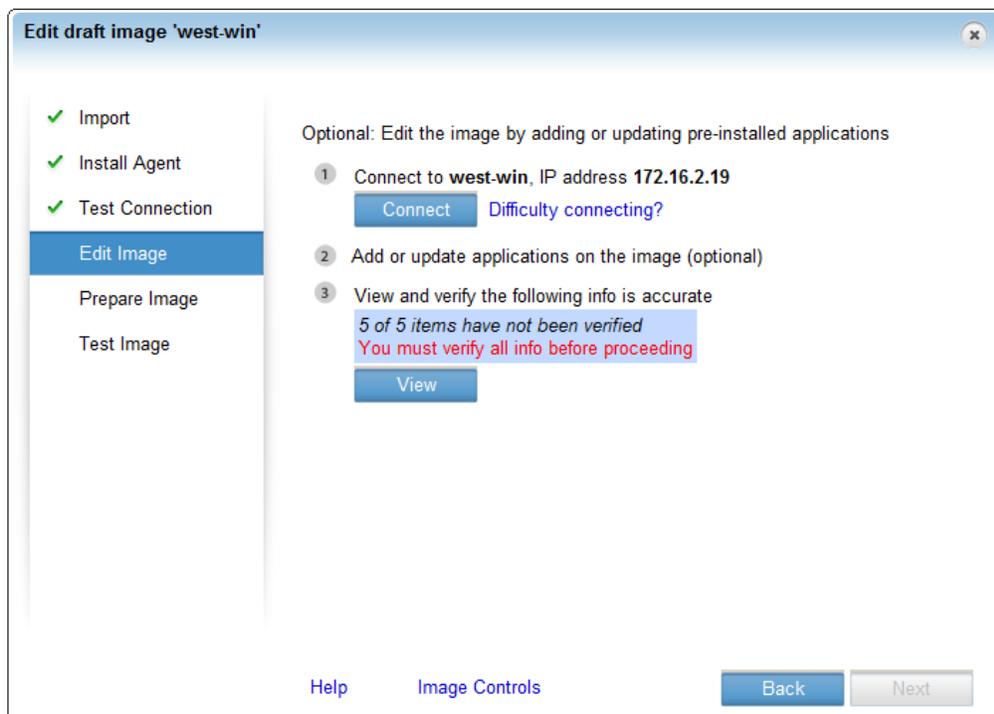
[Test Connection] ページで、 [Test ports] をクリックして接続をテストします。テストの結果を示すメッセージが表示されます。修正が必要な場合は、その手順がメッセージに表示されます。

3. [次へ] をクリックします。 [Edit Image] ページが開きます。

ドラフトイメージを編集するには

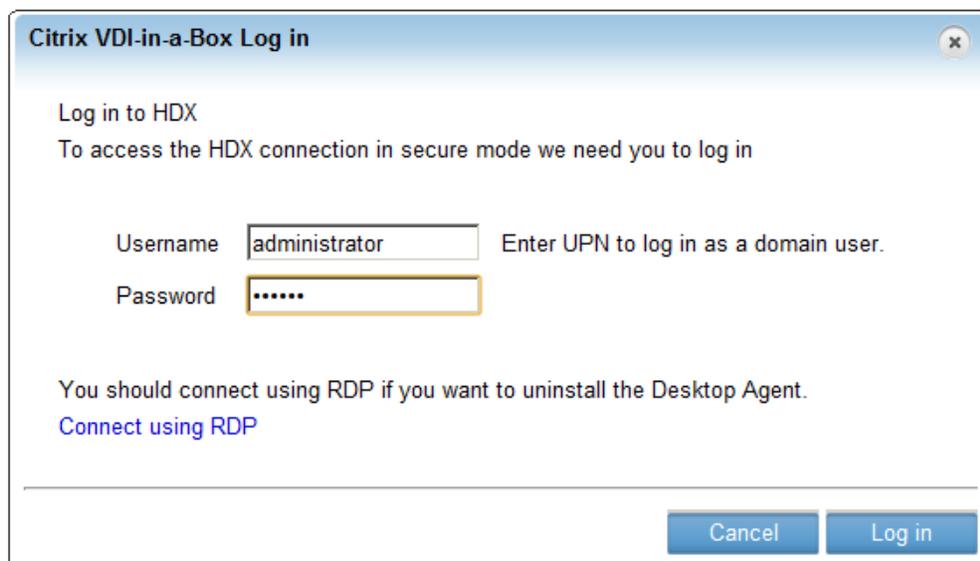
エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが用意されています。

1.



[Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

2.



[Log in to HDX] ダイアログボックスにイメージ用の管理者の資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。

3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。

4. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

5. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
6. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
7. [次へ] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

The screenshot shows the 'Edit draft image' window with the 'Prepare Image' step selected. The left sidebar lists 'Import', 'Install Agent', 'Test Connection', 'Edit Image', 'Prepare Image', and 'Test Image'. The main area contains the following fields and options:

- Use information from a prior preparation
- Domain and Organizational Unit (OU) information. Domain user must have privileges to add and remove computers in the domain.
- Domain name: (example: example.com)
- Domain administrator:
- Domain password:
- Organizational unit (OU): (optional, example: OU=finance,DC=example,DC=com)
- Time zone:
- Computer name prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

The screenshot shows the 'Test Image' step. The left sidebar lists 'Test Image'. The main area contains the following fields and options:

- prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile
- Activation method: using MAK key using KMS key
- Device drivers: Reinstall device drivers during sysprep
- Fast desktop refresh: Enable fast refresh of desktops on user logout
- Windows 7 desktops must be set up with proper volume licensing. Click the "Prepare" button to proceed.

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

epare Image] ページでは、Microsoft System Preparation Utility (Sysprep) の実行に必要な情報を入力します。

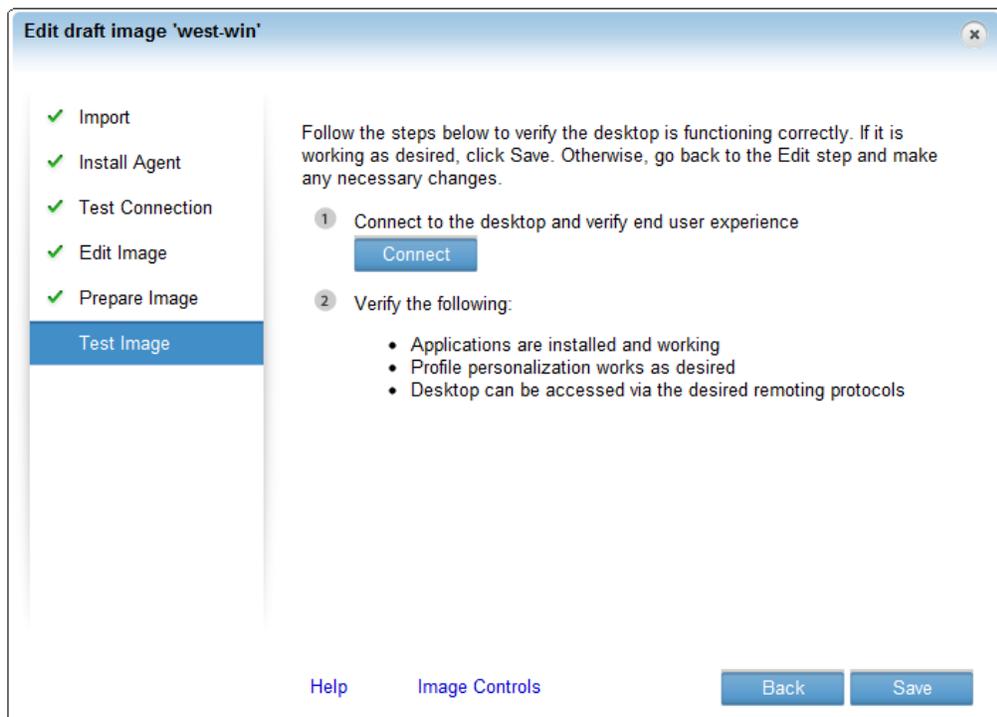
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスに、vdibox.comなどのドメイン名を入力します。
2. [Domain administrator] ボックスに、管理者のアカウント名を入力します。
注：使用する管理者のアカウントに、ドメイン内でコンピューターを追加および削除する権限が与えられていることを確認してください。
3. [Domain password] ボックスに、管理者のドメイン用パスワードを入力します。
4. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
5. [Time zone] ボックスの一覧から、適切なタイムゾーンを選択します。
6. [Computer name prefix] ボックスにプレフィックスを入力するか、[Default] をクリックします。
7. [Copy profile] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、ローカルの管理者のプロファイルがデフォルトのプロファイルとして設定されます。
8. [Activation method] では、適切なライセンス認証の方法として [using MAK Key] または [Using KMS key] を選択します。不明な場合は、MAKキーを使用してください。
9. [Device drivers] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、Sysprepの実行時にデバイスドライバーが再インストールされます。
10. [Fast desktop refresh] のチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速に更新されるようになります。
11. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。処理が完了すると、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

デスクトップを生成可能なイメージであるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証するために、これまでの手順で準備したイメージをテストします。

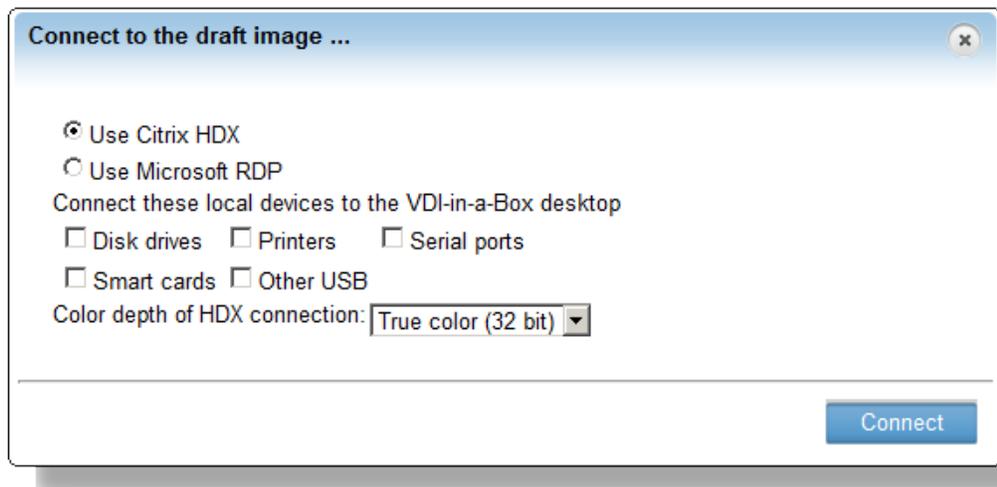
注：テストしたイメージ候補 (Candidate) を保存すると、このテスト中に生成されたテストイメージは削除されます。

1.



[Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。

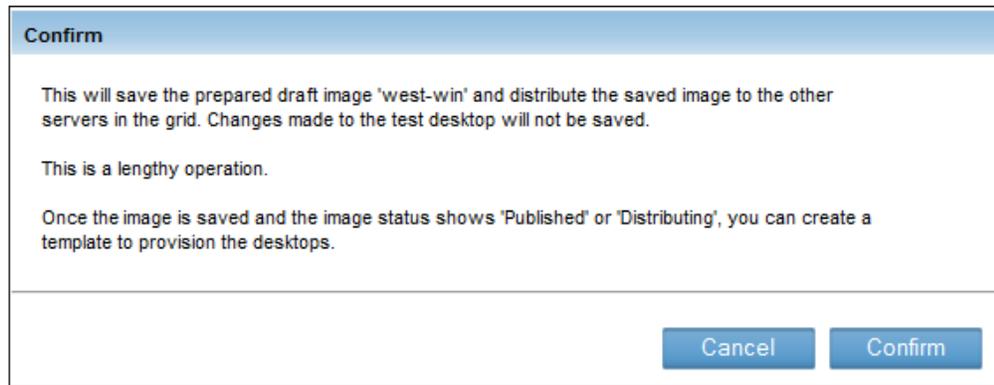
2.



[Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。

3. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスにイメージ用のユーザーの資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。

6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
8. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
9. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。
- 10.



[Test Image] ページで [Save] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

11. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。[Create Desktop Templates] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを 作成するには

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージの作成](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、何台のデスクトップを作成するのか、デスクトップにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1.

Please provide the following info:

Template Name:

Image Name: [View image details](#)

VM Prefix:

Description:

Memory (MB):

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB

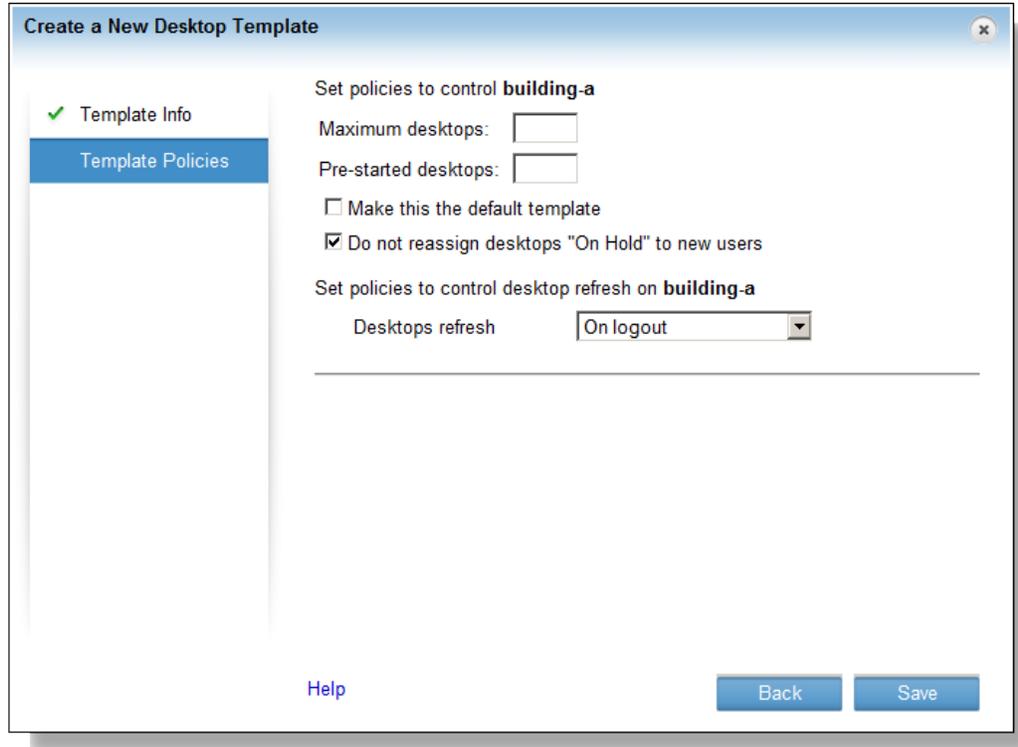
Color depth of HDX connection:

[Help](#) [Next](#)

[Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [VM Prefix] ボックスに、プレフィックスを入力します。このテンプレートから生成される仮想デスクトップには、このプレフィックスが使用されます。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注： Windows 7のデスクトップには1536MB以上、Windows XPのデスクトップには512MB以上のメモリを割り当てることをお勧めします。
7. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
8. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

9.



[次へ] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

10. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。

11. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。

注：テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

12. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

13. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

14. [Desktops refresh] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元（リフレッシュ）するタイミングを指定します。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。

15. [Save] をクリックします。

16. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じテンプレートが使用されます。

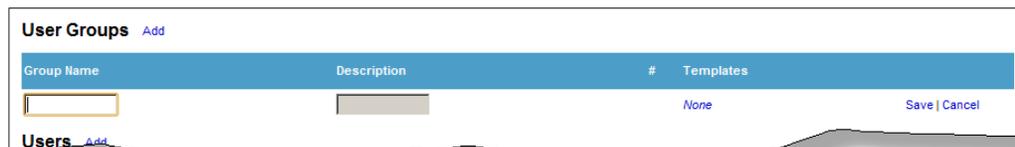
テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開き、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。

2.

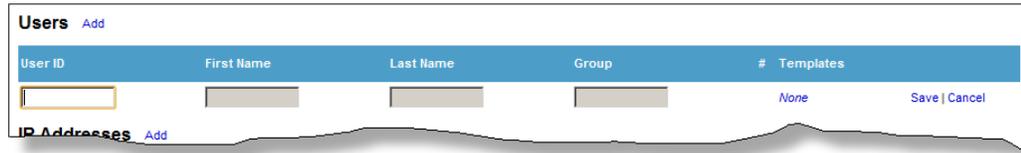


ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。
注：ここでは、Domain AdminsやDomain UsersなどのActive Directoryセキュリティグループの名前を指定することはできません。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1.



User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	None

ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がデータベースに格納されている場合は、[Save] をクリックしたときにこれらの情報が自動的に入力されます。

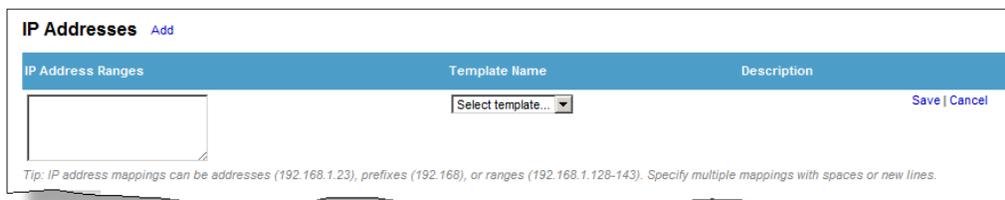
3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。

5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1.



The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". To the right of the table are "Save" and "Cancel" buttons. Below the table, there is a tip: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）、Java Runtime Environment（JRE）、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントの最新バージョンをインストールしておく必要があります。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、JREの最新バージョンがインストールされていることを確認し、HDX接続を利用するためにCitrix Receiverもインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 1.6以降がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注： JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。 仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. VDI-in-a-Box Java Desktop Client ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Citrix XenServerでのWindows XPイメージの使用

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドの作成と構成](#)
- ・ [最初のWindowsイメージの作成](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) はVDI-in-a-Box仮想アプライアンスとして提供されています。この仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Citrix XenServerにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_XenServer_v5_0_2.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_Xen_v5_0_2.xvaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約1.9GBの空きディスクスペースが必要です。

注：Citrix XenCenterからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. [Downloads] をクリックします。
3. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
4. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
5. 登録フォームに必要事項を入力して、[Get Trial] をクリックします。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
6. 連絡先の情報を確認し、必要な場合は修正して、[Submit] をクリックします。サポートされる各ハイパーバイザーに対応したダウンロードパッケージへのリンクのページが開きます。

注：登録フォームに入力したメールアドレスには、これらのリンクが含まれた電子メールも送信されます。
7. [VDI-in-a-Box 5.0.2 for Citrix XenServer] をクリックします。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
8. [Download Now] をクリックします。
9. 必要に応じてCitrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_XenServer_v5_0_2.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
10. ZIPファイルから、vdiManager_Xen_v5_0_2.xvaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_Xen_v5_0_2.xvaを抽出したら、この仮想アプライアンスをCitrix XenCenterを使用してXenServer上にインポートします。XenCenterでの仮想アプライアンスのインポートについては、XenServerのドキュメントを参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはXenCenter管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要： ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドの作成と構成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

ハイパーバイザーとvdiManagerには、IPアドレスを使用することをお勧めします。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。

2. WebブラウザーのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。

5.

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Are you migrating an existing 4.1 Kaviza Manager? [Migrate it to this VDI-in-a-Box Manager](#)

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

-  Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
-  Generate a Base Desktop Image
-  Create Desktop Templates from the Base Image
-  Assign Users to Desktops

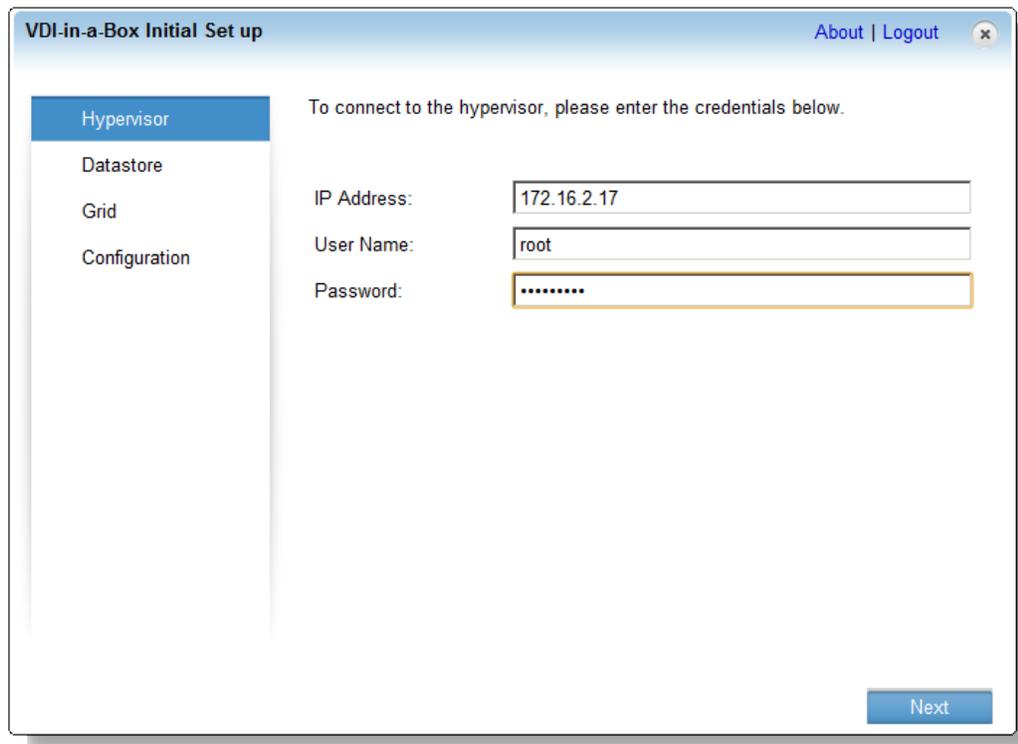
[Get Started](#)

[パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。Set up Hypervisor and VDI-in-a-Box Gridページが開きます。

2.



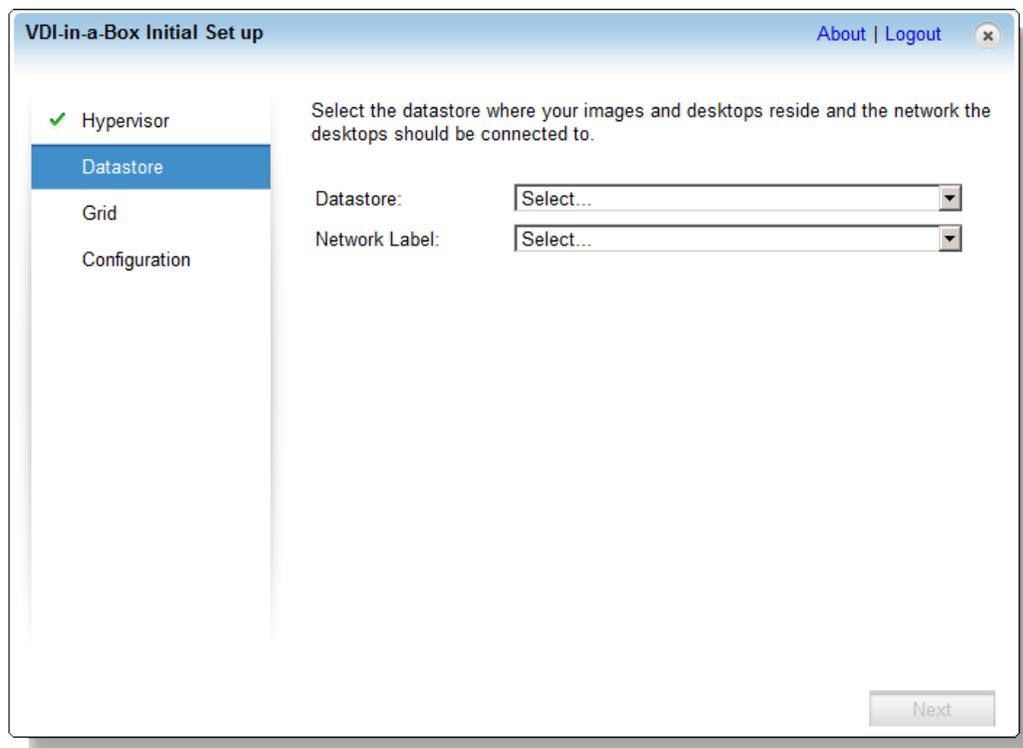
[続ける] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

1.



[Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。

2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のグリッドまたは既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [New Grid Name] ボックスに、新しいグリッドの名前を入力します。
- 3.

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration

New Grid Name: EasternGrid

User Database: VDI-in-a-Box workgroup Microsoft Active Directory

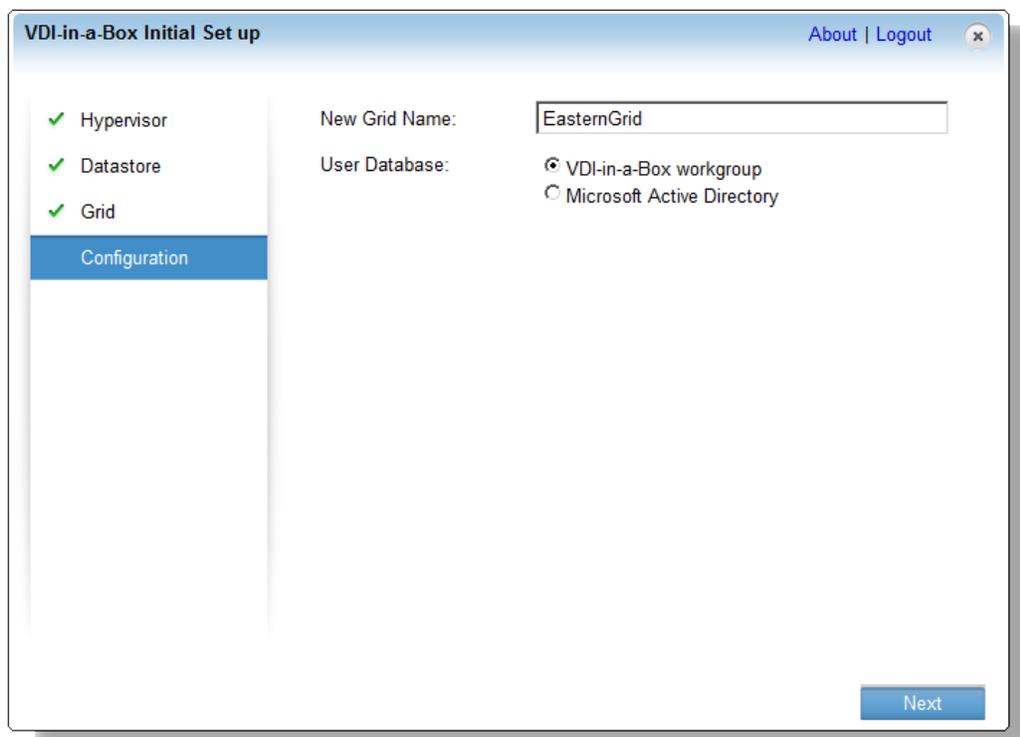
IP Address: 172.16.1.23

Domain: <domain.com>

Username: administrator

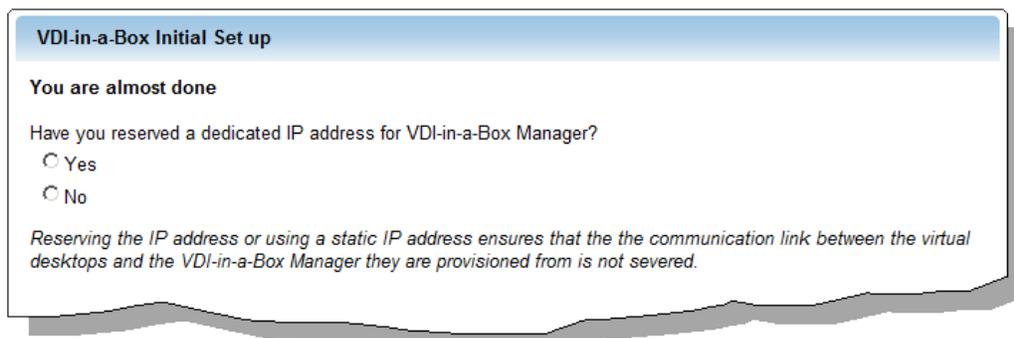
Password:

Next



[User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

4. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
6. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 7.



[次へ] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。

8. VDI-in-a-Boxマネージャー用のIPアドレスを予約してある場合は [Yes] 、予約していない場合は [No] を選択し、 [Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、Join a VDI-in-a-Box server on an existing gridを選択し、 [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードのDatabaseページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作しているvdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージの作成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシンにMicrosoft .Net Framework 3.5 SP1がインストールされ、有効になっている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
2. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

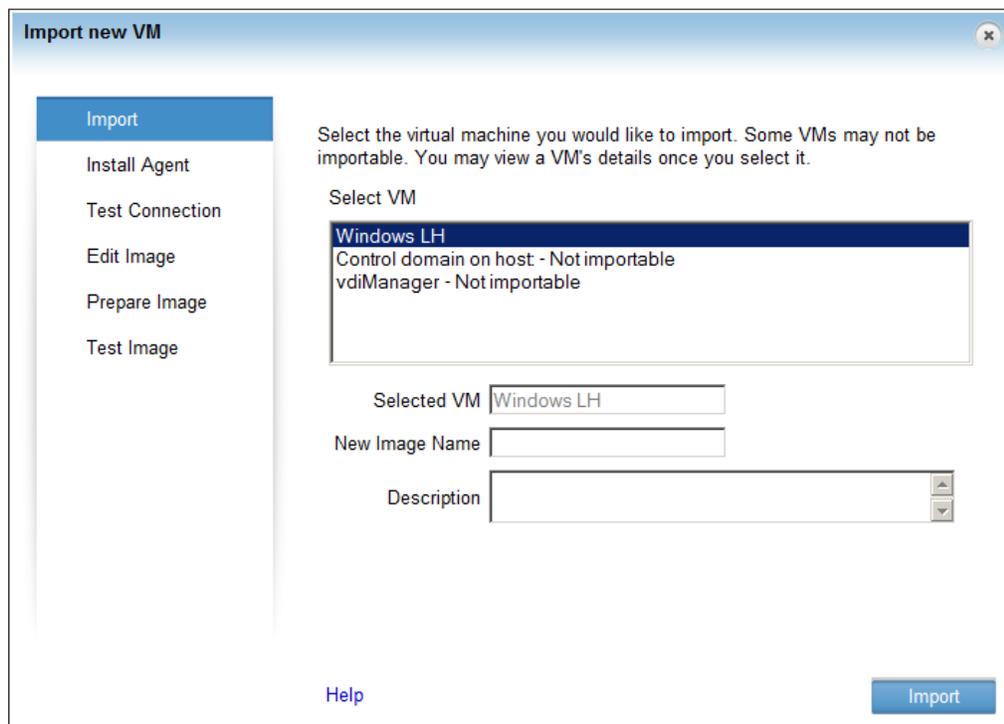
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
4. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォールの設定を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
- 2.



-
-
3. [Import] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。
[New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。

注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。

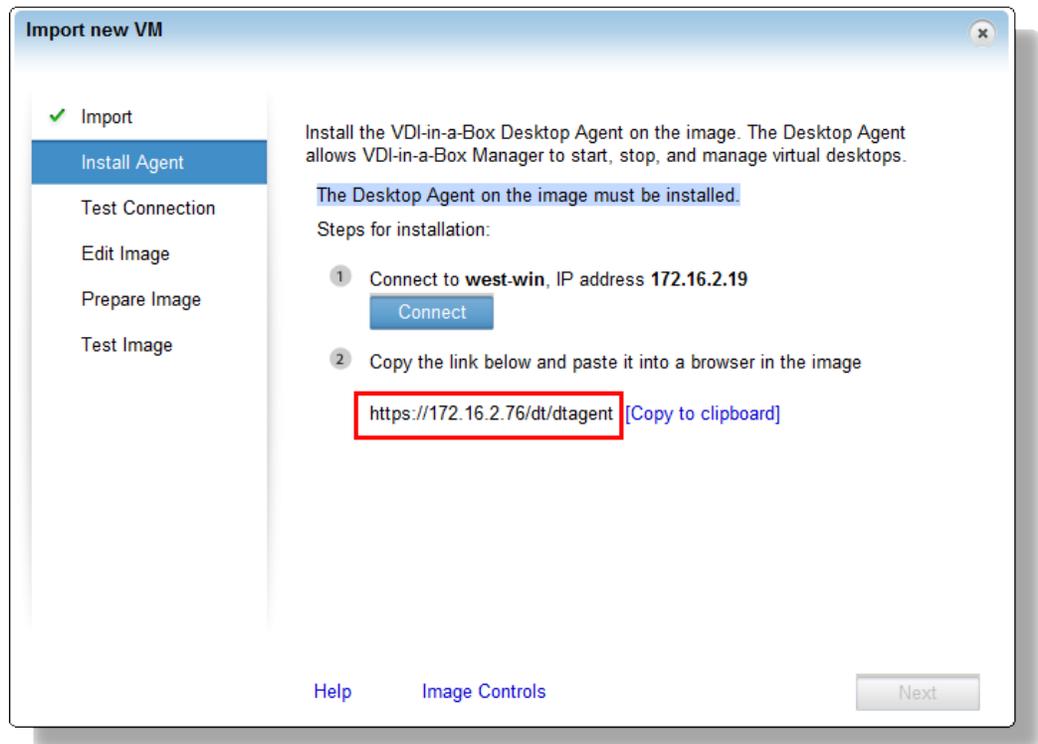
-
-
-
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。インポート処理が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。インポート処理が完了すると、Import new VMウィザードの [Install Agent] ページが開きます。

VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールするには

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1.



[Install Agent] ページで、Desktop Agentのアドレス（`https://<IPaddress>/dt/dtagent/`）を選択してクリップボードにコピーします。

2. [Connect] をクリックします。イメージに対するRDP接続が確立されます。

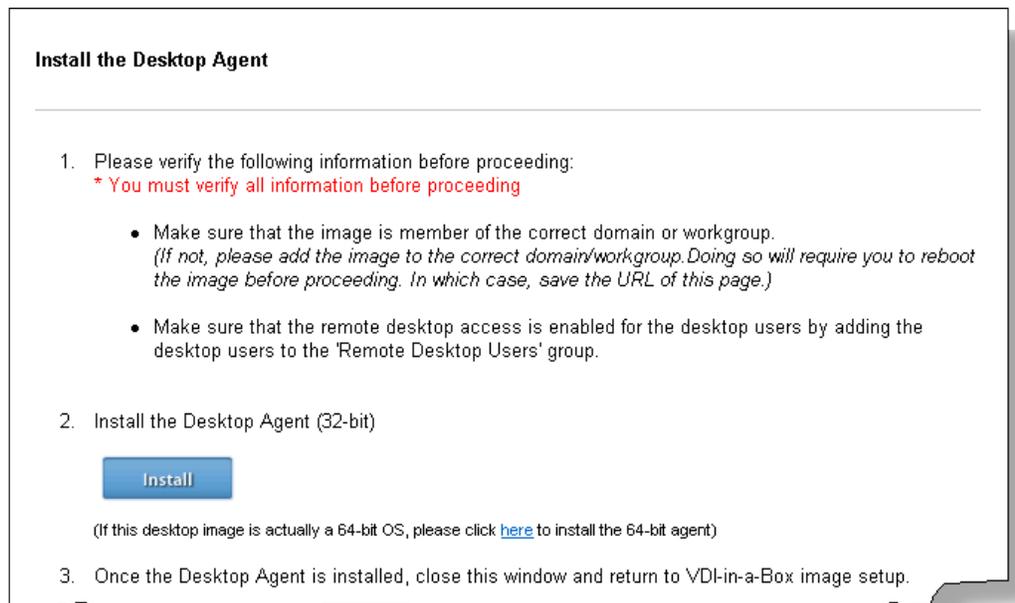
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、次の操作を行います：

a. イメージが、目的のドメインまたはワークグループのメンバーであることを確認します。

b. デスクトップユーザーをイメージのRemote Desktop Usersグループに追加して、リモートデスクトップアクセスを有効にします。

4. イメージのWebブラウザを起動して、手順1.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押します。これにより、VDI-in-a-Box Desktop Agentのインストールページが開きます。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

5.



証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。

6. [Install the Desktop Agent] ページで、 [Install] をクリックします。

注： インストールに失敗した場合は、 [here](#) をクリックして、別の方法でインストールします。

[ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。

7. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。必要なソフトウェアをインストールするためのウィザードが起動します。

8. [次へ] をクリックします。 [Prerequisites] ページが開きます。

9. [Prerequisites] ページでは、そのまま [次へ] をクリックします。

10. ライセンス契約書を読み、同意することを選択して、 [インストール] をクリックします。いくつかのウィンドウが開き、自動的に閉じます。インストールウィザードの完了を示すメッセージが表示されます。

11. [完了] をクリックします。Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setupウィザードが起動します。

12. [次へ] をクリックします。 [Ready to Install] ページが開きます。

13. [Install] をクリックします。インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。

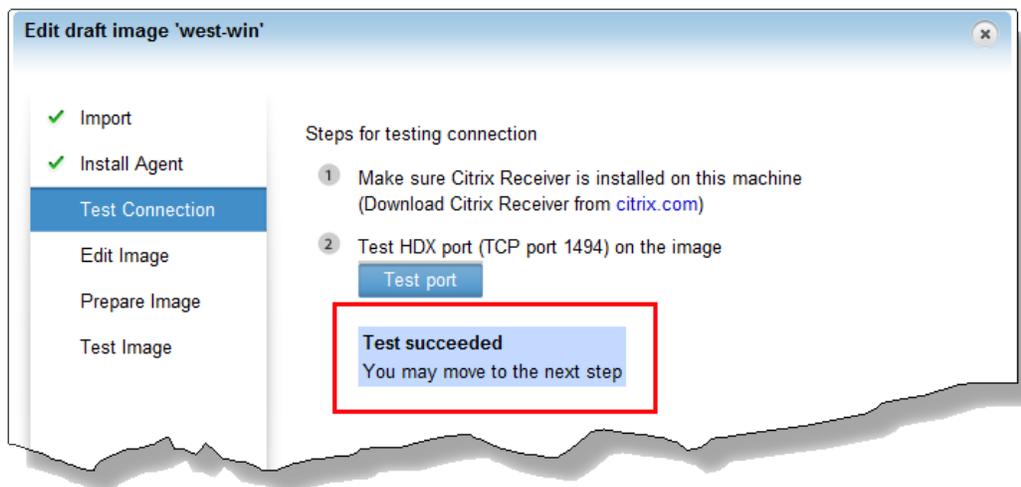
14. メッセージが表示されているダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。 [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページが開きます。

15. [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページで、 [Finish] をクリックします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
16. [次へ] をクリックします。 [Test Connection] ページが開きます。

接続をテストするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールを表示しているコンピューターにCitrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」) がインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。

2.



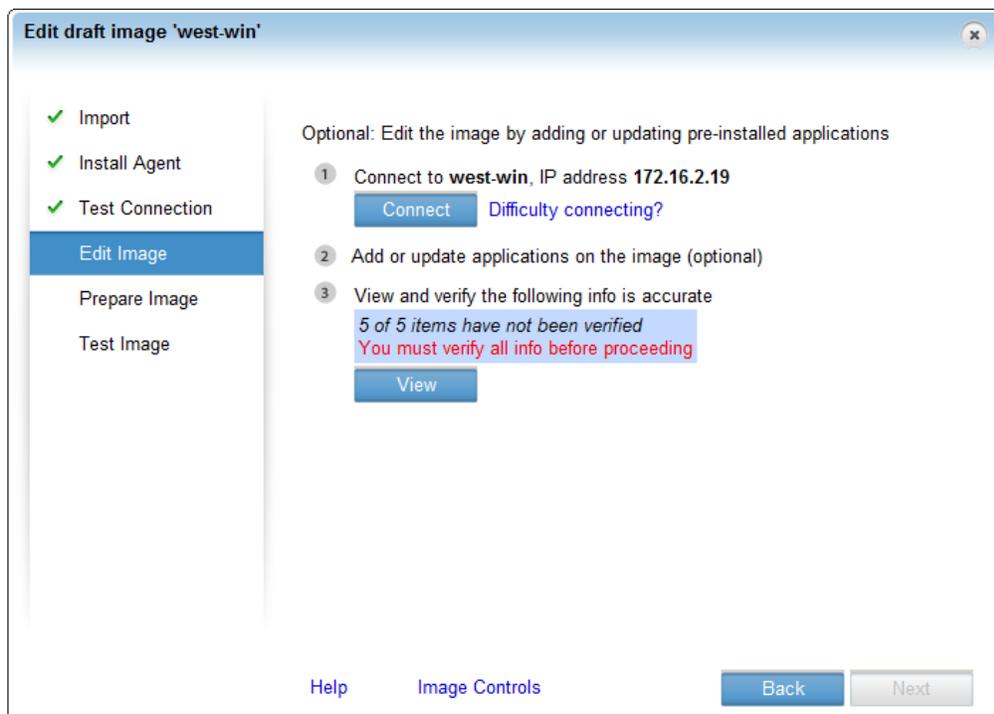
[Test Connection] ページで、 [Test ports] をクリックして接続をテストします。テストの結果を示すメッセージが表示されます。修正が必要な場合は、その手順がメッセージに表示されます。

3. [次へ] をクリックします。 [Edit Image] ページが開きます。

ドラフトイメージを編集するには

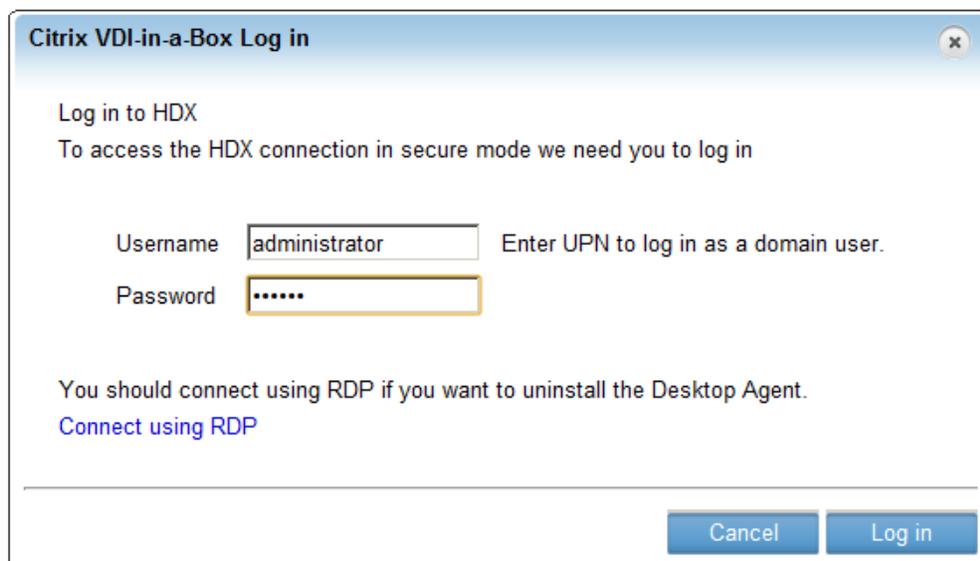
エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが用意されています。

1.



[Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

2.



[Log in to HDX] ダイアログボックスにイメージ用の管理者の資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。

3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。

4. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

5. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
6. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
7. [次へ] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

The screenshot shows the 'Edit draft image' window with the 'Prepare Image' tab selected. The left sidebar shows a list of steps: Import, Install Agent, Test Connection, Edit Image, Prepare Image (highlighted), and Test Image. The main area contains the following fields and options:

- Use information from a prior preparation
- Domain and Organizational Unit (OU) information. Domain user must have privileges to add and remove computers in the domain.
- Domain name: (example: example.com)
- Domain administrator:
- Domain password:
- Organizational unit (OU): (optional, example: OU=finance,DC=example,DC=com)
- Product key is the license string (example: XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX)
- Product key:
- Time zone:
- Computer name:

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

This screenshot shows the 'Prepare Image' tab with additional options visible below the previous fields:

- Computer name prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile
- Fast desktop refresh: Enable fast refresh of desktops on user logout
- Click the "Prepare" button to proceed.

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

[
P

repare Image] ページでは、Microsoft System Preparation Utility (Sysprep) の実行に必要な情報を入力します。

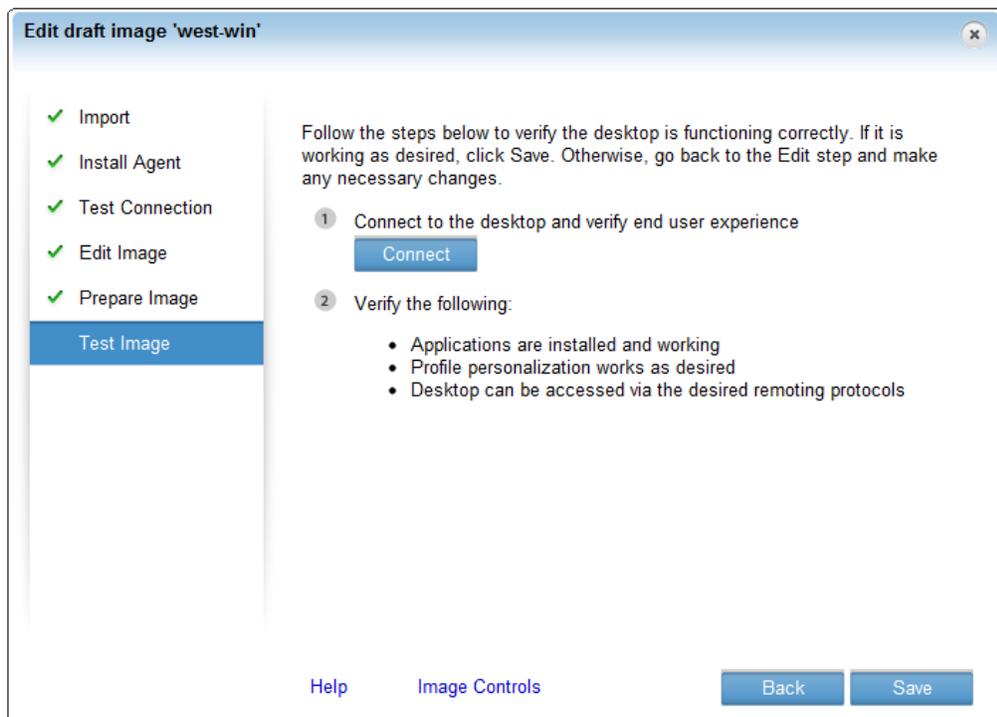
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスに、vdibox.comなどのドメイン名を入力します。
2. [Domain administrator] ボックスに、管理者のアカウント名を入力します。
注：使用する管理者のアカウントに、ドメイン内でコンピューターを追加および削除する権限が与えられていることを確認してください。
3. [Domain password] ボックスに、管理者のドメイン用パスワードを入力します。
4. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
5. [Product key] に、Windowsのプロダクトキーを入力します。
6. [Time zone] ボックスの一覧から、適切なタイムゾーンを選択します。
7. [Computer name prefix] ボックスにプレフィックスを入力するか、[Default] をクリックします。
8. [Copy profile] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、ローカルの管理者のプロファイルがデフォルトのプロファイルとして設定されます。
9. [Fast desktop refresh] のチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速に更新されるようになります。
10. [Prepare] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

デスクトップを生成可能なイメージであるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証するために、これまでの手順で準備したイメージをテストします。

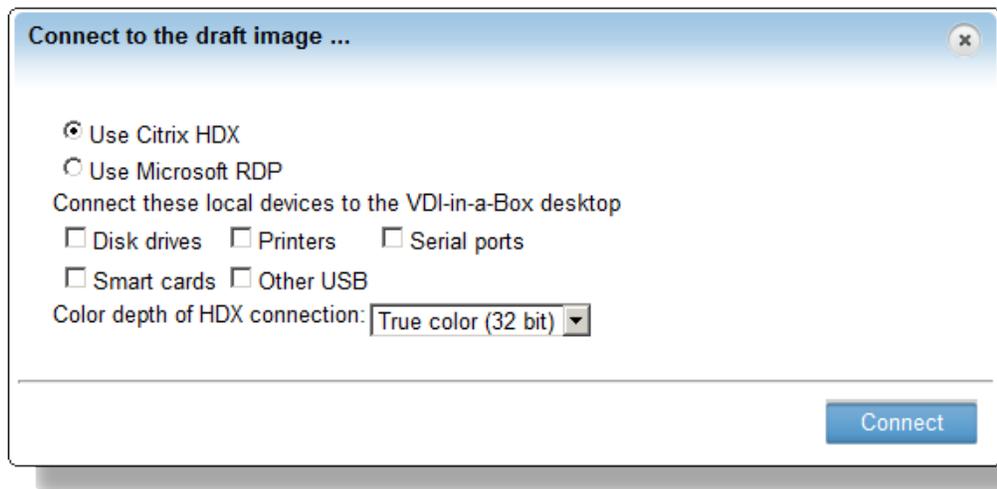
注：テストしたイメージ候補 (Candidate) を保存すると、このテスト中に生成されたテストイメージは削除されます。

1.



[Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。

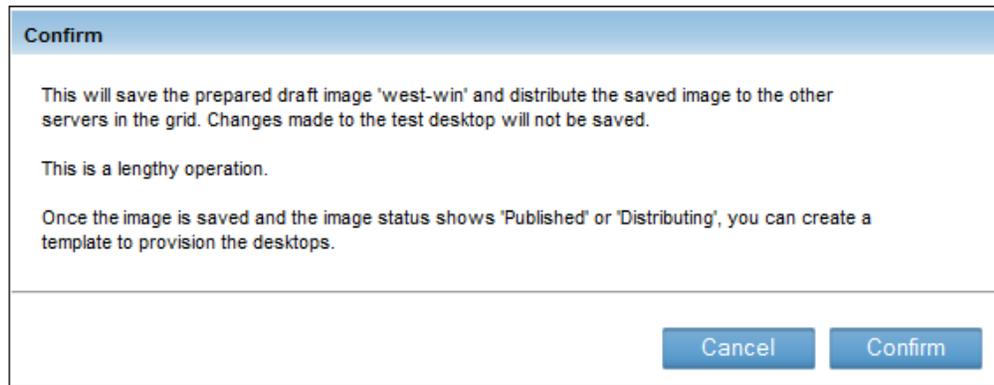
2.



[Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。

3. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスにイメージ用のユーザーの資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。

6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
8. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
9. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。
- 10.



[Test Image] ページで [Save] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

11. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。[Create Desktop Templates] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを 作成するには

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージの作成](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、何台のデスクトップを作成するのか、デスクトップにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1.

Please provide the following info:

Template Name:

Image Name: [View image details](#)

VM Prefix:

Description:

Memory (MB):

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB

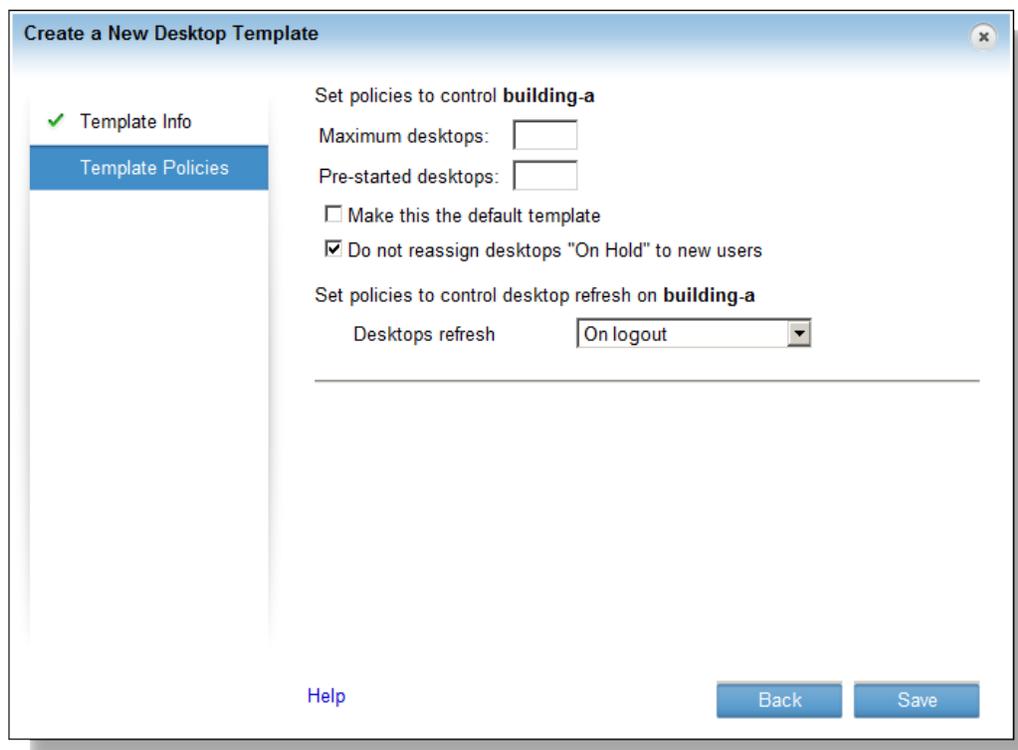
Color depth of HDX connection:

[Help](#) [Next](#)

[Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [VM Prefix] ボックスに、プレフィックスを入力します。このテンプレートから生成される仮想デスクトップには、このプレフィックスが使用されます。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注： Windows 7のデスクトップには1536MB以上、Windows XPのデスクトップには512MB以上のメモリを割り当てることをお勧めします。
7. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
8. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

9.



[次へ] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

10. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。

11. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。

注：テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

12. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

13. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

14. [Desktops refresh] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元（リフレッシュ）するタイミングを指定します。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。

15. [Save] をクリックします。

16. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じテンプレートが使用されます。

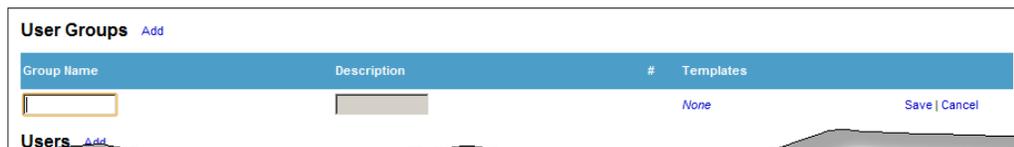
テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開き、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。

2.



Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。
注：ここでは、Domain AdminsやDomain UsersなどのActive Directoryセキュリティグループの名前を指定することはできません。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1.

User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>				None

[IP Addresses](#) [Add](#) [Save | Cancel](#)

ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。

注： [First Name] 、 [Last Name] 、 および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がデータベースに格納されている場合は、 [Save] をクリックしたときにこれらの情報が自動的に入力されます。

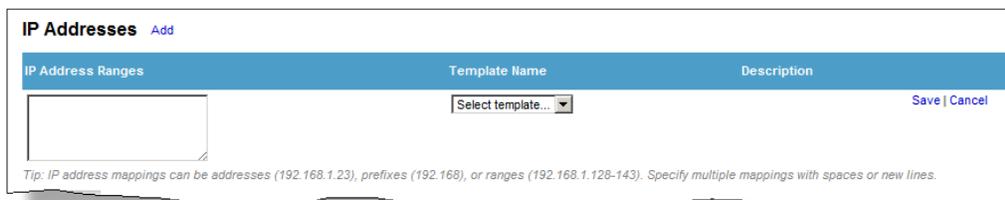
3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。テンプレートを割り当てると、 [None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。

5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1.



The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "IP Address Ranges" column contains a large empty text input box. The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". The "Description" column contains a "Save | Cancel" button. Below the table, there is a tip: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）、Java Runtime Environment（JRE）、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントの最新バージョンをインストールしておく必要があります。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、JREの最新バージョンがインストールされていることを確認し、HDX接続を利用するためにCitrix Receiverもインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 1.6以降がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注： JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。 仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. VDI-in-a-Box Java Desktop Client ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Microsoft Hyper-VでのWindows 7イメージの使用

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドの作成と構成](#)
- ・ [最初のWindowsイメージの作成](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Microsoft Hyper-Vにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_0_2.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeを実行すると、vdiManagerがインストールされ、VDI-in-a-Boxが正しく動作するようにMicrosoft Hyper-Vが構成されます。Hyper-Vマネージャーの役割が有効になっていない場合は、vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeにより有効になります。

注：Microsoft Hyper-Vからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. [Downloads] をクリックします。
3. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
4. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
5. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box 5.0.2] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.0.2のページが開きます。
7. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
8. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
9. [Download Now] をクリックします。
10. 必要に応じてCitrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_0_2.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
11. ZIPファイルから、vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeを抽出します。

グリッドの作成と構成

ここでは、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）をハイパーバイザーにインポートしてから、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

ハイパーバイザーとvdiManagerには、IPアドレスを使用することをお勧めします。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

vdiManagerのHyper-Vへのインポート

Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードにより、次のソフトウェアがインストールされます。

- ・ Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタ
- ・ Citrix VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス

重要： Hyper-Vでは、仮想マシン（VDI-in-a-Boxマネージャーの仮想マシンも含まれます）を実行しているサーバーのディスクスペースが少なくなると、仮想マシンが自動的に一時停止します。一時停止した仮想マシンは、Paused-Critical状態になります。この問題を解決するには、サーバーの空きディスクスペースを増やしてください。

1. Hyper-Vサーバー上で、vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeのアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトからこのファイルを実行します。Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードが起動します。
2. [Next] をクリックします。[Select Destination Location] ページが開きます。
3. デフォルトのインストール先を指定したまま、[Next] をクリックします。[Select Additional Tasks] ページが開きます。
4. [Create Citrix VDI-in-a-Box manager virtual appliance] が選択されている状態で、[Install] をクリックします。

注： [Enable Hyper-V Remote Administration] を選択すると、リモートデバイスから仮想デスクトップを管理できるようになります。

インストール処理が開始されます。インストールが完了すると、[Welcome to Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V] ページが開きます。

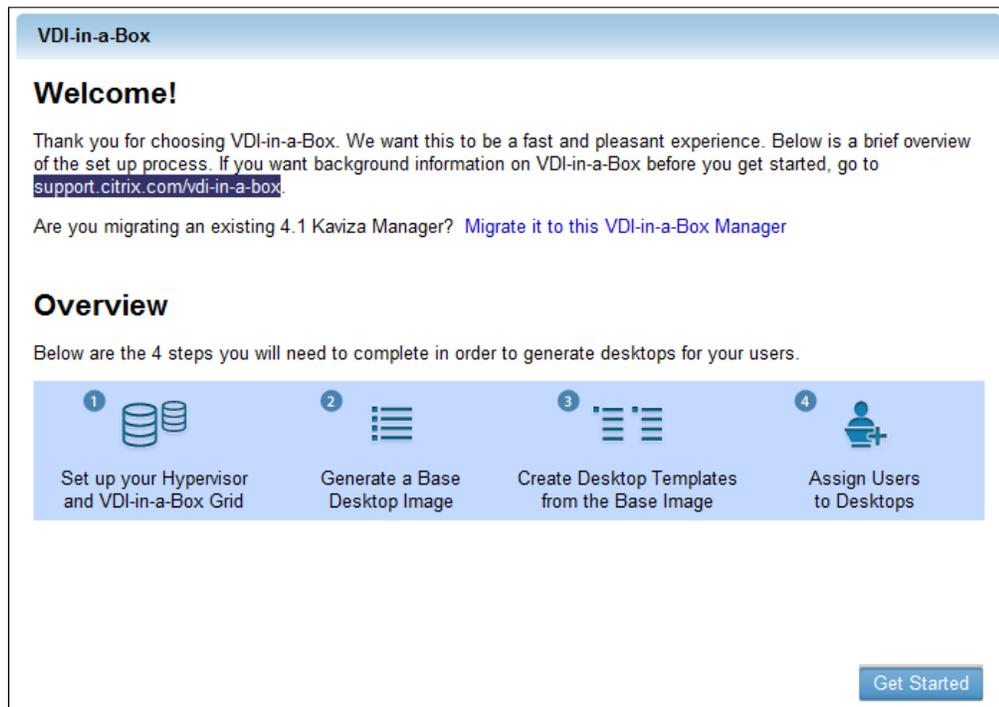
5. [Close] をクリックします。
6. [Finish] をクリックします。インポート処理が終了すると、vdiManagerはHyper-Vマネージャー（または代替の管理コンソール）の仮想マシン一覧に「vdiManager_timestamp」という名前が表示されます。

重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. 仮想マシンの一覧でvdiManagerを右クリックし、[Start] をクリックします。vdiManagerの状態が [Off] から [Running] に変化します。
2. vdiManagerのIPアドレスを取得します。これを行うには、仮想マシンの一覧でvdiManagerを右クリックし、[Connect] をクリックします。コマンドプロンプトのウィンドウが開き、vdiManagerのIPアドレスが表示されます。
3. このIPアドレスを書き留めておき、コマンドプロンプトのウィンドウを閉じます。
4. WebブラウザのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。VDI-in-a-Box Log Onページが開きます。
6. VDI-in-a-Box Log Onページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
- 7.

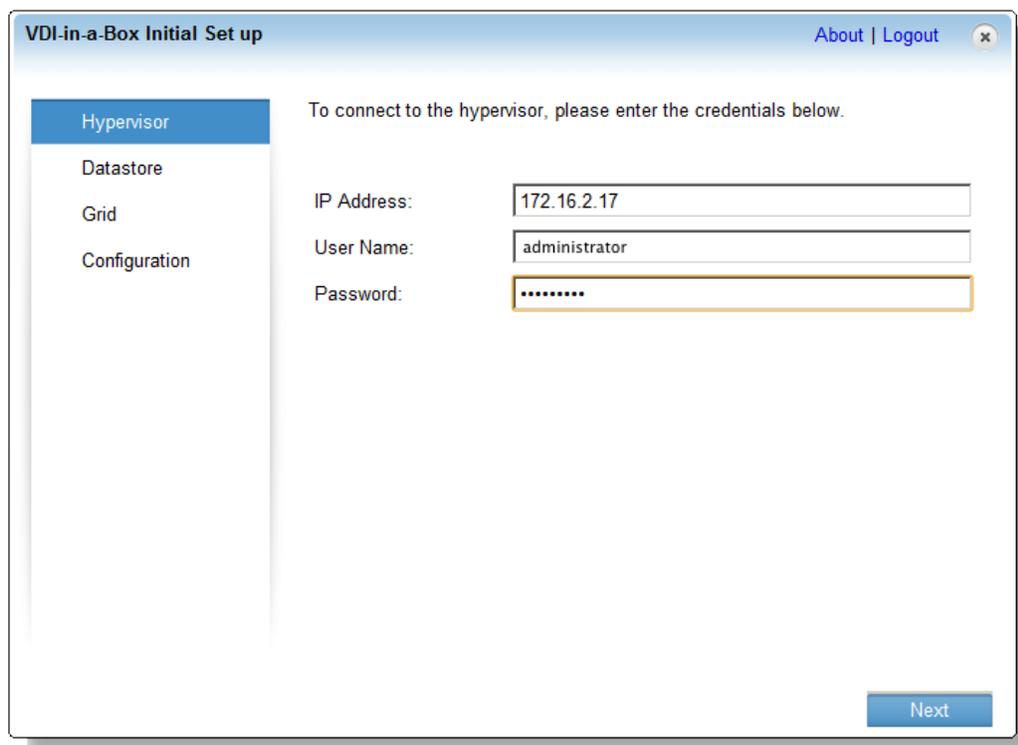


[パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 Set up Hypervisor and VDI-in-a-Box Gridページが開きます。

2.



The screenshot shows a window titled "VDI-in-a-Box Initial Set up" with a navigation menu on the left containing "Hypervisor", "Datastore", "Grid", and "Configuration". The "Hypervisor" page is active, displaying the instruction: "To connect to the hypervisor, please enter the credentials below." There are three input fields: "IP Address" with the value "172.16.2.17", "User Name" with the value "administrator", and "Password" with masked characters ".....". A "Next" button is located at the bottom right of the window.

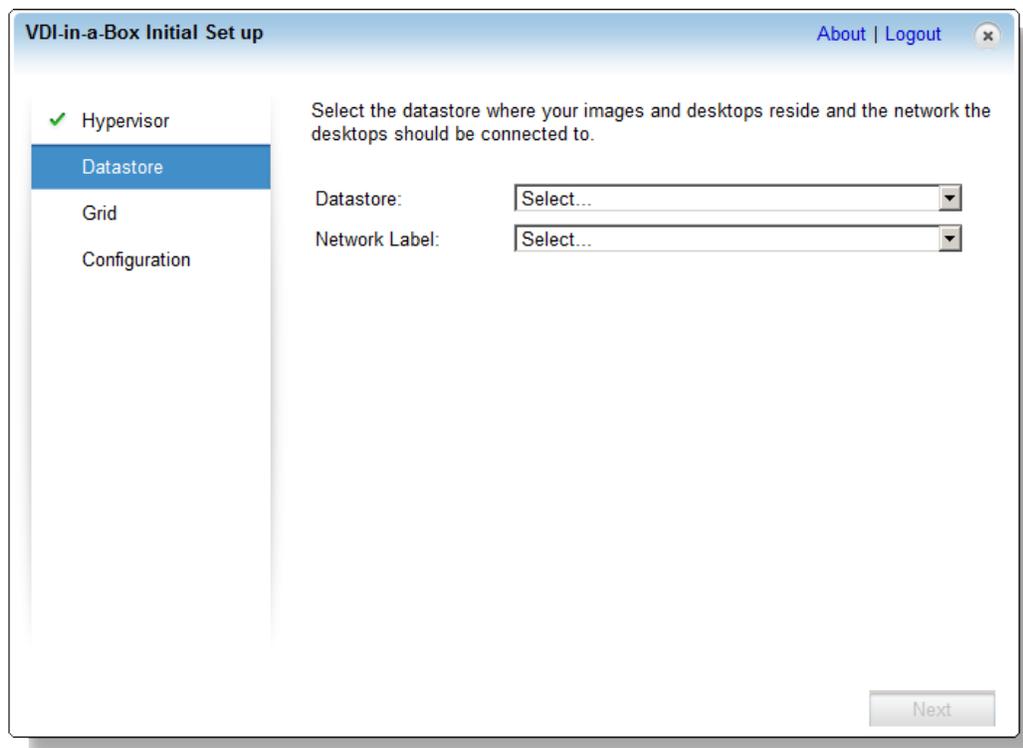
[続ける] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。 このユーザーアカウントは、管理者特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

1.



[Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。

2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のグリッドまたは既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [New Grid Name] ボックスに、新しいグリッドの名前を入力します。
- 3.

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

✓ Hypervisor

✓ Datastore

✓ Grid

Configuration

New Grid Name: EasternGrid

User Database: VDI-in-a-Box workgroup Microsoft Active Directory

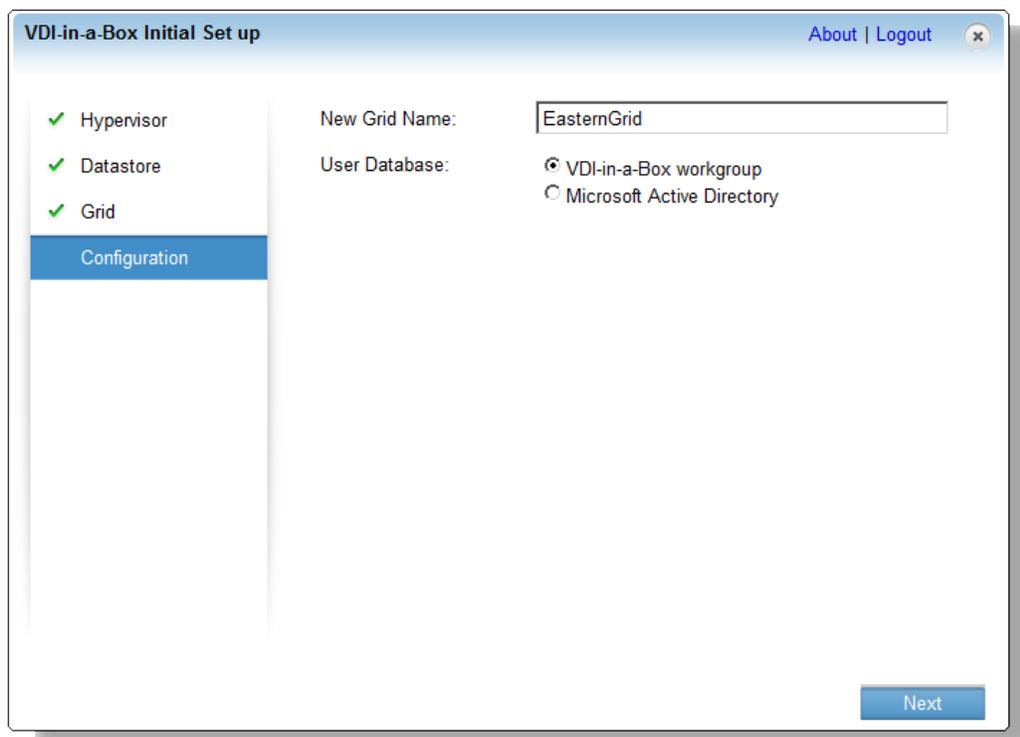
IP Address: 172.16.1.23

Domain: <domain.com>

Username: administrator

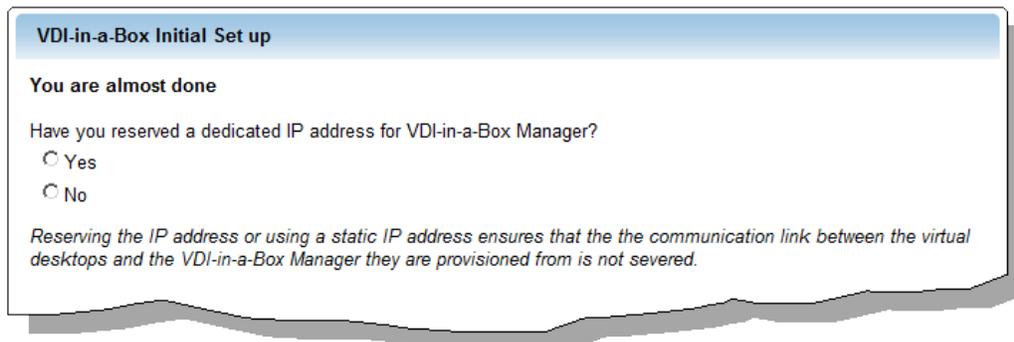
Password:

Next



[User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

4. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
6. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 7.



[次へ] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。

8. VDI-in-a-Boxマネージャー用のIPアドレスを予約してある場合は [Yes] 、予約していない場合は [No] を選択し、 [Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、Join a VDI-in-a-Box server on an existing gridを選択し、 [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードのDatabaseページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作しているvdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージの作成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシンにMicrosoft .Net Framework 3.5 SP1がインストールされ、有効になっている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

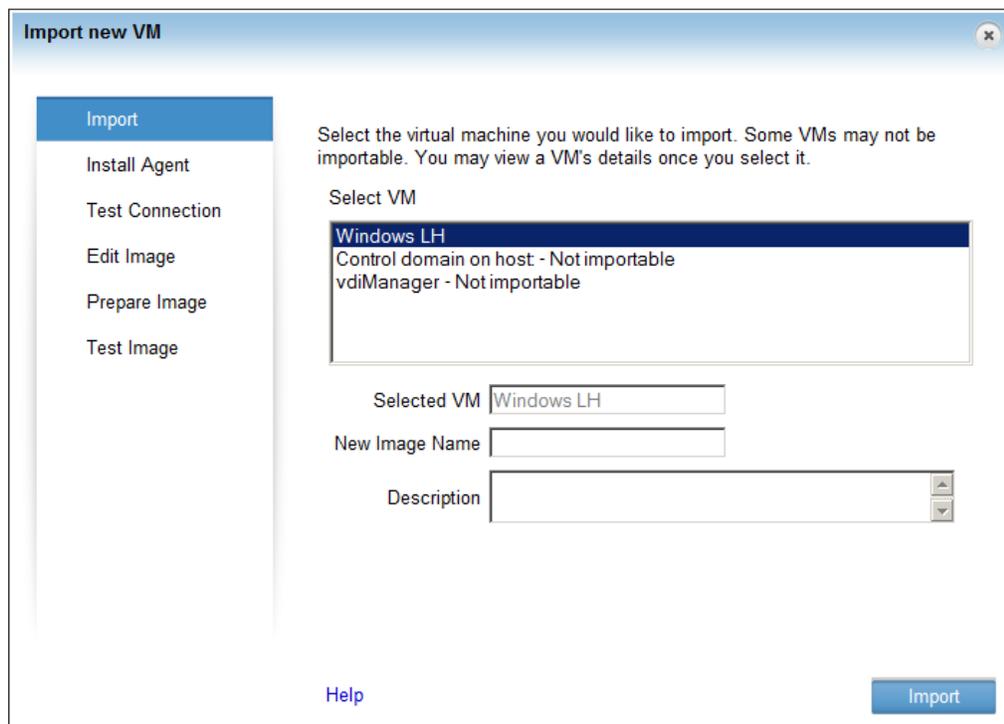
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

4. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
5. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォールの設定を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
- 2.



-
-
3. [Import] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。
[New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。

注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。

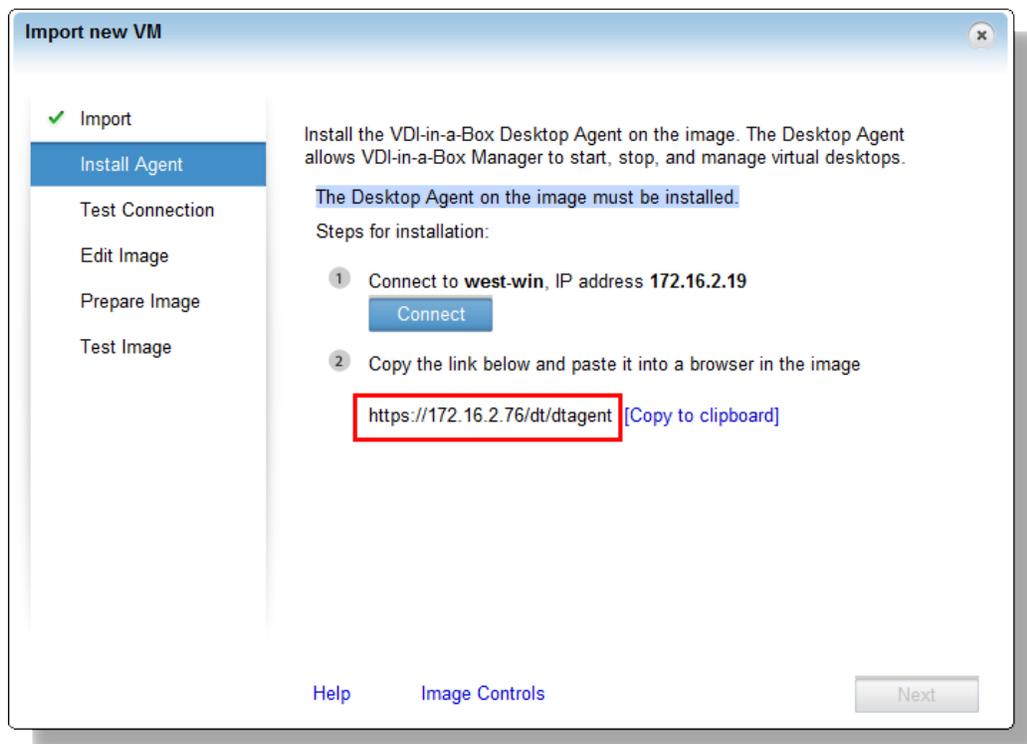
-
-
-
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。インポート処理が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。インポート処理が完了すると、Import new VMウィザードの [Install Agent] ページが開きます。

VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールするには

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

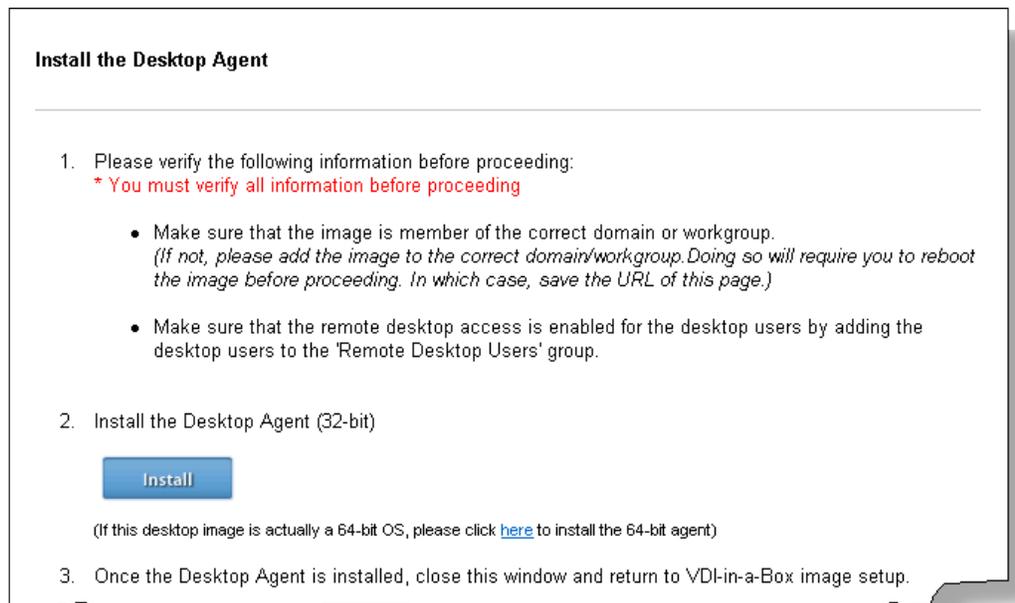
1.



[Install Agent] ページで、Desktop Agentのアドレス（`https://<IPaddress>/dt/dtagent/`）を選択してクリップボードにコピーします。

2. [Connect] をクリックします。イメージに対するRDP接続が確立されます。
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、次の操作を行います：
 - a. イメージが、目的のドメインまたはワークグループのメンバーであることを確認します。
 - b. デスクトップユーザーをイメージのRemote Desktop Usersグループに追加して、リモートデスクトップアクセスを有効にします。
4. イメージのWebブラウザを起動して、手順1.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押します。これにより、VDI-in-a-Box Desktop Agentのインストールページが開きます。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

5.



証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。

6. [Install the Desktop Agent] ページで、 [Install] をクリックします。

注： インストールに失敗した場合は、 [here](#) をクリックして、別の方法でインストールします。

[ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。

7. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。必要なソフトウェアをインストールするためのウィザードが起動します。

8. [次へ] をクリックします。 [Prerequisites] ページが開きます。

9. [Prerequisites] ページでは、そのまま [次へ] をクリックします。

10. ライセンス契約書を読み、同意することを選択して、 [インストール] をクリックします。いくつかのウィンドウが開き、自動的に閉じます。インストールウィザードの完了を示すメッセージが表示されます。

11. [完了] をクリックします。 Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setupウィザードが起動します。

12. [次へ] をクリックします。 [Ready to Install] ページが開きます。

13. [Install] をクリックします。インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。

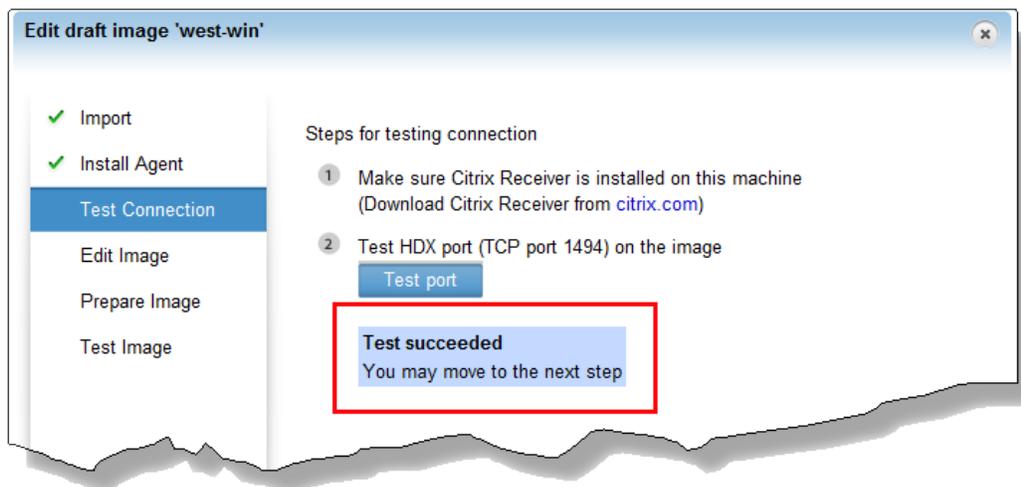
14. メッセージが表示されているダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。 [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページが開きます。

15. [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページで、 [Finish] をクリックします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
16. [次へ] をクリックします。 [Test Connection] ページが開きます。

接続をテストするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールを表示しているコンピューターにCitrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」) がインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。

2.



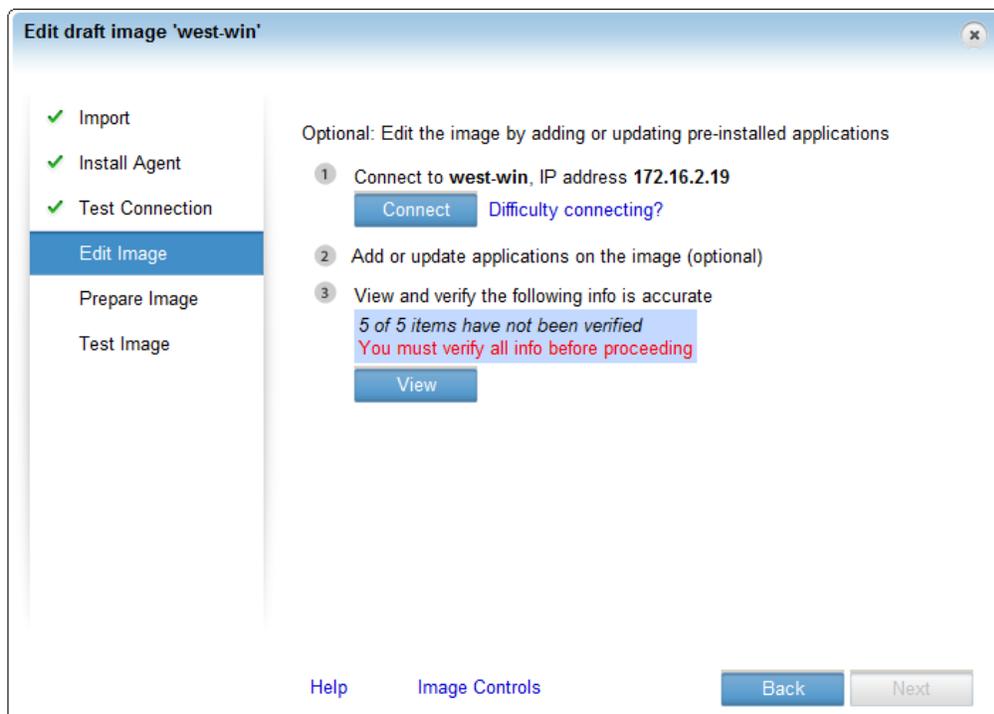
[Test Connection] ページで、 [Test ports] をクリックして接続をテストします。テストの結果を示すメッセージが表示されます。修正が必要な場合は、その手順がメッセージに表示されます。

3. [次へ] をクリックします。 [Edit Image] ページが開きます。

ドラフトイメージを編集するには

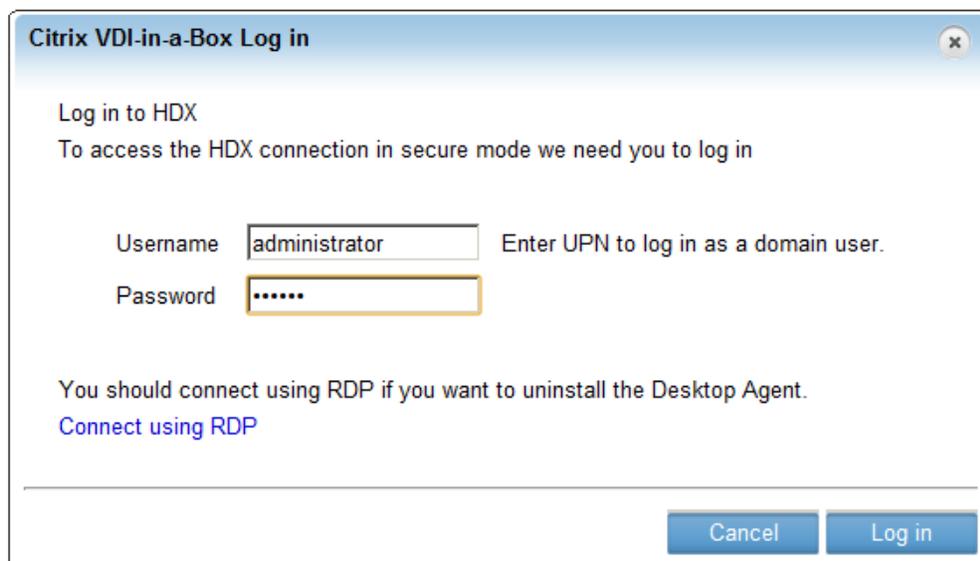
エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが用意されています。

1.



[Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

2.



[Log in to HDX] ダイアログボックスにイメージ用の管理者の資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。

3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。

4. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

5. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
6. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
7. [次へ] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

The screenshot shows the 'Edit draft image' window with the 'Prepare Image' step selected. The left sidebar lists steps: Import, Install Agent, Test Connection, Edit Image, Prepare Image (selected), and Test Image. The main area contains the following fields and options:

- Use information from a prior preparation
- Domain and Organizational Unit (OU) information. Domain user must have privileges to add and remove computers in the domain.
- Domain name: (example: example.com)
- Domain administrator:
- Domain password:
- Organizational unit (OU): (optional, example: OU=finance,DC=example,DC=com)
- Time zone:
- Computer name prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

The screenshot shows the 'Test Image' step selected in the 'Edit draft image' window. The left sidebar shows 'Test Image' selected. The main area contains the following fields and options:

- prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile
- Activation method: using MAK key using KMS key
- Device drivers: Reinstall device drivers during sysprep
- Fast desktop refresh: Enable fast refresh of desktops on user logout
- Windows 7 desktops must be set up with proper volume licensing. Click the "Prepare" button to proceed.

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

epare Image] ページでは、Microsoft System Preparation Utility (Sysprep) の実行に必要な情報を入力します。

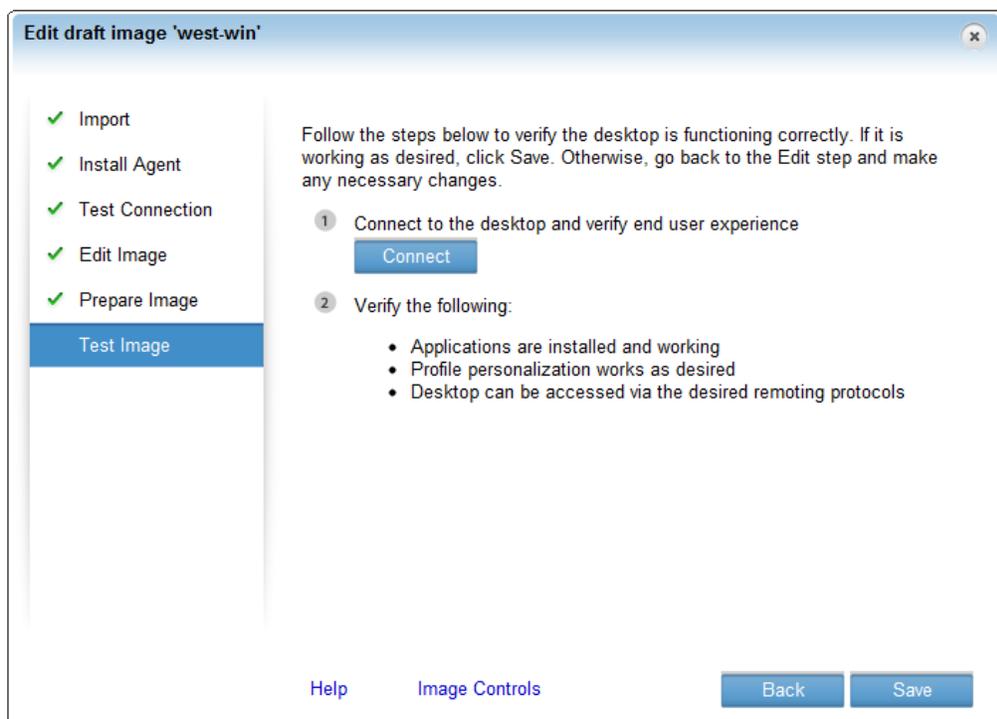
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスに、vdibox.comなどのドメイン名を入力します。
2. [Domain administrator] ボックスに、管理者のアカウント名を入力します。
注：使用する管理者のアカウントに、ドメイン内でコンピューターを追加および削除する権限が与えられていることを確認してください。
3. [Domain password] ボックスに、管理者のドメイン用パスワードを入力します。
4. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
5. [Time zone] ボックスの一覧から、適切なタイムゾーンを選択します。
6. [Computer name prefix] ボックスにプレフィックスを入力するか、[Default] をクリックします。
7. [Copy profile] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、ローカルの管理者のプロファイルがデフォルトのプロファイルとして設定されます。
8. [Activation method] では、適切なライセンス認証の方法として [using MAK Key] または [Using KMS key] を選択します。不明な場合は、MAKキーを使用してください。
9. [Device drivers] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、Sysprepの実行時にデバイスドライバーが再インストールされます。
10. [Fast desktop refresh] のチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速に更新されるようになります。
11. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。処理が完了すると、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

デスクトップを生成可能なイメージであるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証するために、これまでの手順で準備したイメージをテストします。

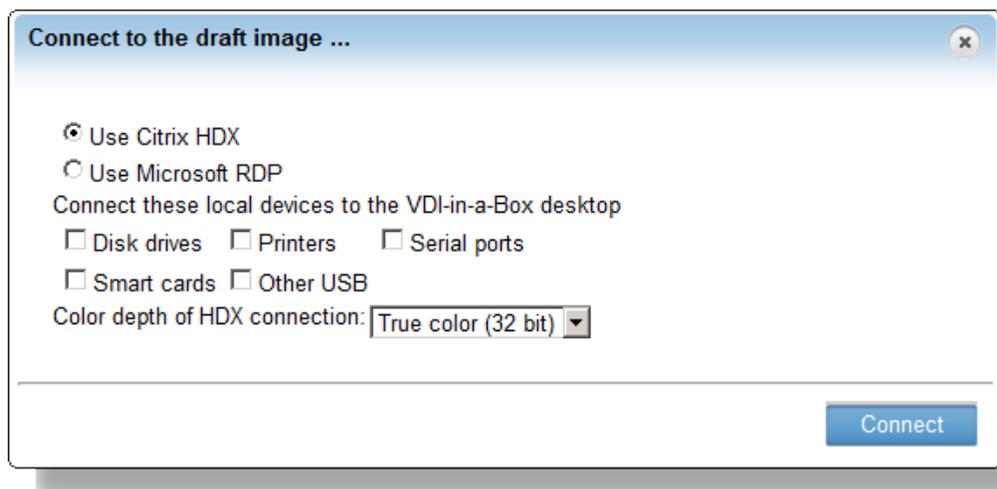
注：テストしたイメージ候補 (Candidate) を保存すると、このテスト中に生成されたテストイメージは削除されます。

1.



[Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。

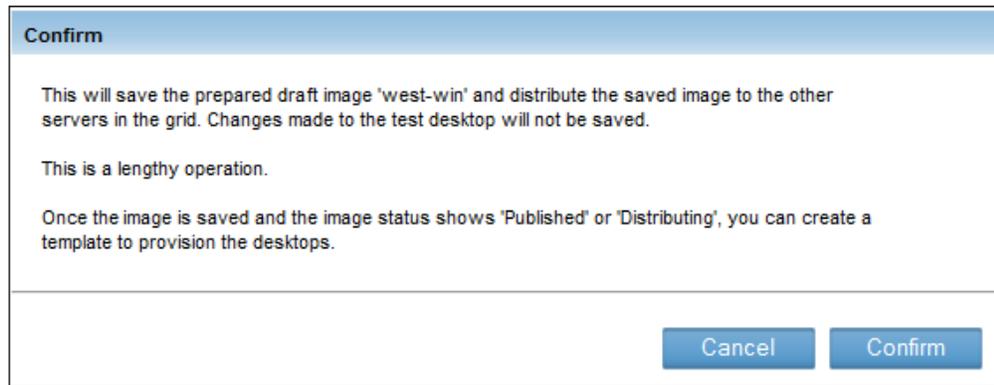
2.



[Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Log in to HDX] ダイアログボックスが開きます。

3. [Log in to HDX] ダイアログボックスに、イメージ用のユーザーの資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。

6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
8. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
9. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。
- 10.



[Test Image] ページで [Save] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

11. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。[Create Desktop Templates] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを 作成するには

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージの作成](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、何台のデスクトップを作成するのか、デスクトップにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1.

Please provide the following info:

Template Name:

Image Name: [View image details](#)

VM Prefix:

Description:

Memory (MB):

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB

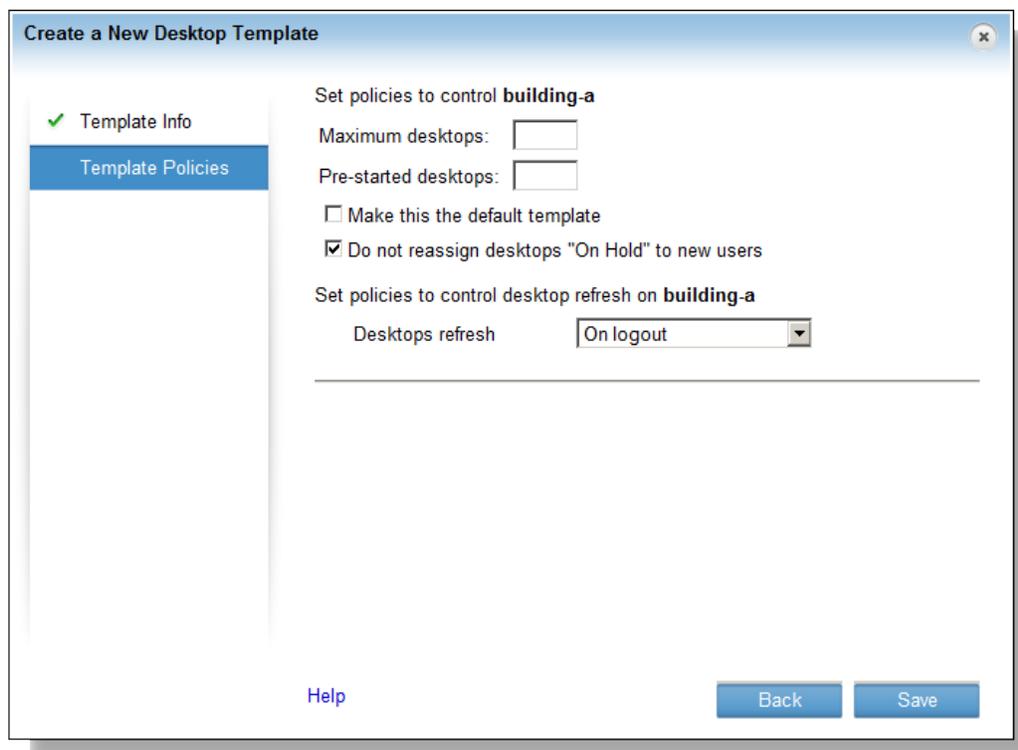
Color depth of HDX connection:

[Help](#)

[Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [VM Prefix] ボックスに、プレフィックスを入力します。このテンプレートから生成される仮想デスクトップには、このプレフィックスが使用されます。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注： Windows 7のデスクトップには1536MB以上、Windows XPのデスクトップには512MB以上のメモリを割り当てることをお勧めします。
7. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
8. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

9.



[次へ] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

10. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。

11. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。

注：テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

12. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

13. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

14. [Desktops refresh] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元（リフレッシュ）するタイミングを指定します。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。

15. [Save] をクリックします。

16. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じテンプレートが使用されます。

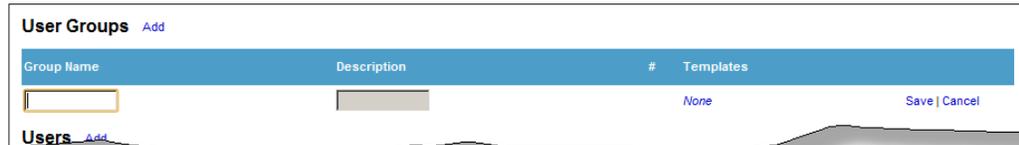
テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザ上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開き、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。

2.



ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。

注：ここでは、Domain AdminsやDomain UsersなどのActive Directoryセキュリティグループの名前を指定することはできません。

4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。

5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。

7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1.

User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>				None

[IP Addresses](#) [Add](#) [Save](#) [Cancel](#)

ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。

注： [First Name] 、 [Last Name] 、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がデータベースに格納されている場合は、[Save] をクリックしたときにこれらの情報が自動的に入力されます。

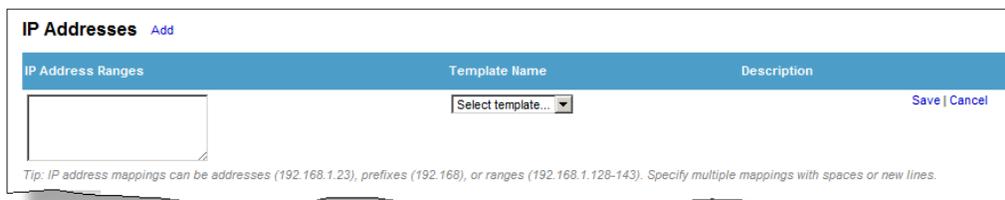
3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。

5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1.



The screenshot shows a web interface for managing IP addresses. At the top, there is a header 'IP Addresses' with an 'Add' button. Below it is a table with three columns: 'IP Address Ranges', 'Template Name', and 'Description'. The 'IP Address Ranges' column contains a large empty text input box. The 'Template Name' column contains a dropdown menu labeled 'Select template...'. The 'Description' column contains a 'Save | Cancel' button. Below the table, there is a tip: 'Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.'

IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）、Java Runtime Environment（JRE）、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントの最新バージョンをインストールしておく必要があります。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、JREの最新バージョンがインストールされていることを確認し、HDX接続を利用するためにCitrix Receiverもインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 1.6以降がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注： JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。 仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. VDI-in-a-Box Java Desktop Client ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

Microsoft Hyper-VでのWindows XP イメージの使用

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドの作成と構成](#)
- ・ [最初のWindowsイメージの作成](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Microsoft Hyper-Vにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_0_2.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeを実行すると、vdiManagerがインストールされ、VDI-in-a-Boxが正しく動作するようにMicrosoft Hyper-Vが構成されます。Hyper-Vマネージャーの役割が有効になっていない場合は、vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeにより有効になります。

注：Microsoft Hyper-Vからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. [Downloads] をクリックします。
3. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
4. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
5. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box 5.0.2] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.0.2のページが開きます。
7. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
8. ライセンス契約に同意します。 [Download Manager] ウィンドウが開きます。
9. [Download Now] をクリックします。
10. 必要に応じてCitrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_0_2.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
11. ZIPファイルから、vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeを抽出します。

グリッドの作成と構成

ここでは、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）をハイパーバイザーにインポートしてから、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

ハイパーバイザーとvdiManagerには、IPアドレスを使用することをお勧めします。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

vdiManagerのHyper-Vへのインポート

Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードにより、次のソフトウェアがインストールされます。

- ・ Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタ
- ・ Citrix VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス

重要： Hyper-Vでは、仮想マシン（VDI-in-a-Boxマネージャーの仮想マシンも含まれます）を実行しているサーバーのディスクスペースが少なくなると、仮想マシンが自動的に一時停止します。一時停止した仮想マシンは、Paused-Critical状態になります。この問題を解決するには、サーバーの空きディスクスペースを増やしてください。

1. Hyper-Vサーバー上で、vdiManager_Hyper-V_v5_0_2.exeのアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトからこのファイルを実行します。Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードが起動します。
2. [Next] をクリックします。[Select Destination Location] ページが開きます。
3. デフォルトのインストール先を指定したまま、[Next] をクリックします。[Select Additional Tasks] ページが開きます。
4. [Create Citrix VDI-in-a-Box manager virtual appliance] が選択されている状態で、[Install] をクリックします。

注： [Enable Hyper-V Remote Administration] を選択すると、リモートデバイスから仮想デスクトップを管理できるようになります。

インストール処理が開始されます。インストールが完了すると、[Welcome to Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V] ページが開きます。

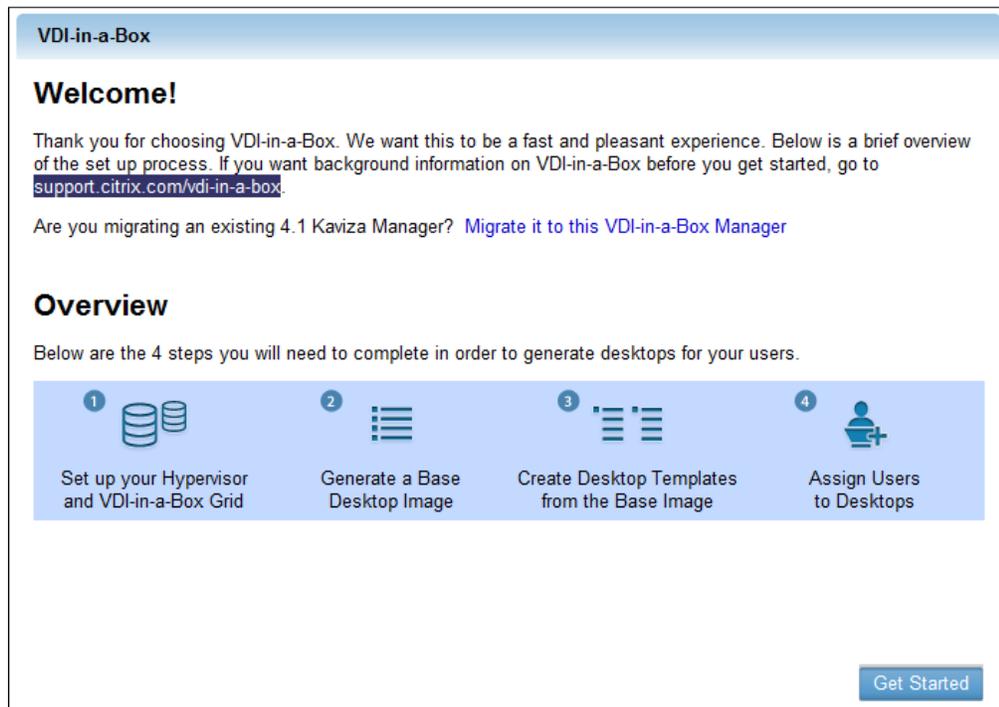
5. [閉じる] をクリックします。
6. [完了] をクリックします。インポート処理が終了すると、vdiManagerはHyper-Vマネージャー（または代替の管理コンソール）の仮想マシン一覧に「vdiManager_timestamp」という名前が表示されます。

重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

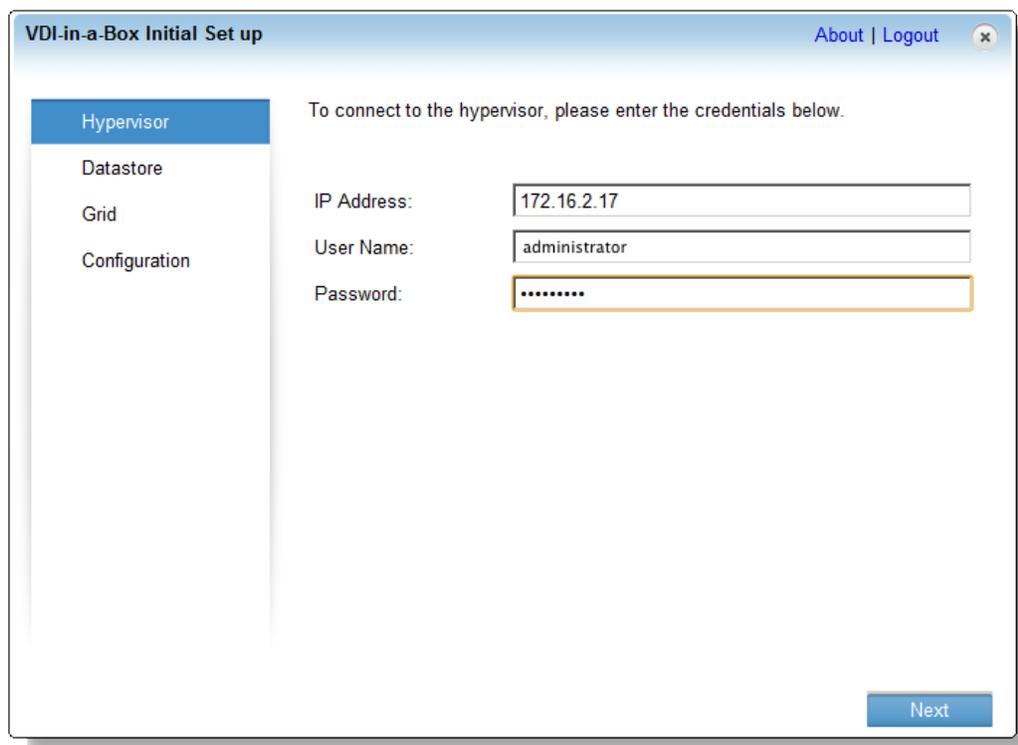
1. 仮想マシンの一覧でvdiManagerを右クリックし、[Start] をクリックします。vdiManagerの状態が [Off] から [Running] に変化します。
2. vdiManagerのIPアドレスを取得します。これを行うには、仮想マシンの一覧でvdiManagerを右クリックし、[Connect] をクリックします。コマンドプロンプトのウィンドウが開き、vdiManagerのIPアドレスが表示されます。
3. このIPアドレスを書き留めておき、コマンドプロンプトのウィンドウを閉じます。
4. WebブラウザのURLボックスに「`https://<IPaddress>/admin/`」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「`vdiadmin`」と入力します。
- 7.



[パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。 Set up Hypervisor and VDI-in-a-Box Gridページが開きます。
- 2.



The screenshot shows a window titled "VDI-in-a-Box Initial Set up" with a navigation pane on the left containing "Hypervisor", "Datastore", "Grid", and "Configuration". The "Hypervisor" page is active, displaying the instruction: "To connect to the hypervisor, please enter the credentials below." There are three input fields: "IP Address" with the value "172.16.2.17", "User Name" with the value "administrator", and "Password" with masked characters ".....". A "Next" button is located at the bottom right of the window.

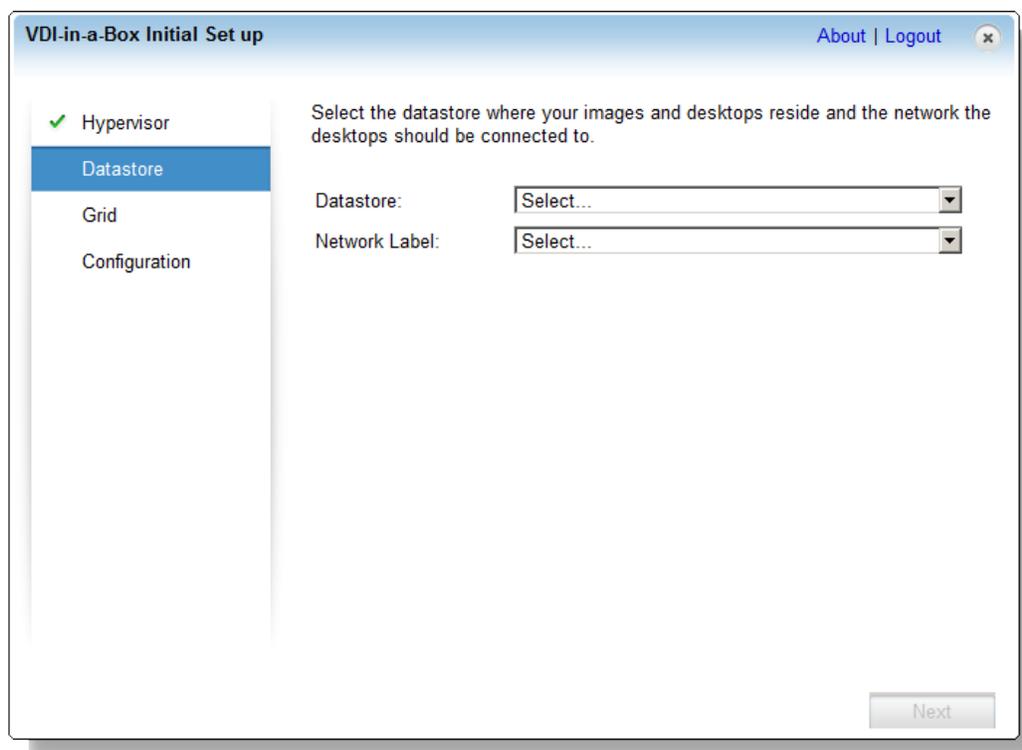
[Continue] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。 このユーザーアカウントは、管理者特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

1.



[Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。

2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のグリッドまたは既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [New Grid Name] ボックスに、新しいグリッドの名前を入力します。
- 3.

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration

New Grid Name: EasternGrid

User Database: VDI-in-a-Box workgroup Microsoft Active Directory

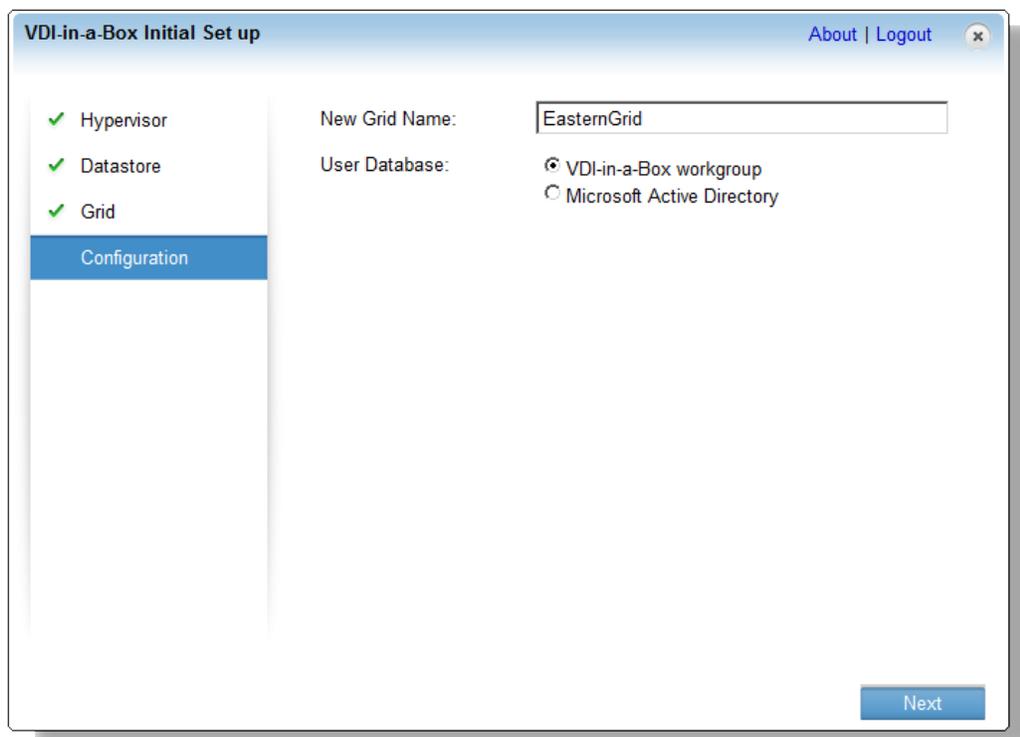
IP Address: 172.16.1.23

Domain: <domain.com>

Username: administrator

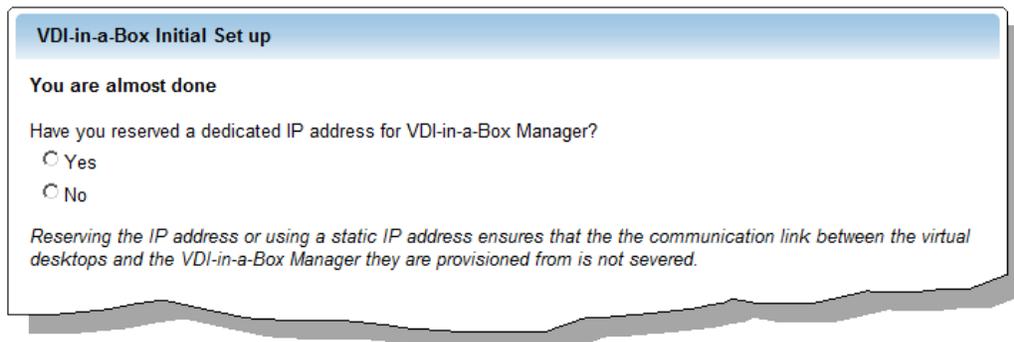
Password:

Next



[User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

4. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
6. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 7.



[次へ] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。

8. VDI-in-a-Boxマネージャー用のIPアドレスを予約してある場合は [Yes] 、予約していない場合は [No] を選択し、 [Done] をクリックします。 [Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、Join a VDI-in-a-Box server on an existing gridを選択し、 [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードのDatabaseページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作しているvdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージの作成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシンにMicrosoft .Net Framework 3.5 SP1がインストールされ、有効になっている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。

イメージのインポートの準備を行うには

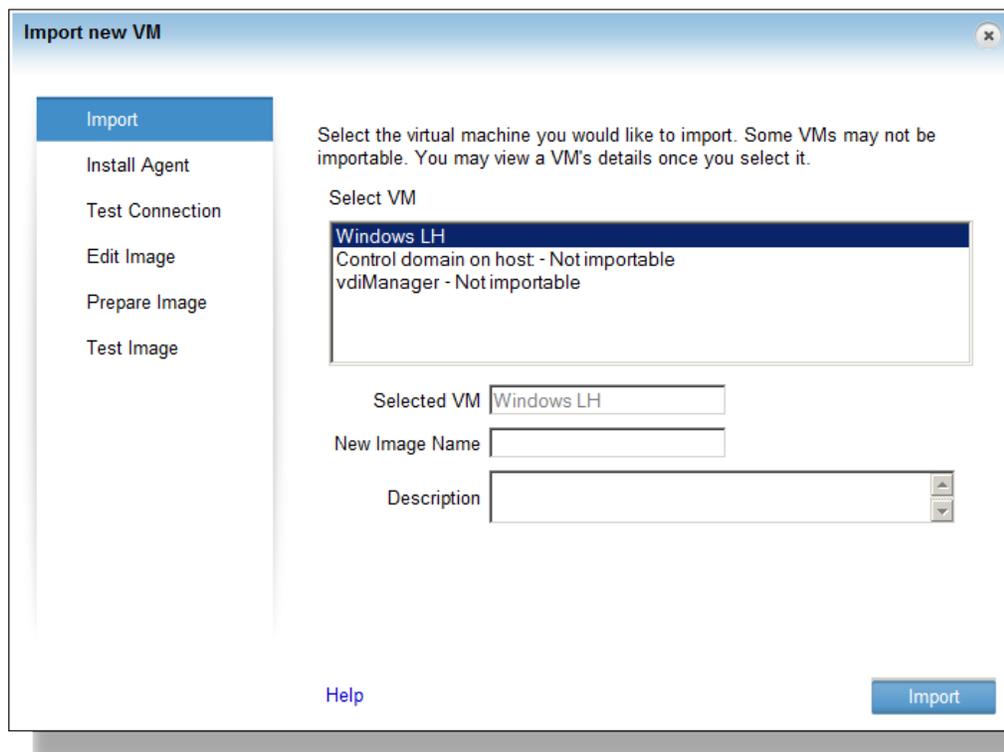
VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。
2. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
3. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォールの設定を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、[Continue] をクリックします。
- 2.



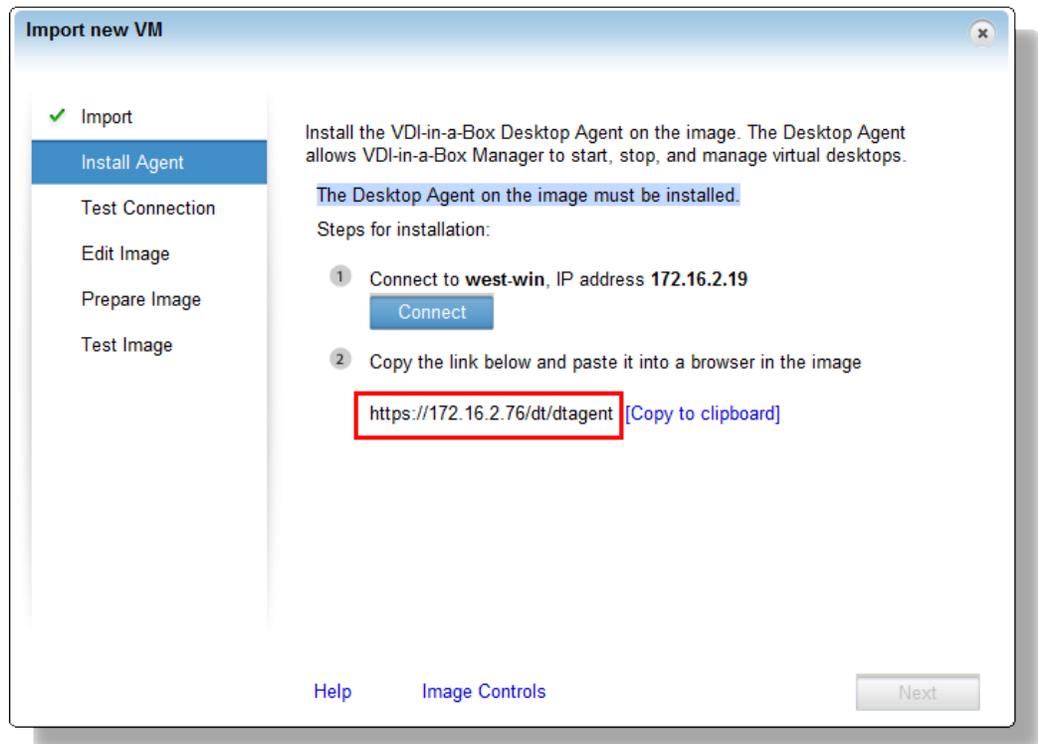
- [Import] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。
3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
 4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、[Import] をクリックします。インポート処理が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。インポート処理が完了すると、Import new VMウィザードの [Install Agent] ページが開きます。

VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールするには

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1.



[Install Agent] ページで、Desktop Agentのアドレス（`https://<IPaddress>/dt/dtagent/`）を選択してクリップボードにコピーします。

2. [Connect] をクリックします。イメージに対するRDP接続が確立されます。

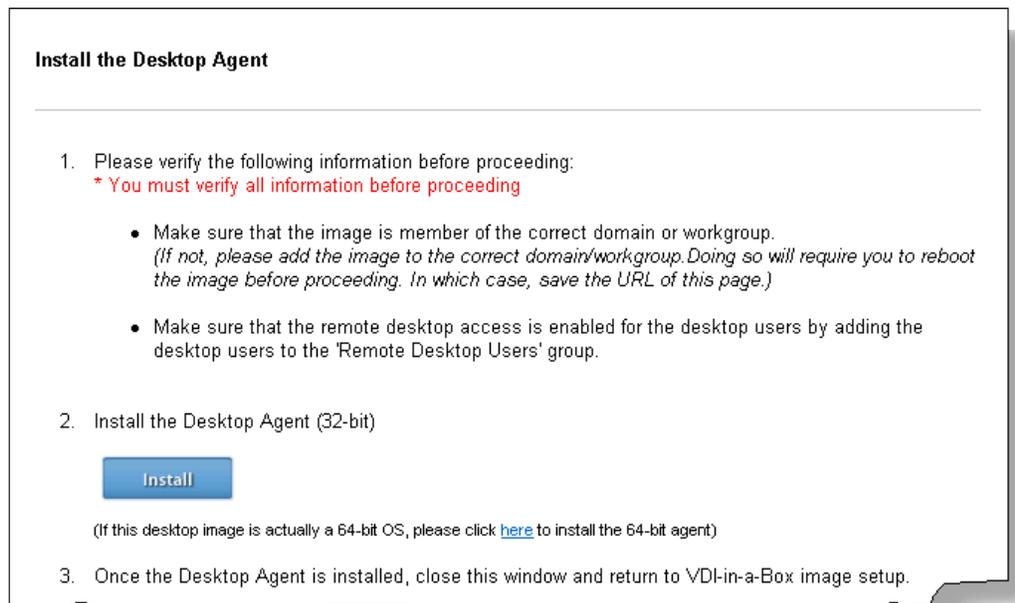
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、次の操作を行います：

a. イメージが、目的のドメインまたはワークグループのメンバーであることを確認します。

b. デスクトップユーザーをイメージのRemote Desktop Usersグループに追加して、リモートデスクトップアクセスを有効にします。

4. イメージのWebブラウザを起動して、手順1.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押します。これにより、VDI-in-a-Box Desktop Agentのインストールページが開きます。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

5.



証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。

6. [Install the Desktop Agent] ページで、 [Install] をクリックします。

注： インストールに失敗した場合は、 [here](#) をクリックして、別の方法でインストールします。

[ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。

7. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。必要なソフトウェアをインストールするためのウィザードが起動します。

8. [次へ] をクリックします。 [Prerequisites] ページが開きます。

9. [Prerequisites] ページでは、そのまま [次へ] をクリックします。

10. ライセンス契約書を読み、同意することを選択して、 [インストール] をクリックします。いくつかのウィンドウが開き、自動的に閉じます。インストールウィザードの完了を示すメッセージが表示されます。

11. [完了] をクリックします。Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setupウィザードが起動します。

12. [次へ] をクリックします。 [Ready to Install] ページが開きます。

13. [Install] をクリックします。インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。

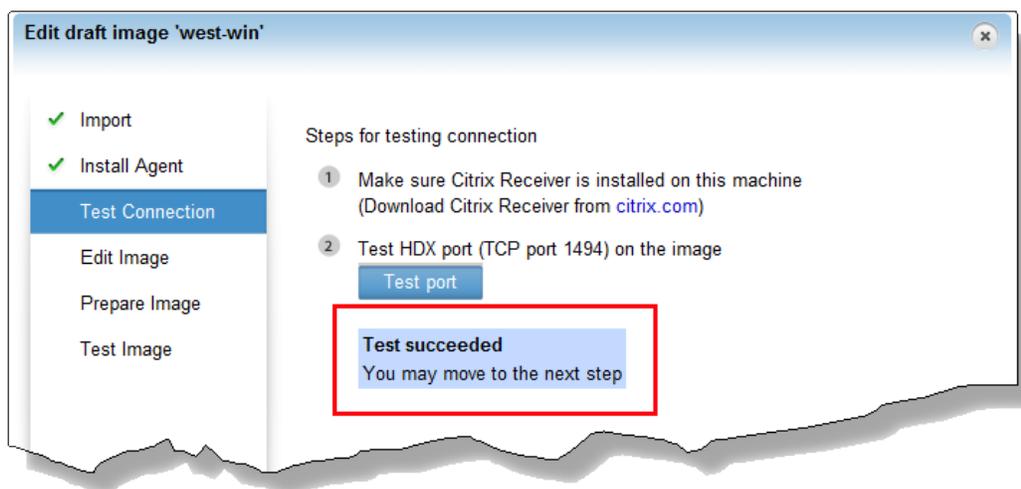
14. メッセージが表示されているダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。 [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページが開きます。

15. [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページで、 [Finish] をクリックします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
16. [次へ] をクリックします。 [Test Connection] ページが開きます。

接続をテストするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールを表示しているコンピューターにCitrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」) がインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。

2.



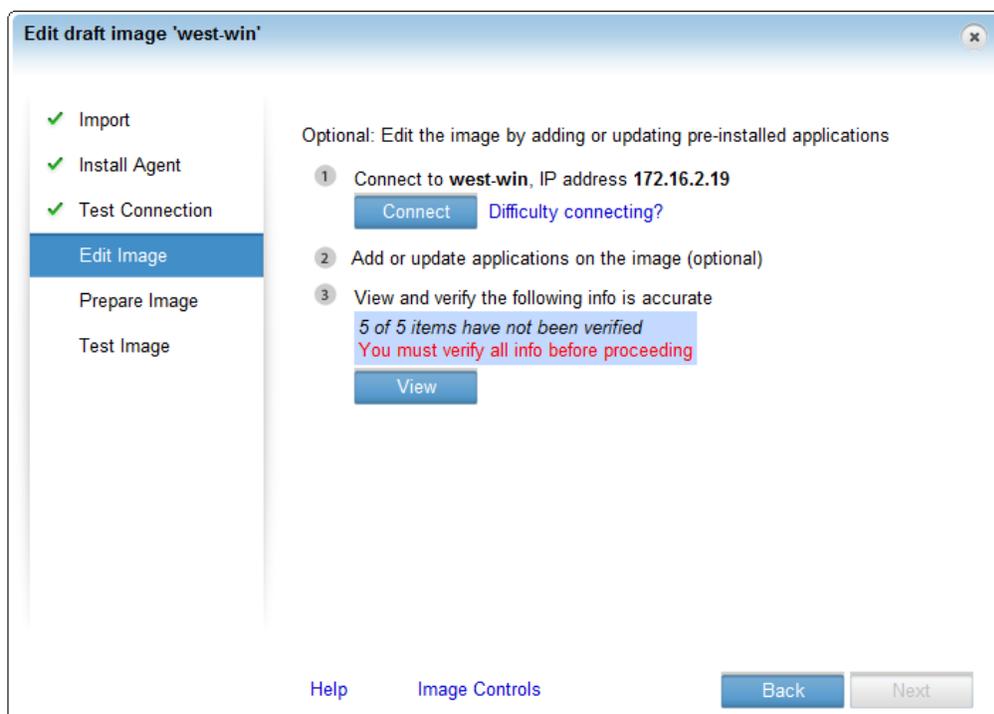
[Test Connection] ページで、 [Test ports] をクリックして接続をテストします。テストの結果を示すメッセージが表示されます。修正が必要な場合は、その手順がメッセージに表示されます。

3. [次へ] をクリックします。 [Edit Image] ページが開きます。

ドラフトイメージを編集するには

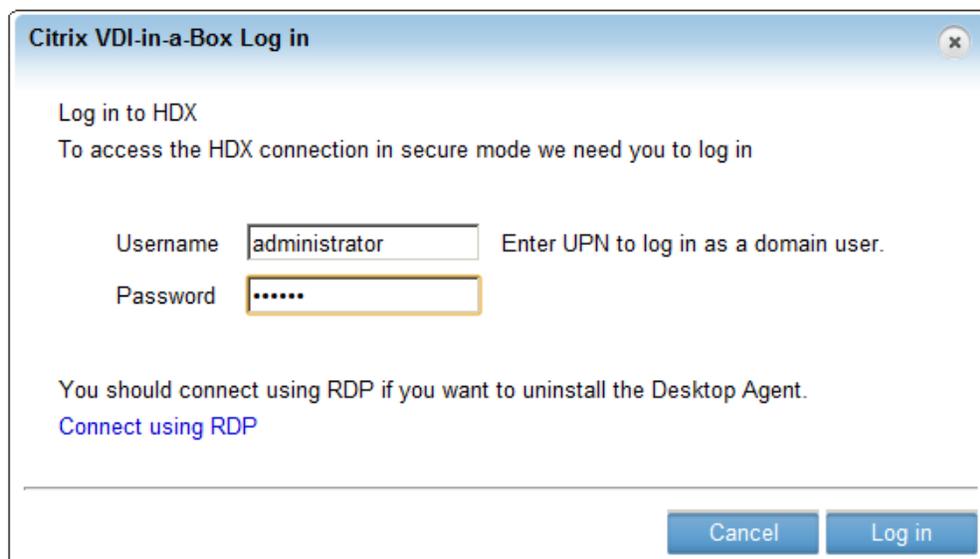
エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが用意されています。

1.



[Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

2.



[Log in to HDX] ダイアログボックスにイメージ用の管理者の資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。

3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。

4. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

5. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
6. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
7. [次へ] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

The screenshot shows the 'Edit draft image' window with the 'Prepare Image' tab selected. The left sidebar shows a list of steps: Import, Install Agent, Test Connection, Edit Image, Prepare Image (highlighted), and Test Image. The main area contains the following fields and options:

- Use information from a prior preparation
- Domain and Organizational Unit (OU) information. Domain user must have privileges to add and remove computers in the domain.
- Domain name: (example: example.com)
- Domain administrator:
- Domain password:
- Organizational unit (OU): (optional, example: OU=finance,DC=example,DC=com)
- Product key is the license string (example: XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX)
- Product key:
- Time zone:
- Computer name:

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

This screenshot shows the 'Prepare Image' tab with additional options visible below the previous fields:

- Computer name prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile
- Fast desktop refresh: Enable fast refresh of desktops on user logout

Text below: Click the "Prepare" button to proceed.

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

[
P

repare Image] ページでは、Microsoft System Preparation Utility (Sysprep) の実行に必要な情報を入力します。

1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスに、vdibox.comなどのドメイン名を入力します。
2. [Domain administrator] ボックスに、管理者のアカウント名を入力します。
注：使用する管理者のアカウントに、ドメイン内でコンピューターを追加および削除する権限が与えられていることを確認してください。
3. [Domain password] ボックスに、管理者のドメイン用パスワードを入力します。
4. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
5. [Product key] に、Windowsのプロダクトキーを入力します。
6. [Time zone] ボックスの一覧から、適切なタイムゾーンを選択します。
7. [Computer name prefix] ボックスにプレフィックスを入力するか、[Default] をクリックします。
8. [Copy profile] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、ローカルの管理者のプロファイルがデフォルトのプロファイルとして設定されます。
9. [Fast desktop refresh] のチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速に更新されるようになります。
10. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

デスクトップを生成可能なイメージであるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証するために、これまでの手順で準備したイメージをテストします。

注：テストしたイメージ候補 (Candidate) を保存すると、このテスト中に生成されたテストイメージは削除されます。

1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。[Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。
2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで、[HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。[Log in to HDX] ダイアログボックスが開きます。
3. [Log in to HDX] ダイアログボックスに、イメージ用のユーザーの資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。

4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
8. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで、[RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
9. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。
10. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
11. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。[Create Desktop Templates] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを 作成するには

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージの作成](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、何台のデスクトップを作成するのか、デスクトップにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1.

Please provide the following info:

Template Name:

Image Name: [View image details](#)

VM Prefix:

Description:

Memory (MB):

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB

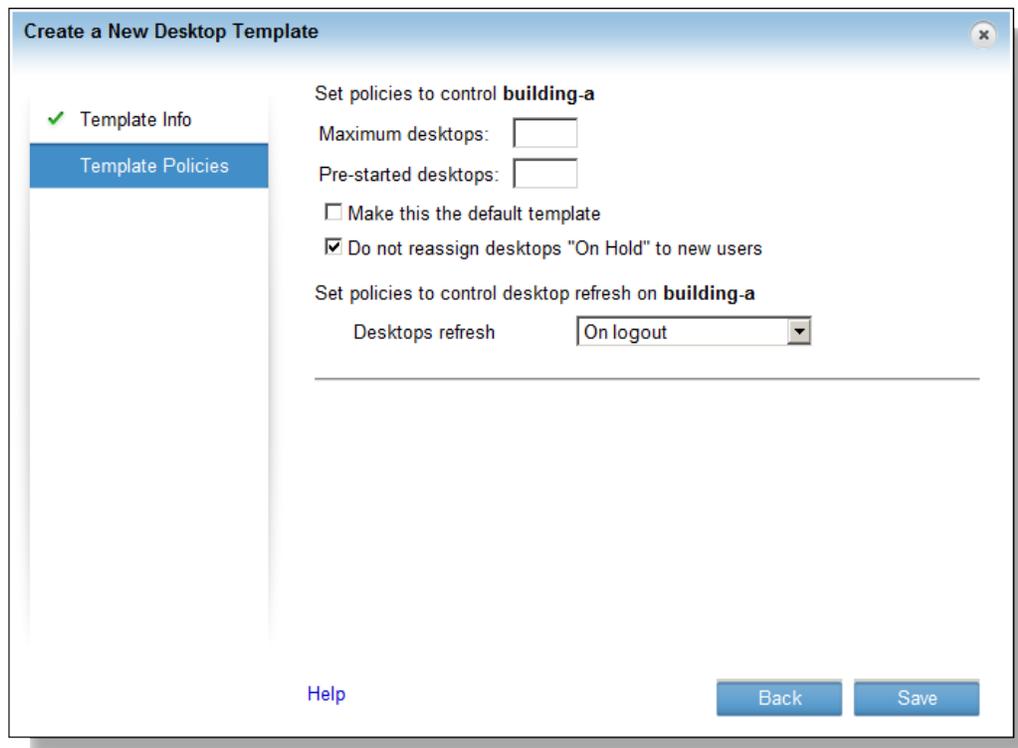
Color depth of HDX connection:

[Help](#)

[Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [VM Prefix] ボックスに、プレフィックスを入力します。このテンプレートから生成される仮想デスクトップには、このプレフィックスが使用されます。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注： Windows 7のデスクトップには1536MB以上、Windows XPのデスクトップには512MB以上のメモリを割り当てることをお勧めします。
7. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
8. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

9.



[次へ] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

10. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。

11. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。

注：テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

12. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

13. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

14. [Desktops refresh] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元（リフレッシュ）するタイミングを指定します。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。

15. [Save] をクリックします。

16. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じテンプレートが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザ上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開き、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。

2.

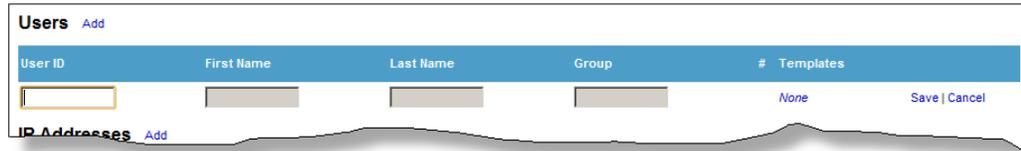
Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>			None

ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。
注：ここでは、Domain AdminsやDomain UsersなどのActive Directoryセキュリティグループの名前を指定することはできません。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1.



User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	None

ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。

注： [First Name] 、 [Last Name] 、 および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がデータベースに格納されている場合は、 [Save] をクリックしたときにこれらの情報が自動的に入力されます。

3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。テンプレートを割り当てると、 [None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。

5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1.

The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "IP Address Ranges" column contains a large empty text input box. The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". The "Description" column contains the text "Save | Cancel". Below the table, there is a tip: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）、Java Runtime Environment（JRE）、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントの最新バージョンをインストールしておく必要があります。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、JREの最新バージョンがインストールされていることを確認し、HDX接続を利用するためにCitrix Receiverもインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 1.6以降がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注： JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。 仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. VDI-in-a-Box Java Desktop Client ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VMware ESXiでのWindows 7イメージの使用

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドの作成と構成](#)
- ・ [最初のWindowsイメージの作成](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_0_2.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_ESX_v5_0_2.ovaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。

注：VMware VSphereクライアントからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. [Downloads] をクリックします。
3. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
4. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
5. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box 5.0.2] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.0.2のページが開きます。
7. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
8. ライセンス契約に同意します。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
9. [Download Now] をクリックします。
10. 必要に応じてCitrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_ESX_v5_0_2.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
11. ZIPファイルから、vdiManager_ESX_v5_0_2.ovaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_ESX_v5_0_2.ovaを抽出したら、この仮想アプライアンスをVMware vSphereクライアントを使用してVMware ESXi上にインポートします。vSphereクライアントを使用したインポートについて詳しくは、<http://www.vmware.com/>を参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはvSphereクライアント管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドの作成と構成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

ハイパーバイザーとvdiManagerには、IPアドレスを使用することをお勧めします。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注： vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。

2. WebブラウザーのURLボックスに「**https://<IPaddress>/admin/**」と入力し、Enterキーを押します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。 [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「**vdiadmin**」と入力します。

5.

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Are you migrating an existing 4.1 Kaviza Manager? [Migrate it to this VDI-in-a-Box Manager](#)

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

-  Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
-  Generate a Base Desktop Image
-  Create Desktop Templates from the Base Image
-  Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

[パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。Set up Hypervisor and VDI-in-a-Box Gridページが開きます。
- 2.

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

Hypervisor

Datastore

Grid

Configuration

To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.

IP Address: 172.16.2.17

User Name: root

Password:

Next

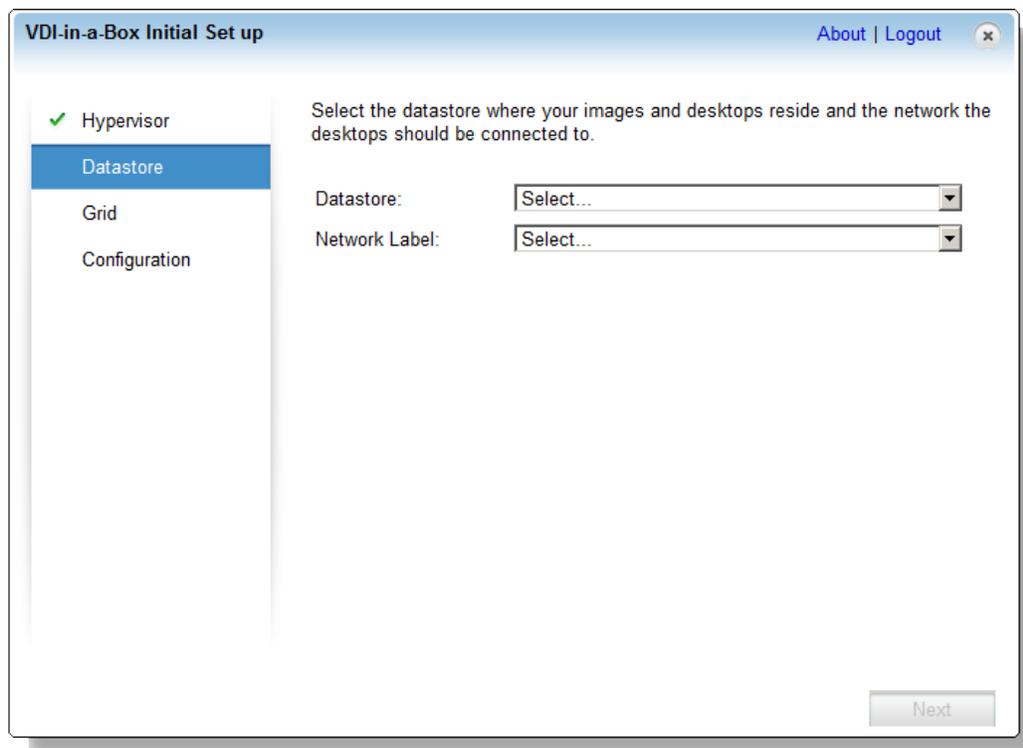
[続ける] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。

1.



[Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。

2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のグリッドまたは既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの[Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [New Grid Name] ボックスに、新しいグリッドの名前を入力します。
- 3.

VDI-in-a-Box Initial Set up About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

Hypervisor selected: **VMware vSphere**

New Grid Name:

User Database: VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

IP Address:
(Domain example: example.com)

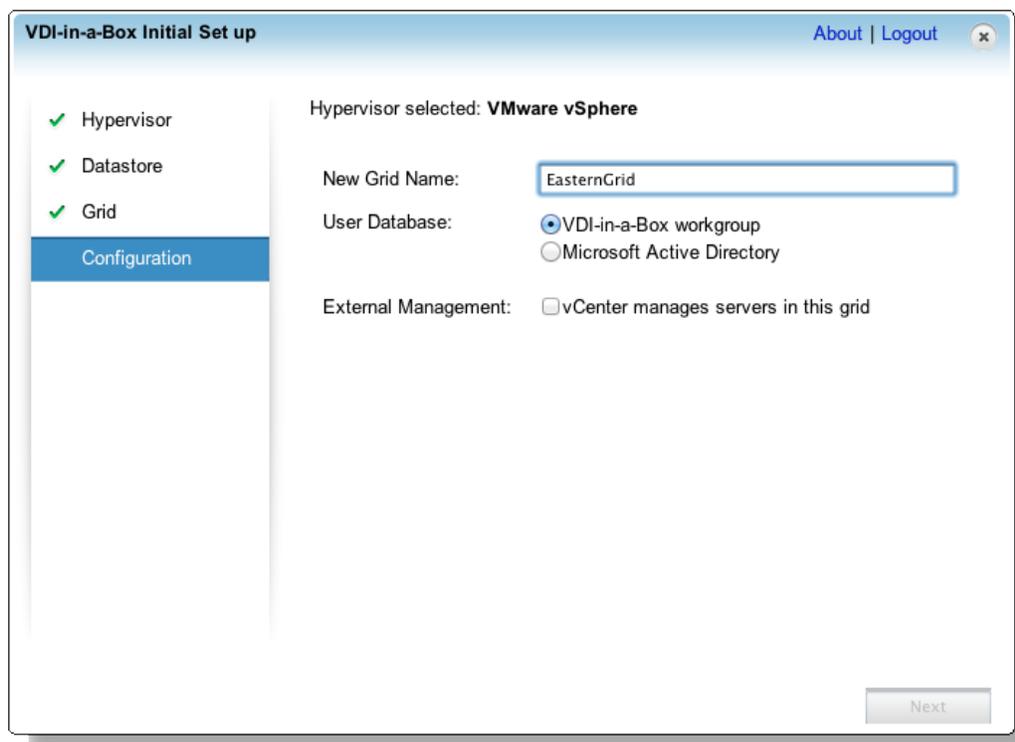
Domain:

User Name:

Password:

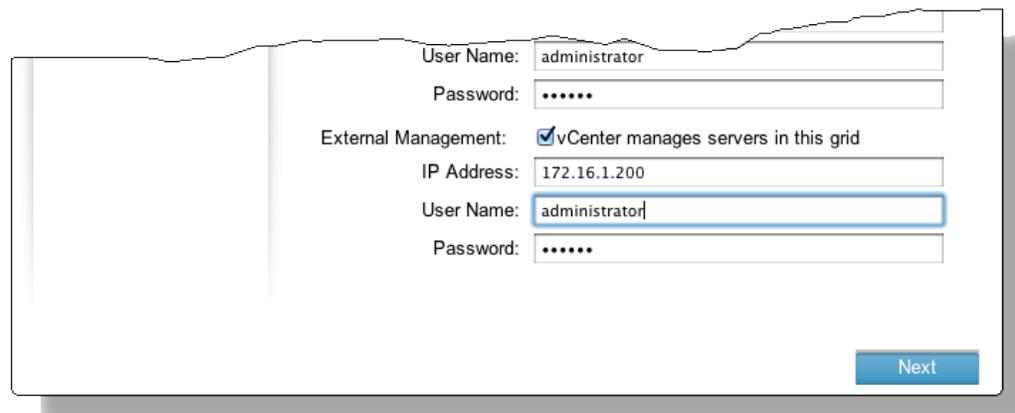
External Management: vCenter manages servers in this grid

Next



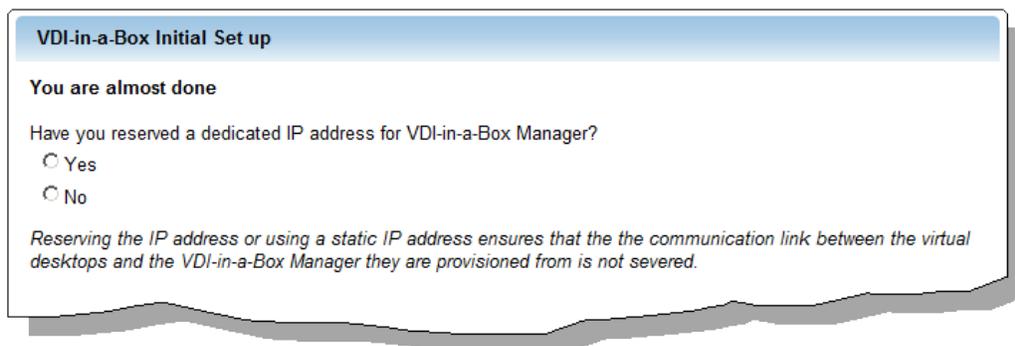
[User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

4. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
6. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 7.



VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、[vCenter manages servers in this grid] を選択します。[vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。

8. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
9. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 10.



[次へ] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。

11. VDI-in-a-Boxマネージャー用のIPアドレスを予約してある場合は [Yes]、予約してない場合は [No] を選択し、[Done] をクリックします。[Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。 VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Database] ページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、 [vCenter manages servers in this grid] を選択します。 [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。
5. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、 [IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
6. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、 [User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。 このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
7. [次へ] をクリックします。 これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージの作成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシンにMicrosoft .Net Framework 3.5 SP1がインストールされ、有効になっている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

1. 有効なMicrosoftボリュームアクティベーションキーを使用して、仮想マシンのライセンス認証を行います。
2. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。
3. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
4. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。

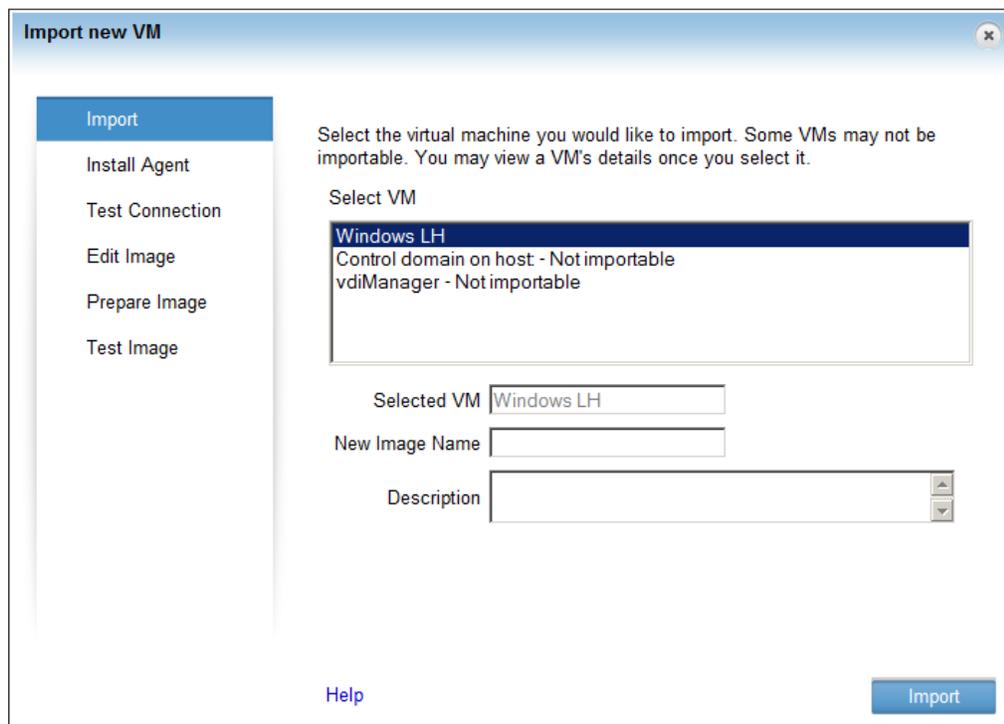
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。

5. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
6. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォールの設定を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
- 2.



-
-
3. [Import] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。
[New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。

注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。

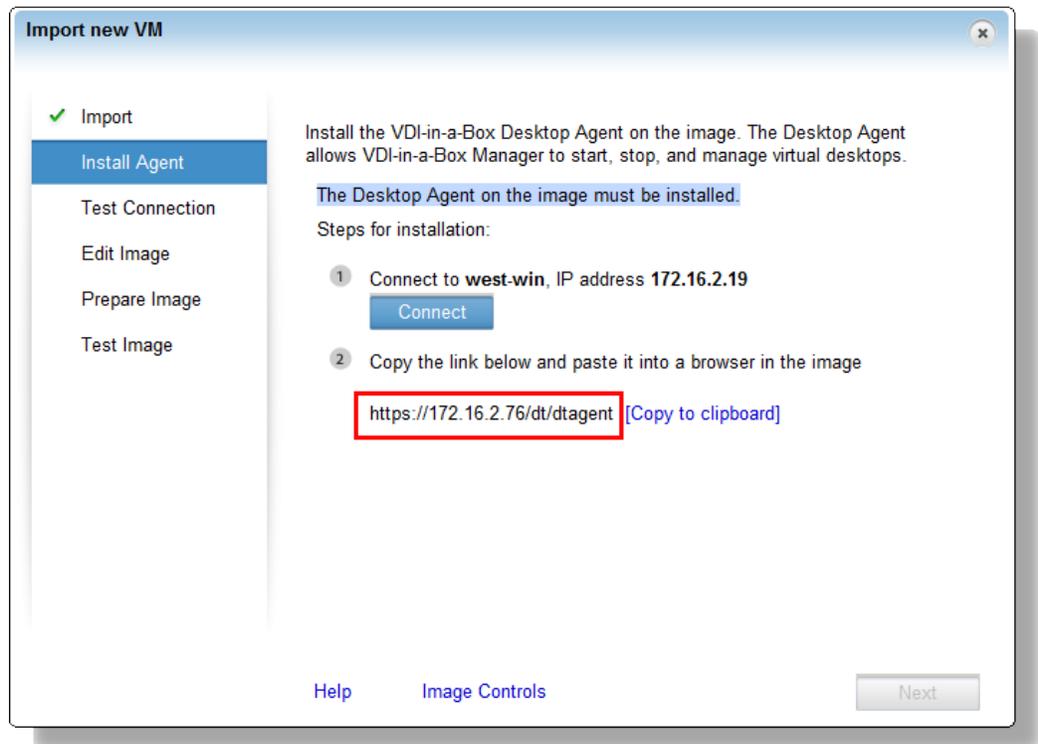
-
-
-
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、 [Import] をクリックします。インポート処理が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。インポート処理が完了すると、Import new VMウィザードの [Install Agent] ページが開きます。

VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールするには

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1.



[Install Agent] ページで、Desktop Agentのアドレス（<https://<IPaddress>/dt/dtagent/>）を選択してクリップボードにコピーします。

2. [Connect] をクリックします。イメージに対するRDP接続が確立されます。

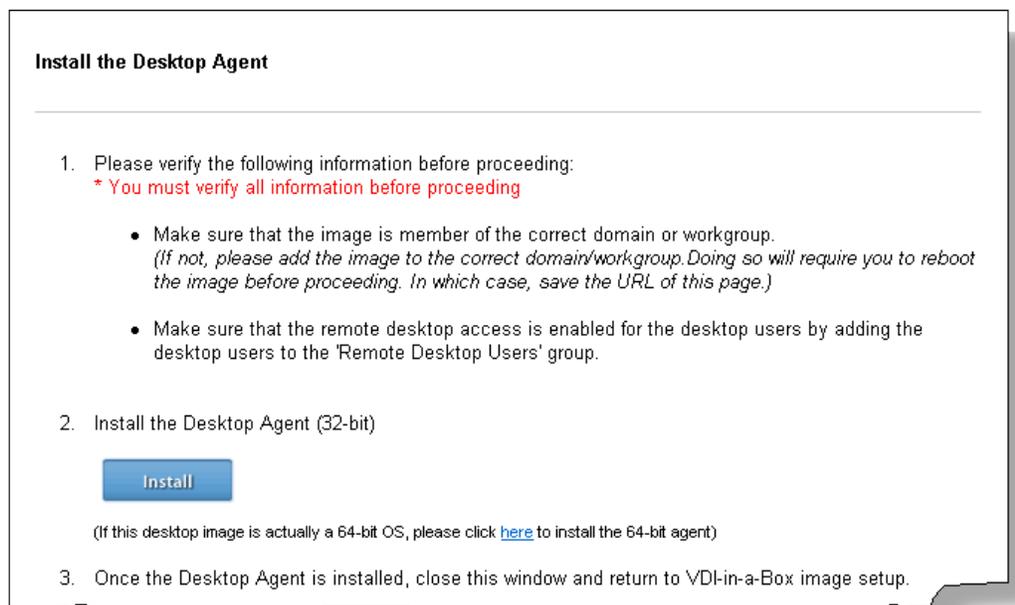
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、次の操作を行います：

a. イメージが、目的のドメインまたはワークグループのメンバーであることを確認します。

b. デスクトップユーザーをイメージのRemote Desktop Usersグループに追加して、リモートデスクトップアクセスを有効にします。

4. イメージのWebブラウザを起動して、手順1.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押します。これにより、VDI-in-a-Box Desktop Agentのインストールページが開きます。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

5.



証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。

6. [Install the Desktop Agent] ページで、 [Install] をクリックします。

注： インストールに失敗した場合は、 [here](#) をクリックして、別の方法でインストールします。

[ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。

7. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。必要なソフトウェアをインストールするためのウィザードが起動します。

8. [次へ] をクリックします。 [Prerequisites] ページが開きます。

9. [Prerequisites] ページでは、そのまま [次へ] をクリックします。

10. ライセンス契約書を読み、同意することを選択して、 [インストール] をクリックします。いくつかのウィンドウが開き、自動的に閉じます。インストールウィザードの完了を示すメッセージが表示されます。

11. [完了] をクリックします。Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setupウィザードが起動します。

12. [次へ] をクリックします。 [Ready to Install] ページが開きます。

13. [Install] をクリックします。インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。

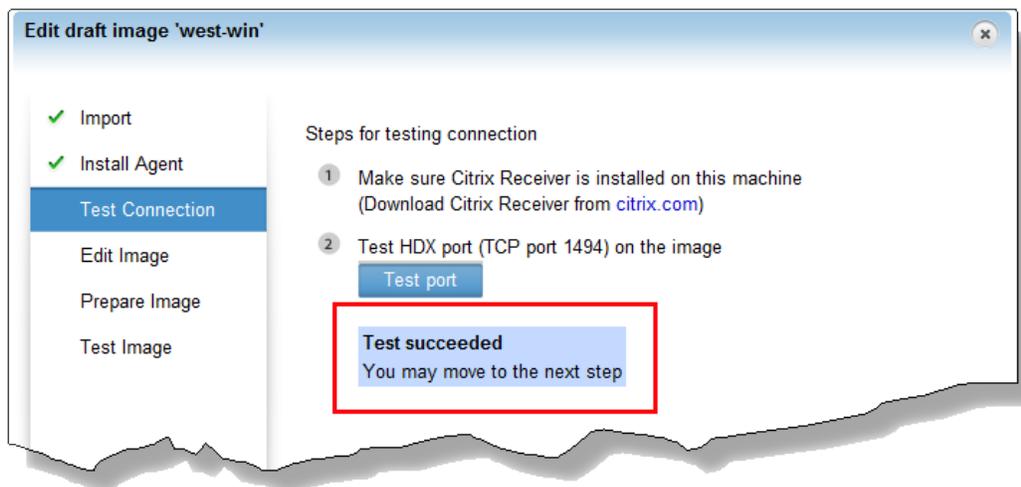
14. メッセージが表示されているダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。 [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページが開きます。

15. [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページで、 [Finish] をクリックします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
16. [次へ] をクリックします。 [Test Connection] ページが開きます。

接続をテストするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールを表示しているコンピューターにCitrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」) がインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。

2.



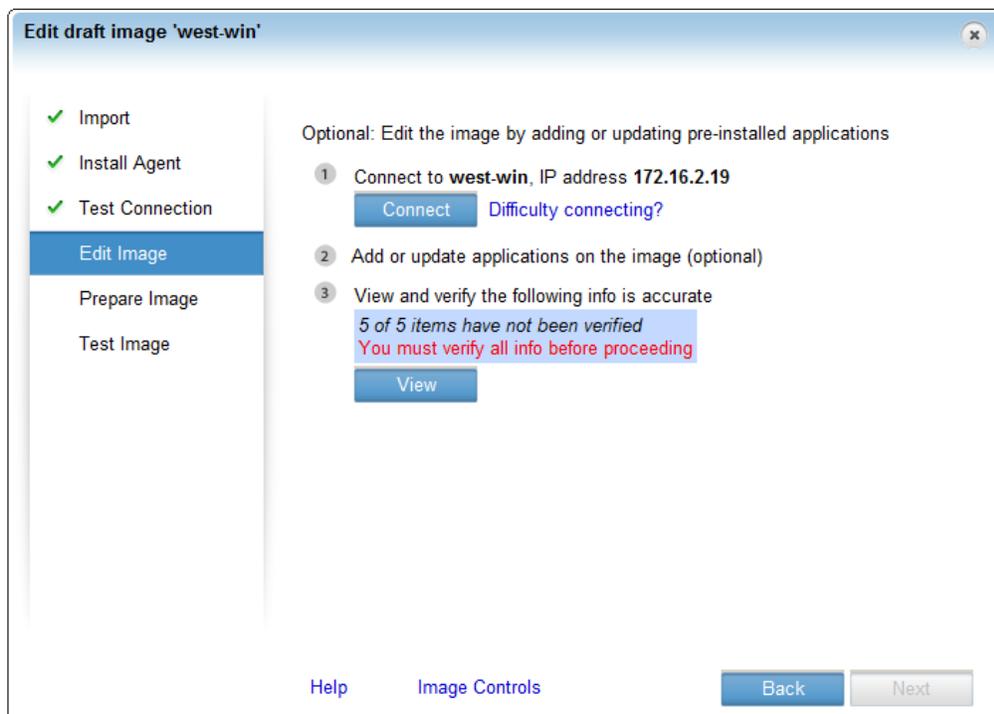
[Test Connection] ページで、 [Test ports] をクリックして接続をテストします。テストの結果を示すメッセージが表示されます。修正が必要な場合は、その手順がメッセージに表示されます。

3. [次へ] をクリックします。 [Edit Image] ページが開きます。

ドラフトイメージを編集するには

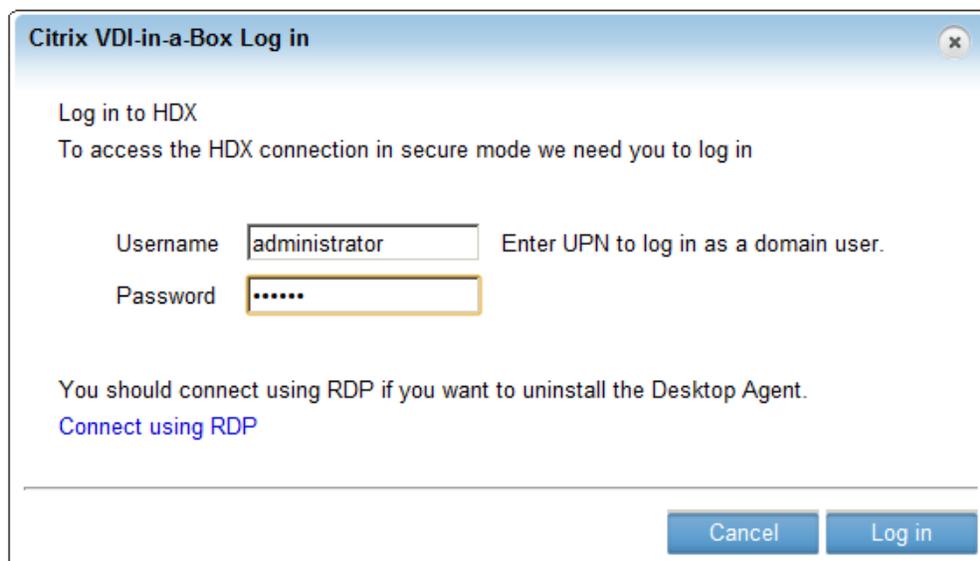
エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが用意されています。

1.



[Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

2.



[Log in to HDX] ダイアログボックスにイメージ用の管理者の資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。

3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。

4. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

5. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
6. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
7. [次へ] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

The screenshot shows the 'Edit draft image' window with the 'Prepare Image' step selected. The left sidebar lists steps: Import, Install Agent, Test Connection, Edit Image, Prepare Image (highlighted), and Test Image. The main area contains the following fields and options:

- Use information from a prior preparation:
- Domain and Organizational Unit (OU) information. Domain user must have privileges to add and remove computers in the domain.
 - Domain name: (example: example.com)
 - Domain administrator:
 - Domain password:
 - Organizational unit (OU): (optional, example: OU=finance,DC=example,DC=com)
- Time zone:
- Computer name prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

The screenshot shows the 'Test Image' step selected in the 'Edit draft image' window. The left sidebar highlights 'Test Image'. The main area contains the following fields and options:

- prefix:
- Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile
- Activation method: using MAK key using KMS key
- Device drivers: Reinstall device drivers during sysprep
- Fast desktop refresh: Enable fast refresh of desktops on user logout

Windows 7 desktops must be set up with proper volume licensing. Click the "Prepare" button to proceed.

Buttons at the bottom: Help, Image Controls, Back, Prepare.

epare Image] ページでは、Microsoft System Preparation Utility (Sysprep) の実行に必要な情報を入力します。

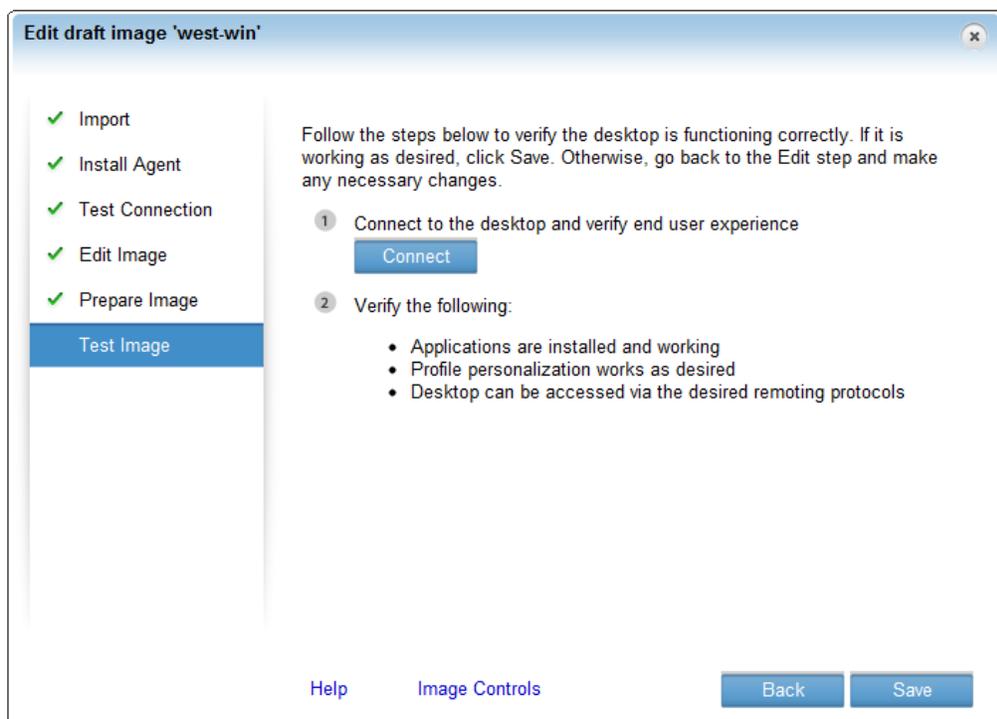
1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスに、vdibox.comなどのドメイン名を入力します。
2. [Domain administrator] ボックスに、管理者のアカウント名を入力します。
注：使用する管理者のアカウントに、ドメイン内でコンピューターを追加および削除する権限が与えられていることを確認してください。
3. [Domain password] ボックスに、管理者のドメイン用パスワードを入力します。
4. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
5. [Time zone] ボックスの一覧から、適切なタイムゾーンを選択します。
6. [Computer name prefix] ボックスにプレフィックスを入力するか、[Default] をクリックします。
7. [Copy profile] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、ローカルの管理者のプロファイルがデフォルトのプロファイルとして設定されます。
8. [Activation method] では、適切なライセンス認証の方法として [using MAK Key] または [Using KMS key] を選択します。不明な場合は、MAKキーを使用してください。
9. [Device drivers] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、Sysprepの実行時にデバイスドライバーが再インストールされます。
10. [Fast desktop refresh] のチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速に更新されるようになります。
11. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。処理が完了すると、[Test Image] ページが開きます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

デスクトップを生成可能なイメージであるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証するために、これまでの手順で準備したイメージをテストします。

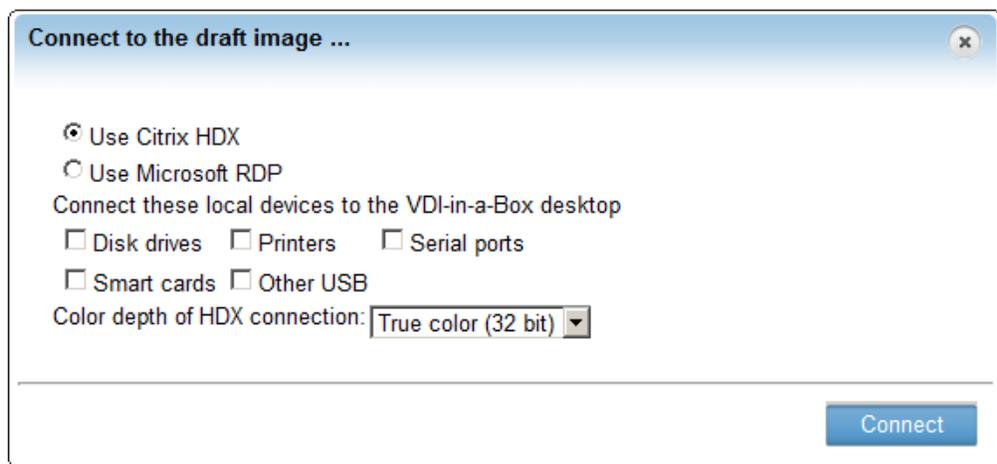
注：テストしたイメージ候補 (Candidate) を保存すると、このテスト中に生成されたテストイメージは削除されます。

1.



[Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。

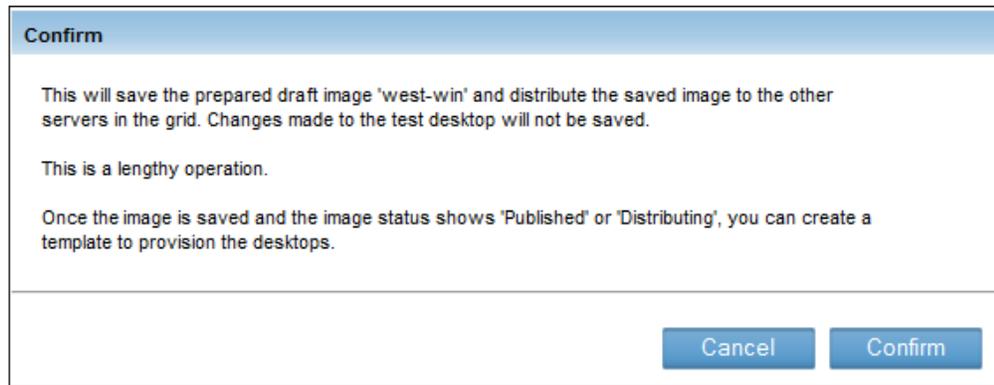
2.



[Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。

3. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスにイメージ用のユーザーの資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。

6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
8. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
9. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。
- 10.



[Test Image] ページで [Save] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

11. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。[Create Desktop Templates] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを 作成するには

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージの作成](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、何台のデスクトップを作成するのか、デスクトップにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1.

Please provide the following info:

Template Name:

Image Name: [View image details](#)

VM Prefix:

Description:

Memory (MB):

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB

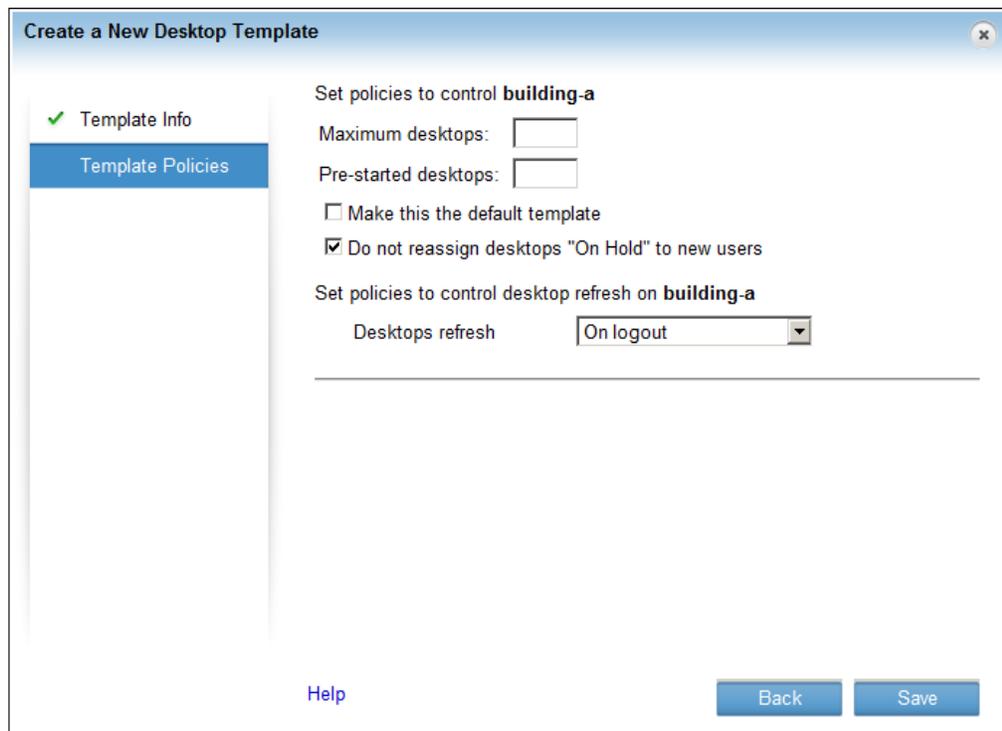
Color depth of HDX connection:

[Help](#)

[Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [VM Prefix] ボックスに、プレフィックスを入力します。このテンプレートから生成される仮想デスクトップには、このプレフィックスが使用されます。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注： Windows 7のデスクトップには1536MB以上、Windows XPのデスクトップには512MB以上のメモリを割り当てることをお勧めします。
7. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
8. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

9.



[次へ] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

10. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。

11. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。

注：テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

12. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

13. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

14. [Desktops refresh] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元（リフレッシュ）するタイミングを指定します。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。

15. [Save] をクリックします。

16. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じテンプレートが使用されます。

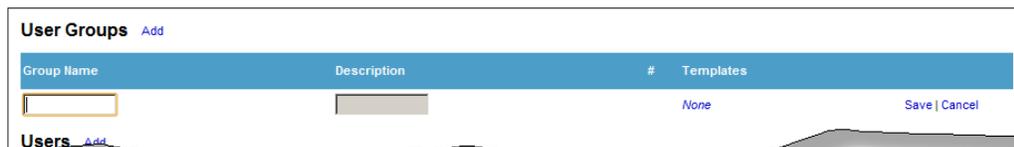
テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザ上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開き、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。

2.



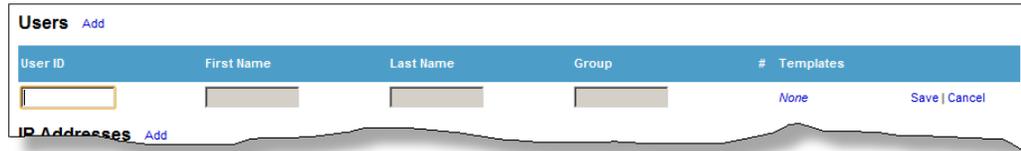
Group Name	Description	#	Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>		None

ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。
注：ここでは、Domain AdminsやDomain UsersなどのActive Directoryセキュリティグループの名前を指定することはできません。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1.



User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	None

ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。

注： [First Name] 、 [Last Name] 、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がデータベースに格納されている場合は、 [Save] をクリックしたときにこれらの情報が自動的に入力されます。

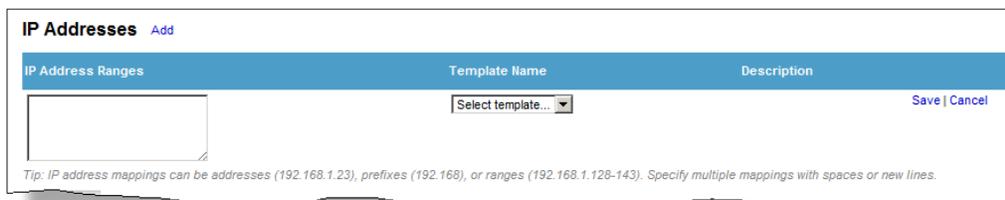
3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。テンプレートを割り当てると、 [None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。

5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1.



The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". To the right of the table are "Save" and "Cancel" buttons. Below the table, there is a tip: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）、Java Runtime Environment（JRE）、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントの最新バージョンをインストールしておく必要があります。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、JREの最新バージョンがインストールされていることを確認し、HDX接続を利用するためにCitrix Receiverもインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 1.6以降がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注： JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。 仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. VDI-in-a-Box Java Desktop Client ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VMware ESXiでのWindows XPイメージの使用

以下のトピックを参照して、Citrix VDI-in-a-Box環境をセットアップします。

- ・ [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには](#)
- ・ [グリッドの作成と構成](#)
- ・ [最初のWindowsイメージの作成](#)
- ・ [公開イメージから最初のテンプレートを作成するには](#)
- ・ [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
- ・ [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_0_2.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_ESX_v5_0_2.ovaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約2GBの空きディスクスペースが必要です。

注：VMware VSphereクライアントからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. [Downloads] をクリックします。
3. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
4. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
5. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
6. [VDI-in-a-Box 5.0.2] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.0.2のページが開きます。
7. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの [Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
8. ライセンス契約に同意します。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
9. [Download Now] をクリックします。
10. 必要に応じてCitrix Download Managerをインストールして、VDI-in-a-Box_ESX_v5_0_2.zipを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
11. ZIPファイルから、vdiManager_ESX_v5_0_2.ovaを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManager_ESX_v5_0_2.ovaを抽出したら、この仮想アプライアンスをVMware vSphereクライアントを使用してVMware ESXi上にインポートします。vSphereクライアントを使用したインポートについて詳しくは、<http://www.vmware.com/>を参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはvSphereクライアント管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドの作成と構成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

ハイパーバイザーとvdiManagerには、IPアドレスを使用することをお勧めします。

また、WebブラウザーでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

初回セットアップ時にvdiManager管理コンソールを開くには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。

注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。

2. WebブラウザーのURLボックスに「**https://<IPaddress>/admin/**」と入力し、Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れます。[Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box管理者ログオン] ページの [ユーザー名] ボックスに、「**vdiadmin**」と入力します。

5.

VDI-in-a-Box

Welcome!

Thank you for choosing VDI-in-a-Box. We want this to be a fast and pleasant experience. Below is a brief overview of the set up process. If you want background information on VDI-in-a-Box before you get started, go to support.citrix.com/vdi-in-a-box.

Are you migrating an existing 4.1 Kaviza Manager? [Migrate it to this VDI-in-a-Box Manager](#)

Overview

Below are the 4 steps you will need to complete in order to generate desktops for your users.

-  Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid
-  Generate a Base Desktop Image
-  Create Desktop Templates from the Base Image
-  Assign Users to Desktops

[Get Started](#)

[パスワード] ボックスに「**kaviza**」と入力し、[ログオン] をクリックします。 [Welcome] ページが開き、仮想デスクトップの生成を完了するために必要な4つの手順が表示されます。

ハイパーバイザーをセットアップするには

1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。Set up Hypervisor and VDI-in-a-Box Gridページが開きます。

2.

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

Hypervisor

Datastore

Grid

Configuration

To connect to the hypervisor, please enter the credentials below.

IP Address: 172.16.2.17

User Name: root

Password:

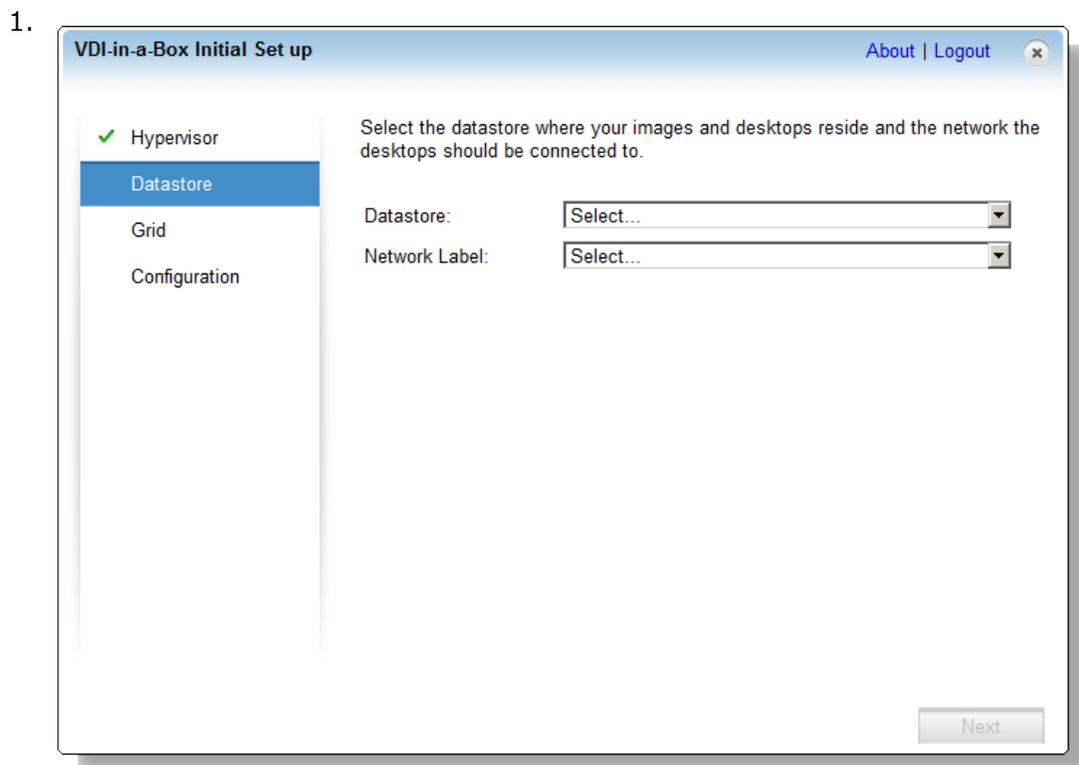
Next

[続ける] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。

3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアとネットワークラベルをセットアップするには

データストアには、デスクトップのイメージと仮想デスクトップが格納されます。



[Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。

2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のグリッドまたは既存のグリッドの選択

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。新規のグリッドを作成するときは、VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [New Grid Name] ボックスに、新しいグリッドの名前を入力します。

3.

VDI-in-a-Box Initial Set up About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration**

Hypervisor selected: **VMware vSphere**

New Grid Name:

User Database: VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

IP Address:
(Domain example: example.com)

Domain:

User Name:

Password:

External Management: vCenter manages servers in this grid

VDI-in-a-Box Initial Set up About | Logout

- ✓ Hypervisor
- ✓ Datastore
- ✓ Grid
- Configuration**

Hypervisor selected: **VMware vSphere**

New Grid Name:

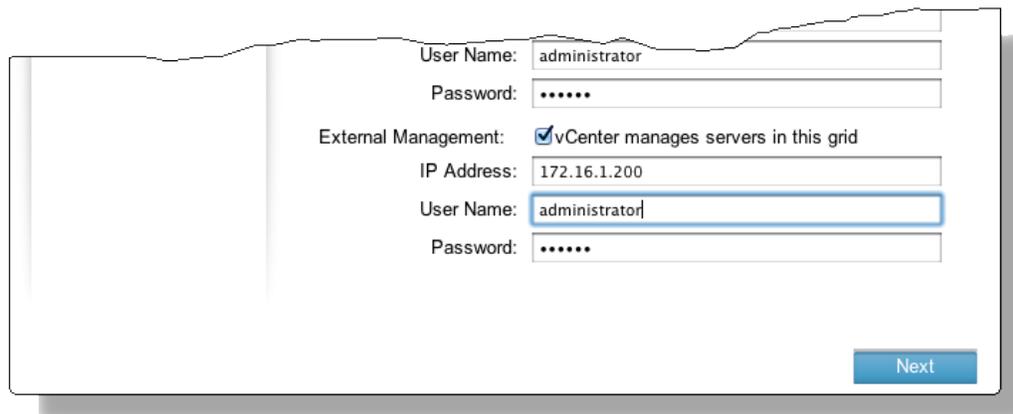
User Database: VDI-in-a-Box workgroup
 Microsoft Active Directory

External Management: vCenter manages servers in this grid

[
U
s
e
r

Database] で、 [VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。 [Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。 [VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

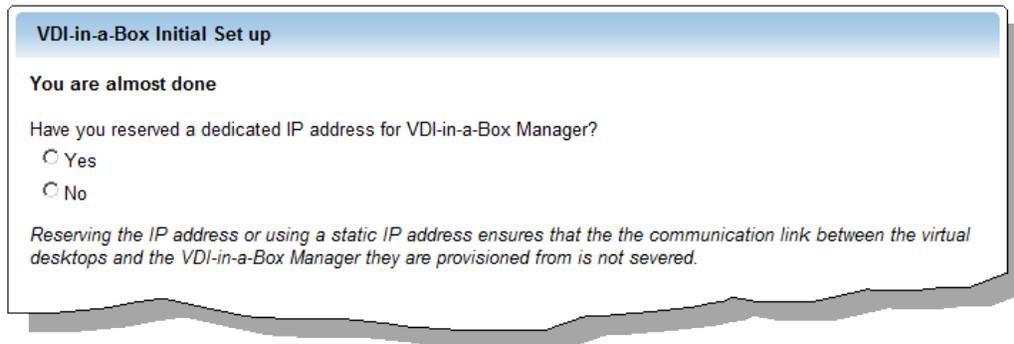
4. Active Directoryを選択した場合、 [IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、 [Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
6. Active Directoryを選択した場合、 [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。 このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
- 7.



VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、 [vCenter manages servers in this grid] を選択します。 [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。

8. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、 [IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
9. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、 [User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。 このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。

10.



[次へ] をクリックします。「Have you reserved your VDI-in-a-Box Manager's IP address?」という質問が表示されます。

11. VDI-in-a-Boxマネージャー用のIPアドレスを予約してある場合は [Yes]、予約していない場合は [No] を選択し、[Done] をクリックします。[Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、[Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Database] ページが開きます。
2. [Database] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作している vdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Database] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、VDI-in-a-Boxコンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、[vCenter manages servers in this grid] を選択します。[vCenter manages servers in this grid] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。
5. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[IP Address] ボックスに、vCenterを実行するサーバーのIPアドレスを入力します。
6. [vCenter manages servers in this grid] を選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
7. [次へ] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージの作成

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザーの機能を使用して新しい仮想マシンを作成して、Windowsをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ・ 仮想マシン上でWindows XP Professional (32ビット)、Windows 7 Professional、またはEnterprise (32ビットまたは64ビット) が実行されている。
- ・ 仮想マシンにMicrosoft .Net Framework 3.5 SP1がインストールされ、有効になっている。
- ・ 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- ・ 仮想マシンのディスクイメージは1つだけである。
- ・ VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。

イメージのインポートの準備を行うには

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

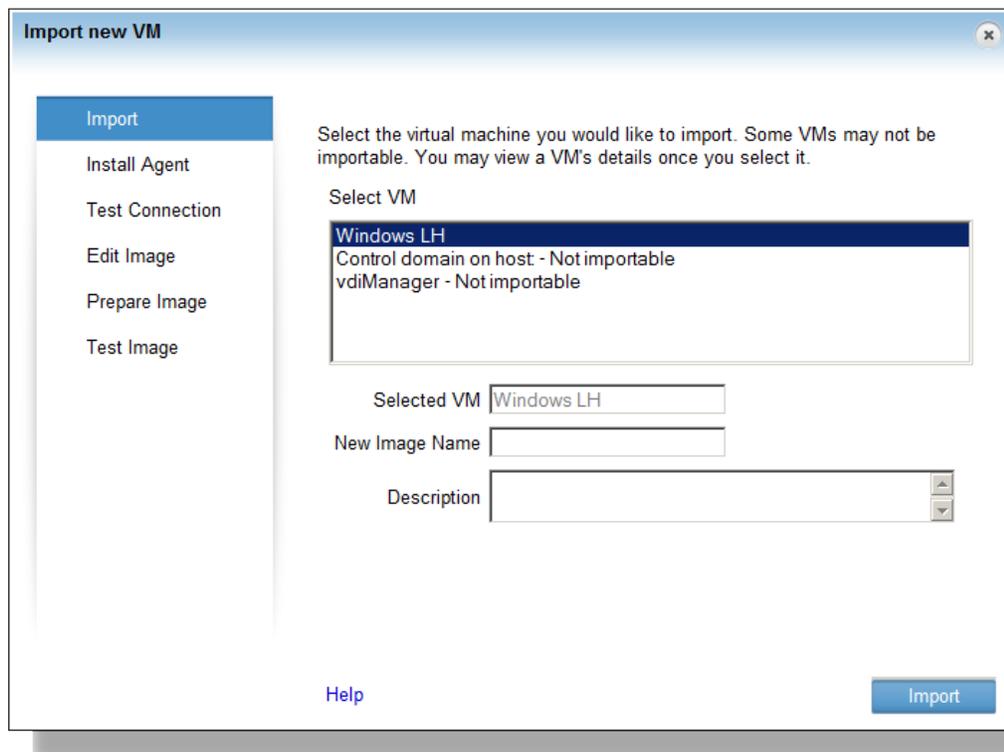
1. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
2. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
4. すべてのネットワークのリモートデスクトップ接続を許可するように、ファイアウォールの設定を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。

Windows仮想マシンをインポートするには

Webブラウザ上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、[Continue] をクリックします。

2.



[Import] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。

3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。

注： インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。

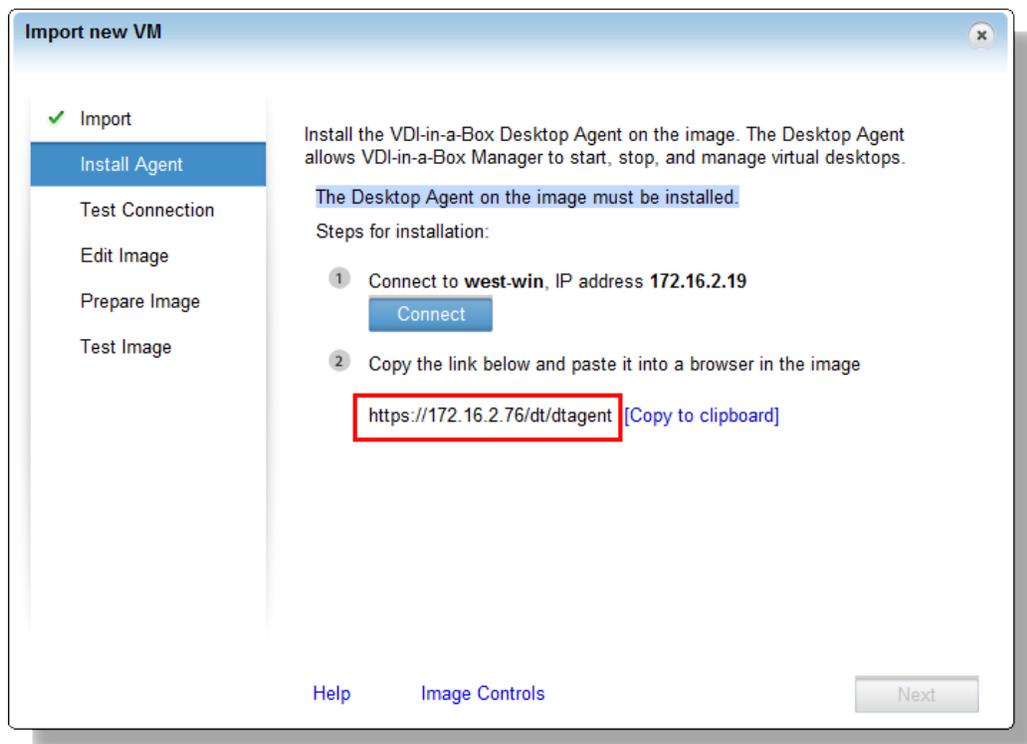
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力し、[Import] をクリックします。インポート処理が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。インポート処理が完了すると、Import new VMウィザードの [Install Agent] ページが開きます。

VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールするには

VDI-in-a-Box Desktop Agentは、イメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

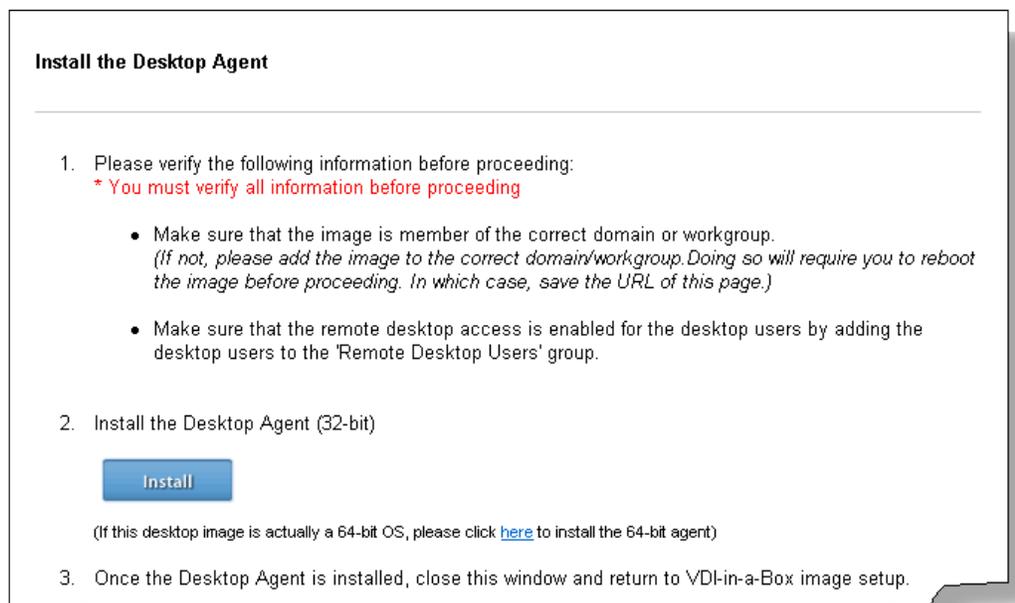
1.



[Install Agent] ページで、Desktop Agentのアドレス（<https://<IPaddress>/dt/dtagent/>）を選択してクリップボードにコピーします。

2. [Connect] をクリックします。イメージに対するRDP接続が確立されます。
3. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、次の操作を行います：
 - a. イメージが、目的のドメインまたはワークグループのメンバーであることを確認します。
 - b. デスクトップユーザーをイメージのRemote Desktop Usersグループに追加して、リモートデスクトップアクセスを有効にします。
4. イメージのWebブラウザを起動して、手順1.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押します。これにより、VDI-in-a-Box Desktop Agentのインストールページが開きます。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

5.



証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [Install the Desktop Agent] ページが開きます。

6. [Install the Desktop Agent] ページで、 [Install] をクリックします。

注： インストールに失敗した場合は、 [here](#) をクリックして、別の方法でインストールします。

[ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。

7. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。必要なソフトウェアをインストールするためのウィザードが起動します。

8. [次へ] をクリックします。 [Prerequisites] ページが開きます。

9. [Prerequisites] ページでは、そのまま [次へ] をクリックします。

10. ライセンス契約書を読み、同意することを選択して、 [インストール] をクリックします。いくつかのウィンドウが開き、自動的に閉じます。インストールウィザードの完了を示すメッセージが表示されます。

11. [完了] をクリックします。Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setupウィザードが起動します。

12. [次へ] をクリックします。 [Ready to Install] ページが開きます。

13. [Install] をクリックします。インストールが成功したことを示すメッセージが表示されます。

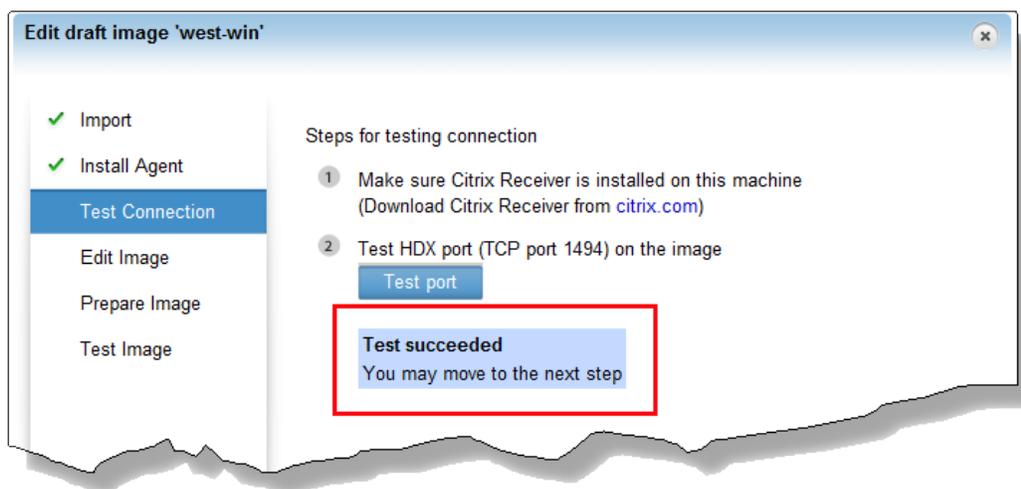
14. メッセージが表示されているダイアログボックスで、 [OK] をクリックします。 [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページが開きます。

15. [Completing the Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Setup Wizard] ページで、 [Finish] をクリックします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
16. [次へ] をクリックします。 [Test Connection] ページが開きます。

接続をテストするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールを表示しているコンピューターにCitrix Receiver (旧称「Citrix Online Plug-in」) がインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。

2.



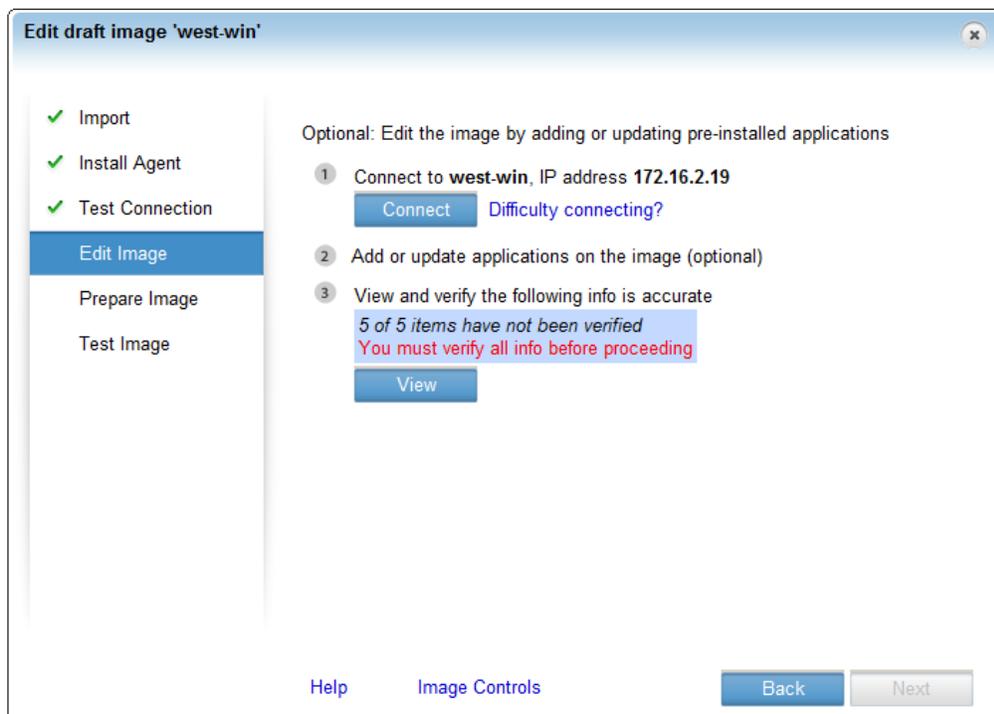
[Test Connection] ページで、 [Test ports] をクリックして接続をテストします。テストの結果を示すメッセージが表示されます。修正が必要な場合は、その手順がメッセージに表示されます。

3. [次へ] をクリックします。 [Edit Image] ページが開きます。

ドラフトイメージを編集するには

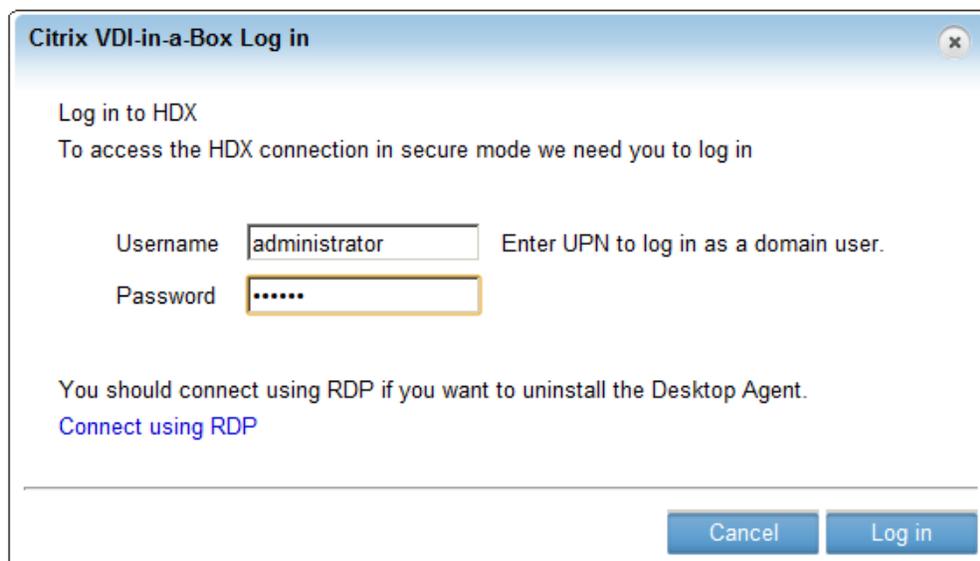
エージェントをインストールしたドラフトイメージを編集して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが用意されています。

1.



[Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

2.



[Log in to HDX] ダイアログボックスにイメージ用の管理者の資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。

3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。

4. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。

注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。

5. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
6. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
7. [次へ] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

イメージの準備を行うには

[Prepare Image] ページでは、Microsoft System Preparation Utility (Sysprep) の実行に必要な情報を入力します。

1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスに、vdibox.comなどのドメイン名を入力します。
2. [Domain administrator] ボックスに、管理者のアカウント名を入力します。

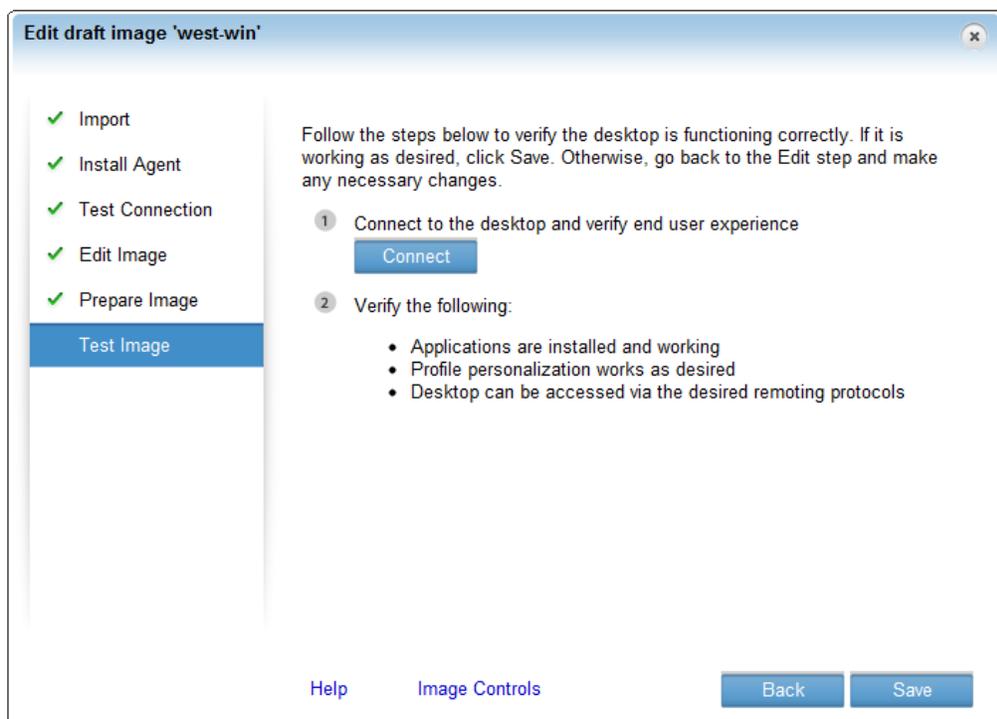
注：使用する管理者のアカウントに、ドメイン内でコンピューターを追加および削除する権限が与えられていることを確認してください。
3. [Domain password] ボックスに、管理者のドメイン用パスワードを入力します。
4. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
5. [Product key] に、Windowsのプロダクトキーを入力します。
6. [Time zone] ボックスの一覧から、適切なタイムゾーンを選択します。
7. [Computer name prefix] ボックスにプレフィックスを入力するか、[Default] をクリックします。
8. [Copy profile] のチェックボックスがオンになっていることを確認します。これにより、ローカルの管理者のプロファイルがデフォルトのプロファイルとして設定されます。
9. [Fast desktop refresh] のチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速に更新されるようになります。
10. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

準備したデスクトップイメージをテストするには

デスクトップを生成可能なイメージであるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証するために、これまでの手順で準備したイメージをテストします。

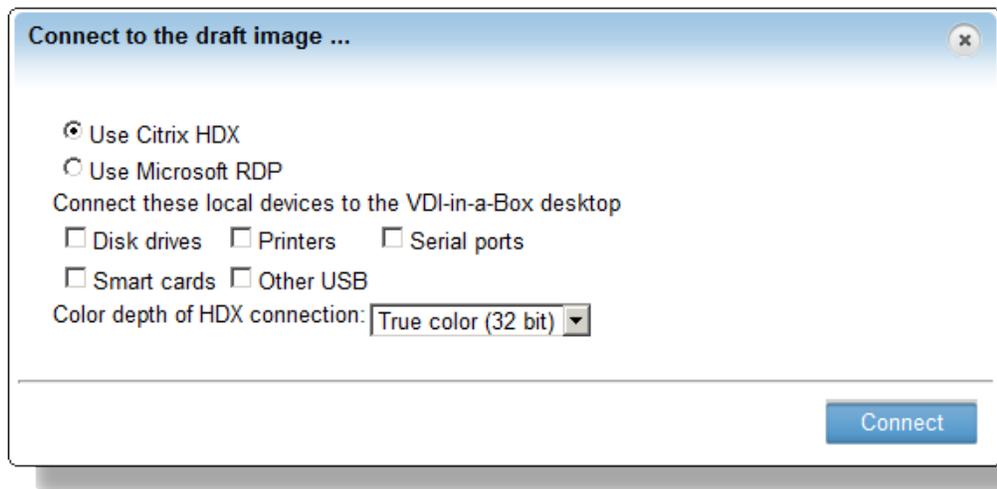
注：テストしたイメージ候補 (Candidate) を保存すると、このテスト中に生成されたテストイメージは削除されます。

1.



[Test Image] ページで [Connect] をクリックします。 [Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。

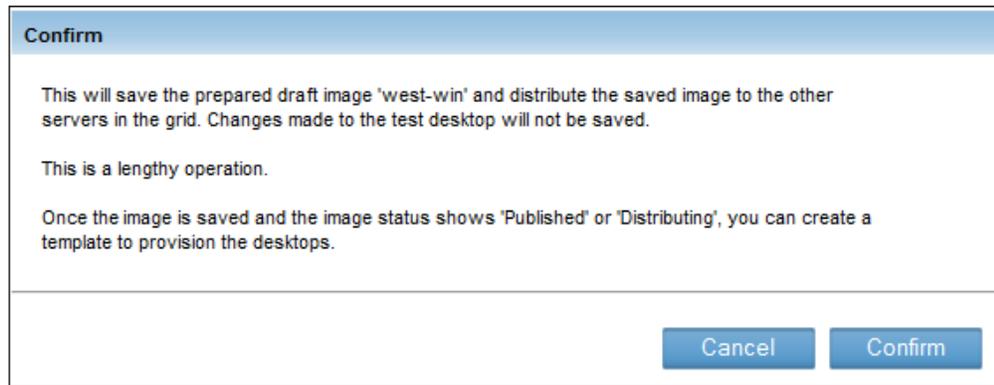
2.



[Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。 [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。

3. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスにイメージ用のユーザーの資格情報を入力し、[Log in] をクリックして、HDX接続でイメージにログオンします。 HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。

6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
8. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
9. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。
- 10.



[Test Image] ページで [Save] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。

11. [Confirm] メッセージで、[Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。[Create Desktop Templates] ページが開きます。

公開イメージから最初のテンプレートを 作成するには

ここでは、必要な仕様を満たす同一の仮想デスクトップを生成するためのテンプレートを作成します。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。イメージにはデスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。イメージの作成について詳しくは、「[最初のWindowsイメージの作成](#)」を参照してください。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。

重要： テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージの作成と公開を行う必要があります。

テンプレート作成中に設定するポリシーにより、何台のデスクトップを作成するのか、デスクトップにどれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。

テンプレートでは、デスクトップを事前起動するためのオプションも選択できます。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。

Webブラウザー上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1.

Create a New Desktop Template

Please provide the following info:

Template Name:

Image Name: [View image details](#)

VM Prefix:

Description:

Memory (MB):

Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop

Disk drives Printers Serial ports

Smart cards Other USB

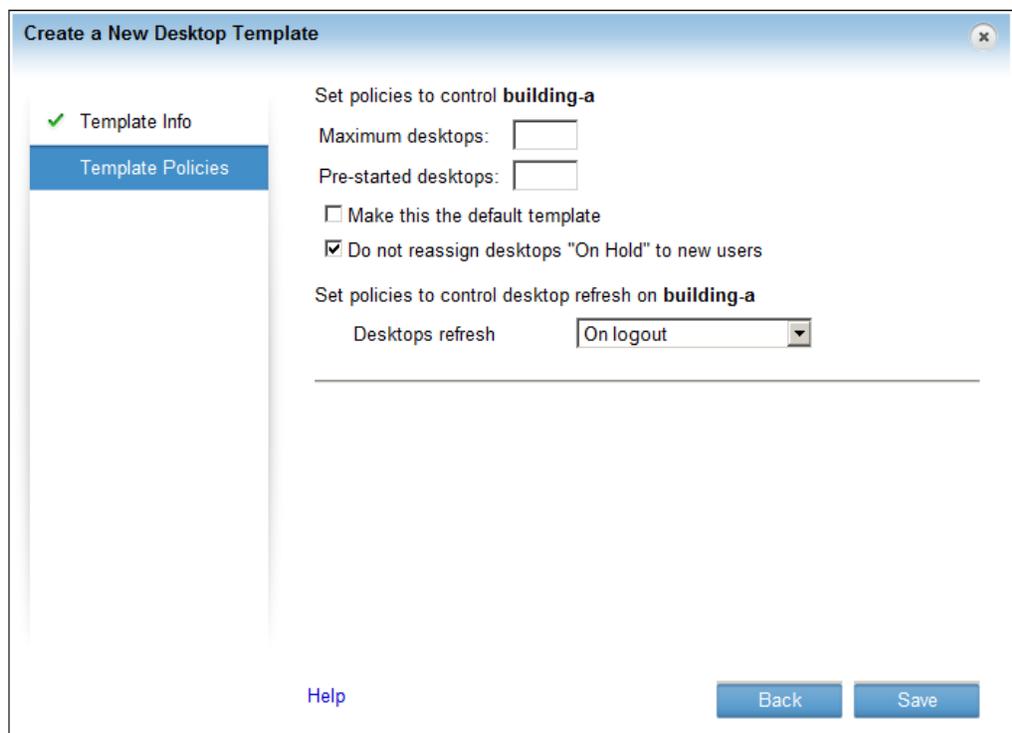
Color depth of HDX connection:

[Help](#)

[Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Templateウィザードの [Template Information] ページが開きます。

2. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
3. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
4. [VM Prefix] ボックスに、プレフィックスを入力します。このテンプレートから生成される仮想デスクトップには、このプレフィックスが使用されます。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. [Memory (MB)] ボックスの一覧で、デスクトップに割り当てるメモリを選択します。
注： Windows 7のデスクトップには1536MB以上、Windows XPのデスクトップには512MB以上のメモリを割り当てることをお勧めします。
7. ディスクドライブやプリンターなど、仮想デスクトップに接続するローカルデバイスを選択します。
8. 必要に応じて、HDX接続の表示色数を変更します。

9.



[次へ] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

10. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。

11. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。

注：テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

12. [Make this the default template] チェックボックスをオンにすると、テンプレートが割り当てられていないユーザーにこのイメージが使用されるようになります。

13. [Do not reassign desktops "On Hold" to new users] チェックボックスをオンにすると、デスクトップをユーザーが保持できるようになります。

注：このオプションは、デフォルトで有効になっています。

14. [Desktops refresh] ボックスの一覧で、デスクトップの更新方法を選択します。ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元（リフレッシュ）するタイミングを指定します。

- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。
- Scheduled : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップを更新するオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログアウトした時点で更新されます。

- ・ Scheduled or on logout : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。
- ・ Manual : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる「永続デスクトップ」が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。

15. [Save] をクリックします。

16. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。

テンプレートを編集するには

テンプレートを編集することで、デスクトップの最大数や事前起動デスクトップの数などの設定を変更できます。

Webブラウザで、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログインします。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. 必要に応じて設定を変更して、[Save] をクリックします。

重要： [Save] は、[Template Policies] ページ上にあります。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じテンプレートが使用されます。

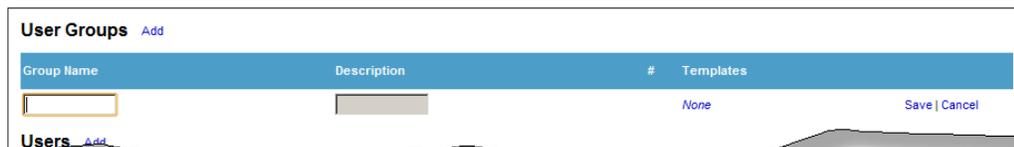
テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

Webブラウザー上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<IPaddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

ユーザーグループにテンプレートを割り当てるには

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開き、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。

2.

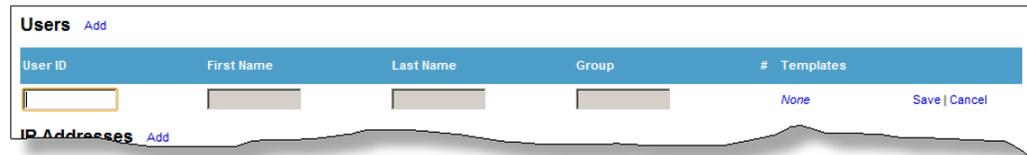


ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。
注：ここでは、Domain AdminsやDomain UsersなどのActive Directoryセキュリティグループの名前を指定することはできません。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。[Template Policies] ページで [Make this the default template] を選択している場合、[None] の代わりに [Default] が表示されます。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。
6. [Save] をクリックします。グループが一覧に追加されます。
7. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

ユーザーにテンプレートを割り当てるには

1.



User ID	First Name	Last Name	Group	# Templates
<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	None

ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。

注： [First Name]、[Last Name]、および [Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がデータベースに格納されている場合は、[Save] をクリックしたときにこれらの情報が自動的に入力されます。

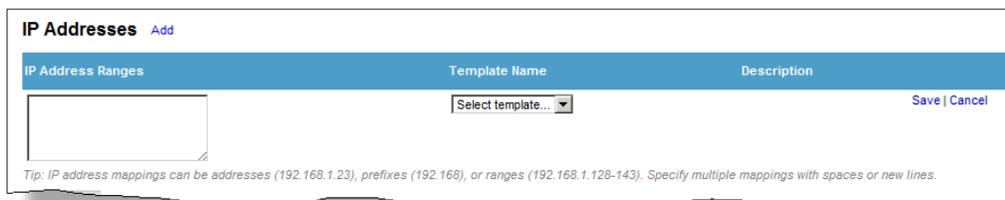
3. [Templates] の下の [None] をクリックし、使用可能なテンプレートの一覧から、ユーザーに割り当てるテンプレートを選択します。テンプレートを割り当てると、[None] がテンプレート名に置き換えられます。割り当てるテンプレートを変更するには、テンプレート名をクリックして使用可能なテンプレートの一覧を再表示します。

4. [Save] をクリックします。ユーザーが一覧に追加されます。

5. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

受信IPアドレスにテンプレートを割り当てるには

1.



The screenshot shows a web interface titled "IP Addresses" with an "Add" button. Below the title is a table with three columns: "IP Address Ranges", "Template Name", and "Description". The "IP Address Ranges" column contains a text input field. The "Template Name" column contains a dropdown menu labeled "Select template...". The "Description" column contains a "Save | Cancel" button. Below the table, there is a tip: "Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines."

IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. [Templates Name] の一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。

注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

テンプレートの割り当てを編集するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて [Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、接続元のユーザーデバイスにCitrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）、Java Runtime Environment（JRE）、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントの最新バージョンをインストールしておく必要があります。

ユーザーデバイスを準備するには

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、JREの最新バージョンがインストールされていることを確認し、HDX接続を利用するためにCitrix Receiverもインストールします。

- ・ Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からダウンロードしてインストールします。
- ・ ユーザーデバイスにJRE 1.6以降がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

注： JREは、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを実行するために必要です。

デスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<IPaddress>/>（VDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレス）」と入力します。 Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [ユーザー名] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [パスワード] ボックスにパスワードを入力し、[ログオン] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。 仮想デスクトップに接続されます。

WebブラウザからVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「`https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. VDI-in-a-Box Java Desktop Client ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

コマンドプロンプトからVDI-in-a-Box Java デスクトップクライアントを使用してデスクトッ プに接続するには

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。
2. 「`javaws https://<IPAddress>/dt/vdiclient.jnlp`」というコマンドを入力します。
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VDI-in-a-Box 4.1から5.0.2への移行

Citrix VDI-in-a-Box 5.0.2には、VDI-in-a-Box 4.1環境をVDI-in-a-Box 5.0.2に変換するための移行ウィザードが用意されています。移行を実施するには、VDI-in-a-Boxマネージャー4.1の移行準備を行い、VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）5.0.2を使用してサーバーをセットアップしてから、移行ウィザードを使用します。移行ウィザードにより、VDI-in-a-Box 4.1の構成全体が、vdiManager 5.0.2で準備したサーバーに移動します。

制限事項

- ・ サポート対象となるのは、Kaviza VDI-in-a-Box 4.1.xからCitrix VDI-in-a-Box 5.0.2への移行だけです。
- ・ VDI-in-a-Box 5.0のTechnical Preview版からの移行はサポートされません。
- ・ VDI-in-a-Box 4.1.x以前のバージョンからの移行はサポートされません。
- ・ VDI-in-a-Box 5.0のリリースバージョンまたはプレビューバージョンからのアップグレードはサポートされません。

注：VDI-in-a-Box 5.0または5.0.1のリリースバージョンをVDI-in-a-Box 5.0.2にアップグレードするには、Citrix Knowledge Centerの[CTX132754](#)にあるHotfix Rollup Pack 2 for Citrix VDI-in-a-Box 5.0を使用します。

移行とネットワーク構成

次の表は、移行がネットワーク構成に与える影響を示しています。

移行前（vdiManager 4.1）	移行後（vdiManager 5.0.2）
Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）	静的IP構成
静的IP構成	静的IP構成
手動ネットワーク構成	移行されない - 手動による構成が必要

前提条件

- ・ vdiManagerの両方のバージョンで、同じ物理サーバーを使用してください。

VDI-in-a-Boxを移行するには

1. vdiManager 4.1の移行準備を行います。

- a. 移行中はデスクトップを使用できないので、ユーザーとダウンタイムを調整してください。
- b. vdiManager 4.1コンソールにログオンします。
- c. テンプレートで、事前起動デスクトップの数を0に設定します。これを行うには、[Templates] タブでテンプレート名をクリックし、[Next] をクリックします。次に、[Pre-started desktops] で「0」と入力し、[Save] をクリックします。
- d. すべての静的デスクトップの電源を切ります。これを行うには、[Desktops] タブで [User Sessions] をクリックして、電源を切る各デスクトップの [Actions] をクリックし、[Shutdown] をクリックします。

注：すべての静的デスクトップが完全にシャットダウンするまで、グリッドをメンテナンスモードにしないでください。
- e. サーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブで目的のサーバーをクリックし、[Deactivate] をクリックして [Confirm] をクリックします。
- f. グリッドをメンテナンスモードにしてvdiManager 4.1コンソールからログオフします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックし、[OK] をクリックします。

手順について詳しくは、VDI-in-a-Box 4.1のドキュメントを参照してください。

2. vdiManager 5.0.2をハイパーバイザー上の仮想マシンとして設定します。詳しくは、使用するハイパーバイザーに関するセクションで、「VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出するには」、「vdiManagerをインポートするには」、および「初回セットアップ時にVDI-in-a-Boxコンソールを開くには」を参照してください。

- ・ [Citrix XenServer \(Windows 7イメージの使用\)](#)
- ・ [Citrix XenServer \(Windows XPイメージの使用\)](#)
- ・ [VMware ESX \(Windows 7イメージの使用\)](#)
- ・ [VMware ESX \(Windows XPイメージの使用\)](#)

ウィザードの [Welcome] ページが表示されたら、次の手順に進み、移行を開始します。

3.



[Welcome] ページで、[Yes, start migration] をクリックします。

4. [Manager IP Address] ボックスに、移行元のvdiManager 4.1のIPアドレスを入力します。

重要： vdiManagerのIPアドレスを正確に入力してください。 ウィザードによる確認は行われません。

- 5.

Migrate Existing Manager

You can migrate an existing VDI-in-a-Box Manager to this new appliance by skipping the set up and copying the existing Manager's configuration through this control.

Prior to migration the existing grid must be put in maintenance mode.

This migration will copy the VDI-in-a-Box state, customization, license configuration, and IP address but it will not duplicate the advanced network configuration of the other Manager. You must return to this VDI-in-a-Box console and configure the advanced networking as desired. You must also reserve the new Manager's MAC address in the DHCP server if you use DHCP configuration.

You must be certain that the VDI-in-a-Box Manager you indicate below is the one you intend to migrate and that it resides on the same server as this current new appliance. No checks will be performed to verify that you are not migrating the wrong Manager.

Note that the existing VDI-in-a-Box Manager cannot be used once it has been migrated. It will be left in a disabled state where the VM can start but the VDI-in-a-Box Manager service cannot.

Fill in the VDI-in-a-Box Manager IP address and the password of the user 'kvm' below. If you have not changed the password of that user on the virtual appliance, leave the password blank.

Manager IP Address:

User:

Password:

パスワードフィールドを空欄のままにするか、またはパスワードを変更済みの場合はパスワードを入力して、[Migrate] をクリックします。4.1アプライアンスの電源は切断され、vdiManager 4.1は無効になっているので、移行中に実行することはできません。移行が開始され、約5分で終了します。移行により、移行元のvdiManager 4.1のIPアドレスが新しいvdiManager 5.0.2に移行されるので、ユーザーは同じショートカット、ブックマーク、およびリンクを使用してvdiManager 5.0.2環境に接続することができます。移行が完了すると、新しいvdiManager 5.0.2の [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。

いったん移行処理が始まったら、グリッド内の次のサーバーの移行を開始できます。グリッド内のすべてのサーバーが移行されるまで、上記の手順を繰り返します。

重要： すべてのサーバーの移行が完了するまで、グリッドのメンテナンスモードを解除しないでください。vdiManager 4.1とvdiManager 5.0.2の両方でグリッドを使用すると、vdiManager 4.1からデスクトップが失われます。

移行したvdiManagerの起動

グリッド内のすべてのサーバーの移行が完了したら、そのうちの1つにログオンし、グリッドのメンテナンスモードを解除して、事前起動デスクトップの数を元に戻し、移行前にシャットダウンしたすべての静的デスクトップを起動します。

1. vdiManager 5.0.2コンソールにログオンします。コンソールに、[Grid is in maintenance mode] というメッセージが表示されます。
2. サーバーをアクティブ化します。
3. VDI-in-a-Box Desktop Agentを更新します（次の節を参照してください）。
4. 各テンプレートで、事前起動デスクトップの数を再設定します。
5. 各静的デスクトップを起動します。
6. グリッドのメンテナンスモードを解除します。

VDI-in-a-Box Desktop Agentの更新

VDI-in-a-Box 4.1からVDI-in-a-Box 5.0.2への移行が完了したら、公開イメージおよび静的デスクトップ上の以前のVDI-in-a-Box Desktop Agentを、新しいDesktop Agentに置き換える必要があります。

公開イメージ上のDesktop Agentをアップデートするには

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. 目的のイメージの [Copy] をクリックします。 [New Image] ダイアログボックスが開きます。
3. 新しいイメージの名前と説明を入力して、[OK] をクリックします。 選択したイメージのコピーが生成されます。
4. 新しいイメージの [Edit] をクリックします。 [Install Agent] ページが開きます。
5. [Connect] をクリックします。 仮想マシンが起動します。
6. 仮想マシンに管理者としてログオンします。

注： ローカルの管理者アカウントを使用することをお勧めします。
7. コントロールパネルから、Kaviza Desktop Agentをアンインストールします。 イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
8. Desktop Agentのアドレス (<https://<IPaddress>/dt/dtagent/>) を選択してクリップボードにコピーします。
9. [Connect] をクリックします。 イメージに対するRDP接続が確立されます。
10. 仮想マシンに管理者としてログオンします。
11. イメージのWebブラウザを起動して、手順8.でコピーしたアドレスをURLボックスに貼り付けてEnterキーを押し、画面上の指示に従ってVDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールします。
12. イメージが再起動され、VDI-in-a-Boxコンソールに進行状況を示す状態ページが開きます。 [Install Agent] ページが開きます。
13. Edit draft imageウィザードを最後まで実行します。 このウィザードについては、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」 > 「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。
14. [Templates] タブをクリックします。
15. 目的のテンプレートの [Copy] をクリックします。 [Copy from Desktop Template] ダイアログボックスが開きます。
16. 新しいテンプレートの名前を入力します。
17. [Image Name] ボックスの一覧で新しいイメージを選択し、[Next] をクリックします。
18. [Save] をクリックし、[Close] をクリックします。
19. [Users] タブをクリックします。
20. 新しいテンプレートを割り当てます。 詳しくは、eDocsの「VDI-in-a-Box」 > 「VDI-in-a-Boxの導入」 > 「ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの

割り当て」を参照してください。

新しいイメージをテストし、ユーザーに展開できることを確認したら、コピー元のイメージを削除します。

静的デスクトップ上のDesktop Agentをアップデートするには

1. ハイパーバイザーから静的デスクトップに管理者としてログオンします。
注：ローカルの管理者アカウントを使用することをお勧めします。
2. コントロールパネルから、インストール済みのDesktop Agentをアンインストールします。仮想マシンが再起動します。
3. ハイパーバイザーから同じデスクトップに管理者としてログオンします。
4. 仮想マシンのWebブラウザーのURLボックスに、Desktop Agentのアドレス（`https://<IPaddress>/dt/dtagent/`）を入力します。
5. 画面に表示される指示に従います。
6. グリッド内の静的デスクトップごとに上記の手順を繰り返します。

VDI-in-a-Boxの管理

ここでは、VDI-in-a-Boxの設定および管理について説明します。

- ・ [イメージの作成、アップデート、および修復](#)
- ・ [デスクトップとユーザーセッションの管理](#)
- ・ [汎用ユーザーアカウントの構成](#)
- ・ [グリッドの管理](#)
- ・ [MACアドレスのプールからのデスクトップの生成](#)
- ・ [資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新](#)
- ・ [VDI-in-a-Boxキオスクの構成](#)
- ・ [安全なリモートアクセスの構成](#)
- ・ [ユーザープロファイル管理の構成](#)
- ・ [スマートカード認証の構成](#)
- ・ [VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン](#)

イメージの作成、アップデート、および修復

新しいドラフトイメージを作成するには、既存の公開イメージをコピーします。また、イメージをアップデートするには、公開イメージを編集します。既存の公開イメージをコピーしたり編集したりすると、「ドラフトイメージ (draft image)」、つまり公開イメージの準備を行うための作業デスクトップが作成されます。

公開イメージから新しいドラフトイメージを作成するには

イメージをコピーして、異なる設定やアプリケーションを持つ新しいイメージを作成するには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. 公開イメージの [Copy] をクリックします。これにより、公開イメージがドラフトイメージとしてコピーされます。
3. 新しいイメージの名前と説明を入力し、[OK] をクリックします。
4. [Images] ページで新しいイメージの状態が「Running」と表示されたら、[Edit] をクリックして、[Edit draft image] ウィザードの指示に従って操作します。このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。

イメージをアップデートするには

公開イメージに対して、ソフトウェアのアップデートなどの変更を加えるには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. 公開イメージの [Edit] をクリックし、[Confirm] をクリックします。これにより、アップデート用の新しいドラフトイメージが作成されます。
3. ドラフトイメージの状態が「Running」と表示されたら、[Edit] をクリックして、[Edit draft image] ウィザードの指示に従って設定の変更、パッチの適用、アプリケーションの追加や削除などを行います。このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。新しいドラフトイメージを保存すると、そのイメージが新しい公開イメージになり、元の公開イメージは非アクティブになります。公開イメージに対する変更は、そのイメージに関連付けられたテンプレートの更新（リフレッシュ）ポリシーに基づいて各デスクトップに反映されます。

イメージを修復するには

複数サーバーで構成されるグリッドで、サーバー上に格納されているイメージが一貫しないことが検出された場合は、問題のあるイメージを修復できます。この問題が発生すると、そのイメージの状態は「broken」として表示され、イメージが修復されるまでそのイメージからデスクトップが生成されなくなります。

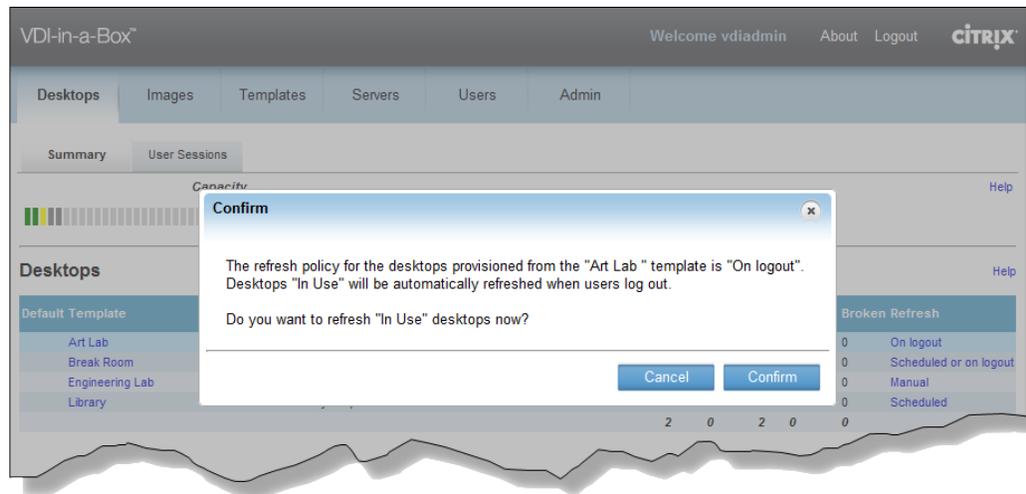
1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. [Status] 列の [Published] リンクをクリックし、次に [Fix] 列の下の  アイコンをクリックします。
3. [Confirm] をクリックします。

デスクトップとユーザーセッションの管理

デスクトップを更新するには

デスクトップは、テンプレートで指定した更新ポリシーに基づいて更新（リフレッシュ）されます。デスクトップを強制的にリフレッシュするには、次の手順に従います。

1. [Desktops > Summary] タブをクリックします。
- 2.



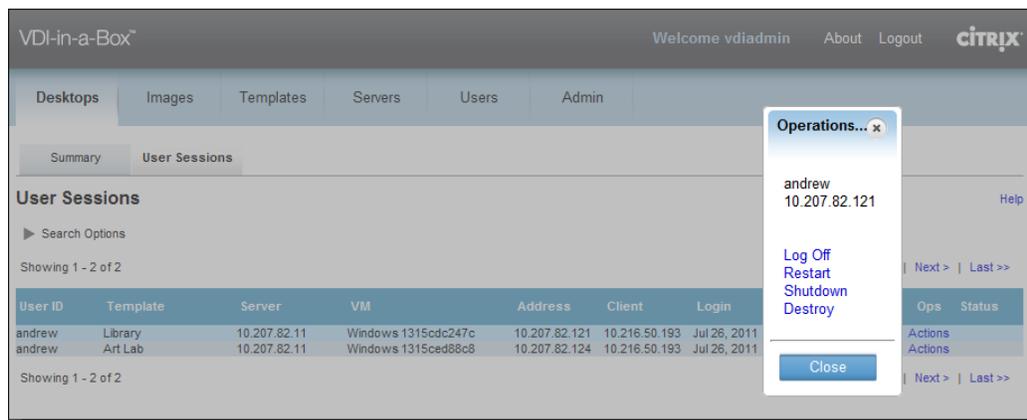
変更するテンプレートの行の [Refresh] 列で、ポリシーの設定値をクリックします。

[Confirm] ダイアログボックスには、現在の更新ポリシーの設定値が表示されます。さらに、更新ポリシーで [Scheduled] または [On logout] が設定されている場合は、ユーザーにより使用されているデスクトップを直ちに更新するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

3. [Confirm] をクリックします。

デスクトップを再起動またはシャットダウンするには

1. [Desktops > User Sessions] タブをクリックします。
- 2.



ユーザーセッションの行の [Ops] 列で、[Actions] をクリックします。

3. [Restart] または [Shut Down] をクリックし、[Confirm] をクリックします。デスクトップの更新 (リフレッシュ) ポリシーで [On logout] が設定されている場合、[Restart] と [Shut Down] はメニューに表示されません。

破損したデスクトップを破棄するには

デスクトップの状態を検出できなくなると、その状態が「Broken」になり、ユーザーが使用できなくなります。デスクトップが破損する原因としては、以下が挙げられます。

- ・ スタートアップ構成が存在しないか正しくない (プロダクトキーまたはドメイン資格情報が正しくないなど) ために、Windowsを起動できない。XenCenterなどのハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、このデスクトップがユーザー入力を待機していないかどうかを確認してください。
- ・ サーバーに負荷がかかりすぎているために、新規デスクトップを起動できない。
- ・ データストアに空きディスク領域がない。
- ・ 使用可能なMACアドレスがない。
- ・ テンプレートのイメージが削除されている。

破損したデスクトップを破棄する前に、問題を特定してデスクトップを修復し、破損したデスクトップを置き換えられるかどうかをテストしてください。

1. [Desktops > Summary] タブをクリックします。または、[Servers] タブをクリックして、[Desktops] リンクをクリックします。
2. [Broken] 列の数字のリンクをクリックして、[Destroy] をクリックします。
3. [Confirm] をクリックします。

デスクトップからユーザーをログオフするには

1. [Desktops > User Sessions] タブをクリックします。
2. ユーザーセッションの行の [Ops] 列で、[Actions] をクリックします。
3. [Log Off] をクリックして、[Confirm] をクリックします。

ユーザーセッションのデスクトップを破棄するには

1. [Desktops > User Sessions] タブをクリックします。
2. ユーザーセッションの行の [Ops] 列で、[Actions] をクリックします。
3. [Destroy] をクリックして、[Confirm] をクリックします。

セッションパラメーターを構成するには

グリッド全体に適用される詳細プロパティとして、以下のパラメーターを構成できます。デフォルトの設定値を変更する前に、その変更による影響について理解しておく必要があります。

セッションパラメーター

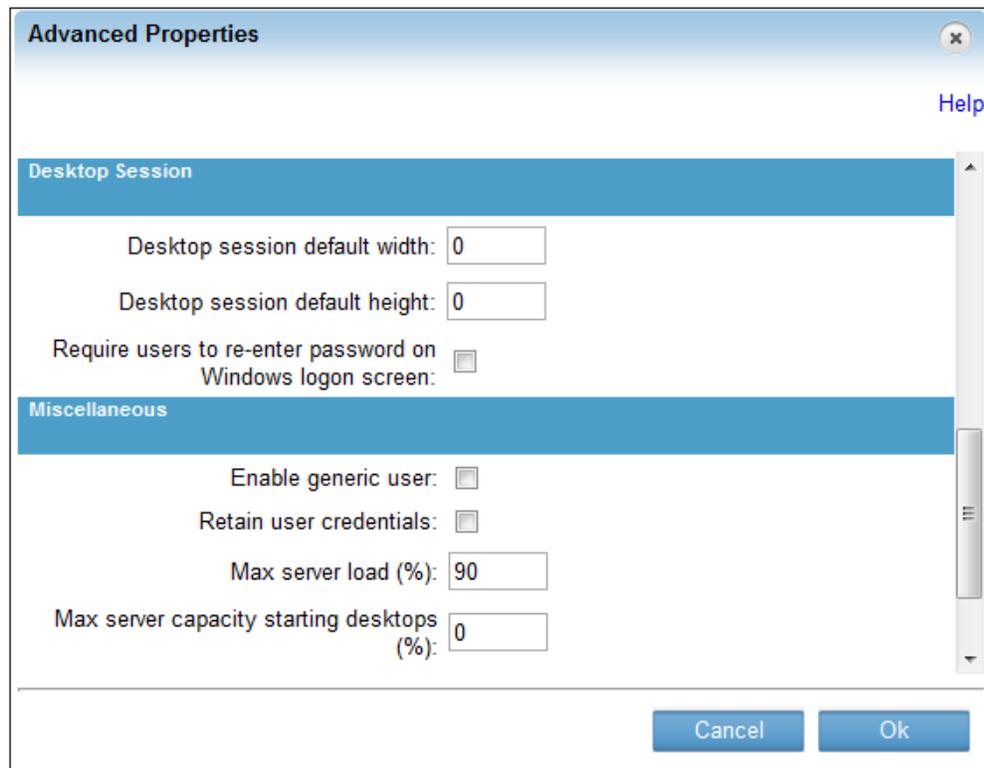
Desktop Sessionパラメーター：

- Desktop session default widthおよびDesktop session default height：デスクトップウィンドウのデフォルトのサイズを指定します。デフォルト値 (0) を使用すると、デスクトップが全画面モードで表示されます。これらのパラメーターは、Citrix Receiver による接続には適用されません。
- Require users to re-enter password on Windows logon screen：デスクトップへのログオン時にユーザーによるパスワードの入力を要求するかどうかを指定します。このチェックボックスをオンにすると、ユーザーがWindowsのログオンダイアログボックスでパスワードを再入力しなければなりません。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

ユーザーセッションに関連するMiscellaneousパラメーター：

- Enable generic user：共通のユーザー名を使用したログオンを許可するかどうかを指定します。詳しくは、「汎用ユーザーアカウントの構成」を参照してください。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
- Retain user credentials：VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントでのログオン後にユーザー名とパスワード（マスク表示）をログオン画面に表示するかどうかを指定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。

1.



[Admin] タブをクリックし、[Advanced Properties] をクリックして、[Desktop Session] セクションまでスクロールします。

2. 設定を変更して、[OK] をクリックします。

汎用ユーザーアカウントの構成

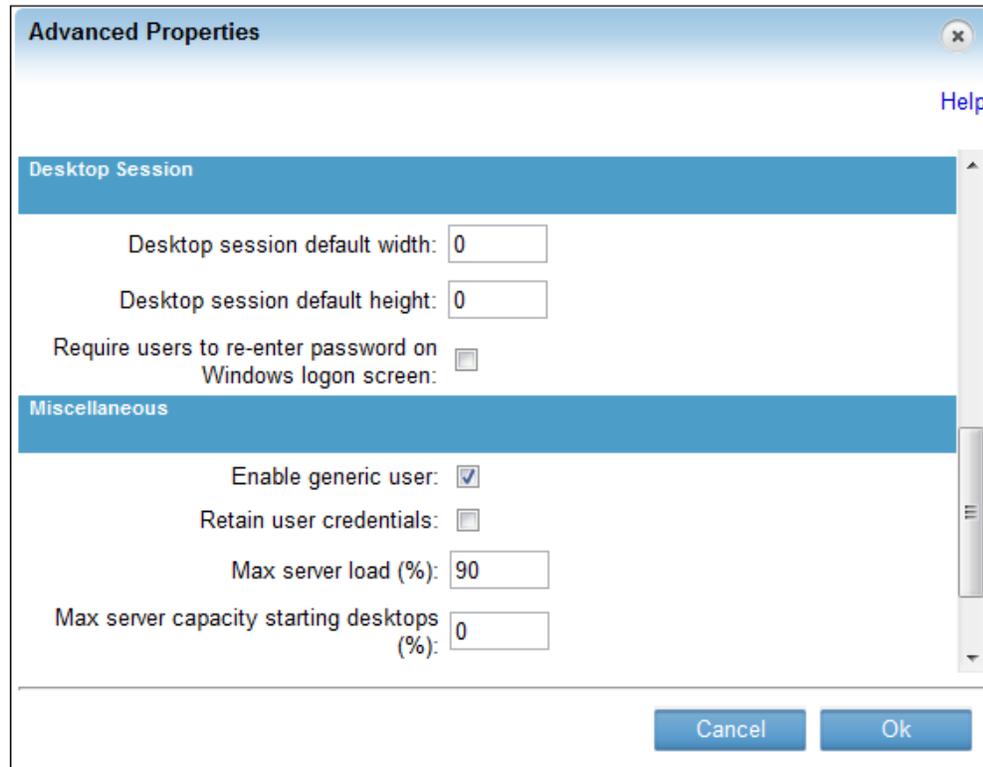
VDI-in-a-Boxは、Active DirectoryおよびMicrosoftワークグループ認証の汎用ユーザーアカウント（ゲストアカウントなど）をサポートします。トレーニング環境などでは、汎用ユーザーアカウントを使用できます。これにより、複数のユーザーが共通のアカウントを共有してデスクトップにログオンできます。汎用ユーザーアカウントはキオスクと同じような概念ですが、1つの汎用ユーザーアカウントに複数のテンプレートを割り当てることができます。

汎用ユーザーアカウントは、グリッド全体で有効または無効になります。汎用ユーザーアカウントを有効にすると、vdiManagerの動作が以下のように変更されます。

- ・ デフォルトでは、デスクトップのユーザーの割り当てと一致しないユーザーがログオンした場合、そのデスクトップは破棄されます。汎用ユーザーアカウントを有効にすると、このセキュリティ上の動作が変更され、デスクトップが破棄されなくなります。
- ・ デフォルトでは、ユーザーがデスクトップセッションを（ログオフせずに）切断して、別のデバイスから同じデスクトップセッションに再接続できます。汎用ユーザーアカウントを有効にすると、この再接続機能が無効になります。これは、汎用ユーザーが別のデバイスから別の汎用ユーザーのデスクトップセッションにログオンしてしまうのを防ぐためです。汎用ユーザーがセッションを切断して別のデバイスからログオンすると、その汎用ユーザーには新しいデスクトップが表示されます。切断されたデスクトップセッションは、vdiManagerによりログアウトされます。更新（リフレッシュ）ポリシーが「On logout」になっている場合は、そのデスクトップが破棄されます。更新（リフレッシュ）ポリシーが「Manual」になっている場合は、次にログオンしたユーザーにそのデスクトップが発行されます。

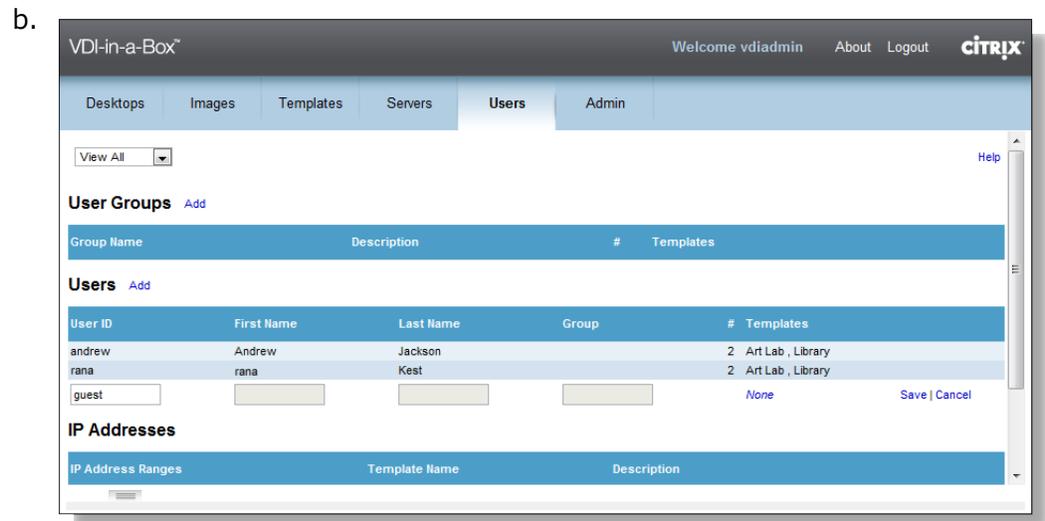
汎用ユーザーアカウントを構成するには

1. [Admin] タブをクリックし、[Advanced Properties] をクリックします。
- 2.

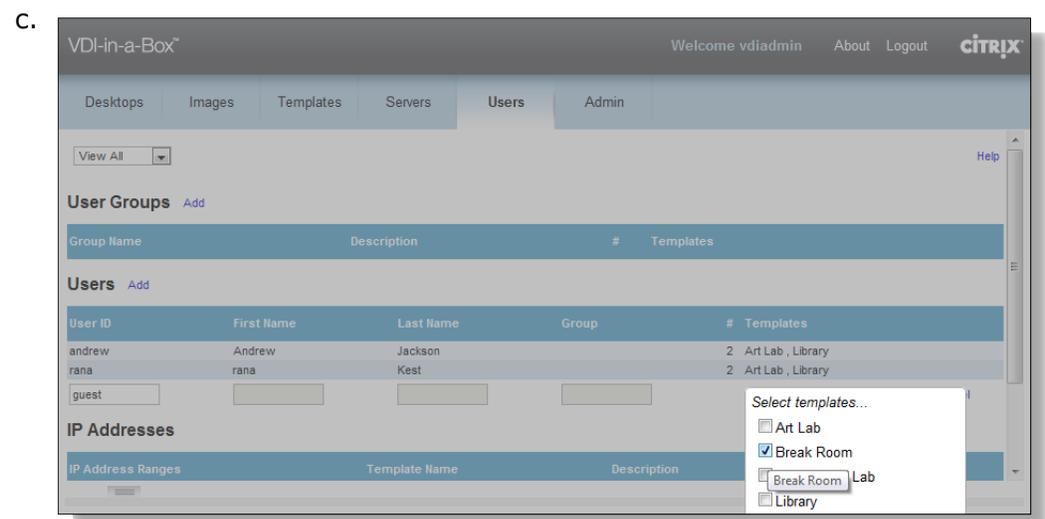


[Enable generic user] チェックボックスをオンにします。

3. VDI-in-a-Boxイメージおよびテンプレートの作成手順に従って、汎用アカウント用のデスクトップイメージとテンプレートを作成します。必要なWindows認証ソフトウェアコンポーネントを、必ずイメージにインストールしてください。
4. 以下の手順で、汎用ユーザーアカウントを追加します。
 - a. [Users] タブをクリックし、[User Groups] の [Add] をクリックします。



[User ID] ボックスに、汎用アカウントのユーザーIDを入力します。



[Templates] 列で [None] をクリックし、このアカウントに割り当てるテンプレートを選択します。

d. [Close] をクリックし、[Save] をクリックします。

5. 汎用ユーザーアカウントを使ってvdiManagerにログオンして、構成をテストします。

グリッドの管理

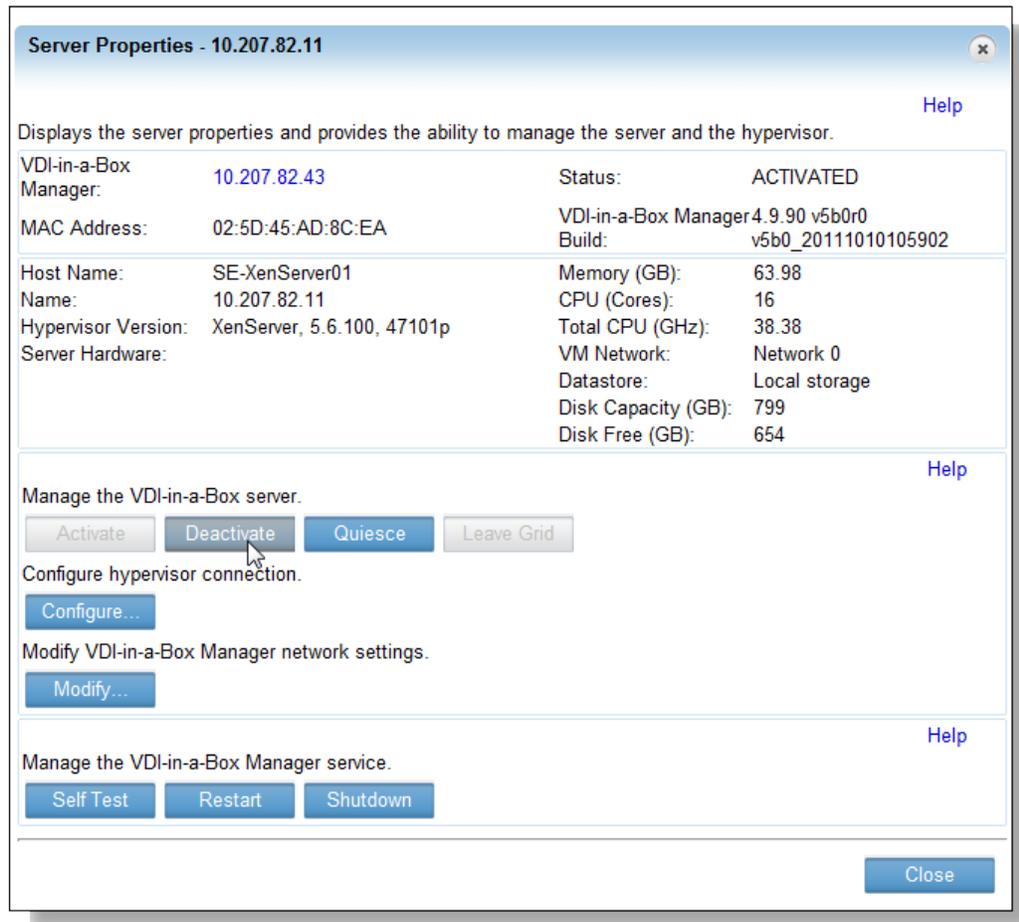
グリッドにサーバーを追加するには

1. ハイパーバイザーサーバーをプロビジョニングしてvdiManagerアプライアンスをインポートし、vdiManagerアプライアンスを起動します。
2. vdiManagerのIPアドレスを書き留めて、WebブラウザからvdiManager管理コンソール (<https://IPaddress/admin>) にログオンします。
3. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの指示に従って、ハイパーバイザーをセットアップして、グリッドに追加します。このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」で、各ハイパーバイザーに関する「グリッドの作成と構成」を参照してください。追加したサーバーは、グリッド内の既存のサーバーによってプロビジョニングされます。ほかのサーバー上のデスクトップは、新規サーバーに移行されません。ポリシーの要件に基づいて、必要に応じてデスクトップが新規サーバー上に作成されます。

グリッドからサーバーを削除するには

グリッドからサーバーを削除すると、そのサーバーにより別のグリッドが作成されます。これにより、元のグリッド内のサーバーから切断され、負荷を共有しなくなります。

1.



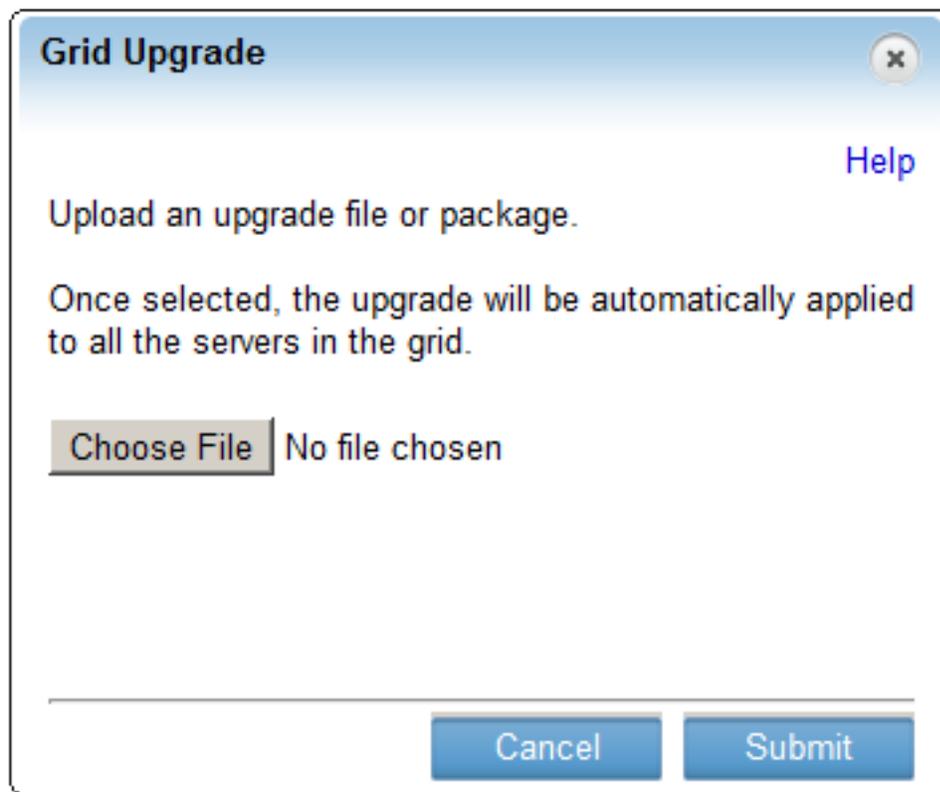
削除するサーバーを非アクティブにして、そのサーバー上で実行されているデスクトップをすべて削除します。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Deactivate] をクリックします。

2. [Confirm] をクリックします。

3. サーバーの状態が「DEACTIVATED」に変わったら、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Leave Grid] をクリックします。

グリッドのVDI-in-a-Boxソフトウェアまたはライセンスをアップグレードするには

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
- 2.



[Admin] ページで、[Grid Upgrade] をクリ

ックします。 [Grid Upgrade] ダイアログボックスが表示されます。

3. [Choose File] をクリックし、アップグレードまたはライセンスファイルを指定して、[OK] をクリックします。
4. [Submit] をクリックします。 アップグレードが完了すると、サーバーの状態が「Success」に変わります。
5. メッセージが表示されたら、vdiManagerにログオンします。
6. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

サーバーのメンテナンスの準備をするには

1. メンテナンスの日時とログアウトの期限をユーザーに通知します。
2. すべての永続デスクトップをバックアップしておくことをお勧めします。「永続デスクトップ」とは、更新ポリシーとして [Manual] が指定されているデスクトップを指します。物理デスクトップと同様に、これらのデスクトップをバックアップする必要があります。動的デスクトップ（手動以外の更新ポリシーが適用されているデスクトップ）は、イメージから再生成されるので、バックアップする必要はありません。
3. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
4. すべてのユーザーがログアウトし、永続デスクトップのバックアップが完了したら、グリッド内のすべてのサーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Server] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Deactivate] をクリックし、[Confirm] をクリックします。サーバーを非アクティブにすると、使用中のデスクトップを含むすべてのデスクトップが削除され、サーバーが直ちにシャットダウンされるので、デスクトップのプロビジョニングは停止します。永続デスクトップだけが「On Hold」の状態で残ります。
5. ハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、永続デスクトップ仮想マシンの電源を切ります。対象のデスクトップセッションを特定するには、[Desktops > User Sessions] タブに移動し、[Status] 列で「On Hold」のエントリを参照します。
6. ハイパーバイザー管理コンソールを使用して、vdiManager仮想マシンの電源を切ります。これで、ハイパーバイザーサーバーのメンテナンスを実行することができます。

メンテナンス後に再開するには

1. ハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、すべてのvdiManager仮想マシンの電源を入れます。
2. すべてのvdiManagerが起動したら、VDI-in-a-Boxコンソールにログオンし、グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。[Servers] タブの [Tasks and Events] セクションに、各サーバーについて「Server checks out fine」というメッセージが表示されます。
3. 各サーバーをアクティブ化します。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Activate] をクリックします。各サーバーの状態が「ACTIVATED」に変わり、動的デスクトップがプロビジョニングされ、永続デスクトップが再起動されます。

vdiManagerに静的アドレスを割り当てるには

前提条件

- ・ まだ割り当てられていない静的IPアドレスを指定する必要があります。
1. サーバーを非アクティブにし、デスクトップが実行されていない状態にします。

2. サーバー上のすべてのドラフトデスクトップまたはテストデスクトップをシャットダウンします。
3. [Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Modify] をクリックします。
4. [VDI-in-a-Box Manager Network Settings] ダイアログボックスで、[Static IP configuration] をクリックし、静的IPアドレスを入力して [OK] をクリックします。

vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットするには

vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットすると、元に戻すことはできません。これにより、グリッドからすべてのデスクトップ、テンプレート、イメージ、および環境情報が削除され、ハイパーバイザーのデータストアに物理的に格納されている基本イメージファイルが削除されます。

1. リセットするサーバーのvdiManager管理コンソールにログインします。
2. サーバーをグリッドから削除します。グリッド内のサーバーを工場出荷時の設定にリセットすることはできません。
3. [Admin] タブをクリックし、[Reset Server] をクリックします。リセットが完了すると、vdiManager管理コンソールからログアウトされます。次にログオンしたときに、[Welcome to VDI-in-a-Box] ページが開きます。vdiManagerのセットアップについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」で、各ハイパーバイザーに関する「グリッドの作成と構成」を参照してください。

サーバーからvdiManagerを削除するには

1. サーバーがグリッドに属している場合は、グリッドから削除します。
2. vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットします。
3. ハイパーバイザーの管理コンソールでvdiManager仮想マシンをシャットダウンし、ホストから削除します。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

MACアドレスのプールからのデスクトップの生成

DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) ポリシーによりIPアドレスがMAC (Media Access Control) アドレスに割り当てられる場合、または特定の範囲のMACアドレスのみにIPアドレスが割り当てられる環境では、特定の範囲のMACアドレスを持つデスクトップが生成されるように設定できます。この「MACアドレスプール」は、そのVDI-in-a-Boxグリッド内で生成されるすべてのデスクトップ、ドラフトイメージ、およびテストイメージに適用されます。

前提条件

- ・ グリッドで生成されるすべてのデスクトップおよびドラフトイメージに十分な数のアドレスがMACアドレスプールに追加されている。
- ・ DHCPなどの外部システムが、MACアドレスプールに追加されているすべてのアドレスを処理できる。MACアドレスプールのアドレスは、デスクトップにランダムに割り当てられます。

注：VDI-in-a-Boxでは、グリッド内のデスクトップを除き、割り当てられたMACアドレスがネットワーク上で一意かどうかを検証されません。グリッドからサーバーを削除する場合、元のグリッドのデスクトップと同じMACアドレスがそのサーバー上のデスクトップに再度割り当てられることがあります。

1. [Admin] タブをクリックし、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [MAC Address Pool] セクションで、開始アドレスと範囲を入力します。MACアドレスの範囲は、00:50:56:[0-3]x:xx:xxから開始する必要があります。

The image shows a dialog box titled "Advanced Properties" with a close button (x) in the top right corner and a "Help" link. The dialog is divided into three sections: "Syslog", "Grid", and "MAC Address Pool".

Syslog

- Central syslog server: localhost
- Central syslog server port: 514
- Syslog format: \$severity \$message (\$messageid) [\$taskname]\$p

Grid

- Enable server failover on lost heartbeat:
- Seconds of lost heartbeat before failing server: 900

MAC Address Pool

- MAC address range start: 00:50:56:01:11:01

At the bottom of the dialog are "Cancel" and "Ok" buttons.

資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新

ハイパーバイザー、Active Directory、またはドメインコントローラーの資格情報を変更した場合は、VDI-in-a-Boxサーバーの構成パラメーターを直ちに更新する必要があります。アカウントの資格情報が定期的に変更される環境では、固定されているアカウントを使用することをお勧めします。

コンポーネント	vdiManager管理コンソールでの更新手順	変更しない場合の影響
ハイパーバイザーの資格情報	[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Configure] をクリックします。	VDI-in-a-Boxがハイパーバイザーと通信できなくなります。
Active Directoryの資格情報	[Admin] タブをクリックし、[Configure User Database] をクリックします。	VDI-in-a-Boxがユーザーを認証できなくなります。
ドメインコントローラーの資格情報	[Images] タブをクリックし、[Edit] をクリックして、ウィザードの指示に従って操作します。資格情報の変更が必要なすべてのイメージについて、この手順を繰り返します。	新しく生成されるデスクトップがドメインに参加できず、破損デスクトップとして認識されます。

VDI-in-a-Boxキオスクの構成

VDI-in-a-Boxのキオスク機能を使用すると、会議室、学校の実験室、病院のナースステーションなどのユーザーデバイスをキオスクシステムとして使用して、標準デスクトップを配信できます。VDI-in-a-Boxキオスク用のデスクトップは、ユーザーやグループ名ではなく、IPアドレスの範囲で特定されるユーザーデバイスに割り当てます。

通常のVDI-in-a-Box仮想デスクトップと同様に、キオスク用のデスクトップもテンプレートに基づいています。デスクトップとユーザーデバイスを関連付けるために、テンプレートをユーザーデバイスのIPアドレスに割り当てます。

管理者は、ユーザーデバイスをセットアップするときに、ユーザーがCitrix Receiver（推奨）、Webブラウザー、またはVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続できるように設定します。

注：キオスクとユーザーの設定に矛盾がある場合は、キオスクの設定が優先されます。

キオスクの展開計画

以下の項目を考慮して、キオスク用のテンプレートの数を決定します。

- ・ 複数のキオスクで同じデスクトップポリシーを使用できるか、または個別のデスクトップポリシーが必要か。
- ・ ユーザーデバイスのIPアドレス。キオスク用のテンプレートは、IPアドレスまたはIPアドレスの範囲に割り当てます。

例：校内の工学研究室と芸術研究室にある既存のコンピューターにVDI-in-a-Boxキオスクを展開する場合、研究室ごとに個別のテンプレートを定義します。そして、工学研究室のコンピューターのIPアドレスの範囲をキオスクテンプレートEngineering Labに割り当てて、芸術研究室のコンピューターのIPアドレスの範囲をキオスクテンプレートArt Labに割り当てます。この設定により、それぞれの研究室からログインする学生に適切なデスクトップが表示されます。

推奨項目とポリシーに関する注意事項

- ・ キオスクデスクトップの展開先に応じて個別のテンプレートを作成します。キオスク用のテンプレートを作成して、個々のユーザーやグループではなく、キオスクデバイスに割り当てると、キオスクセッションを効率的に管理および監視できます。
- ・ デスクトップが毎日更新（リフレッシュ）されるようにポリシーを設定します。
- ・ 会議室など、公共の場所のキオスクでは、特に以下の点について考慮します。
 - ・ デスクトップの更新ポリシーで [On logout] を設定して、ユーザーがログオンするたびに新しいデスクトップが表示されるようにします。
 - ・ 新しいデスクトップの生成には時間がかかるので、イメージを作成するときに [Fast desktop refresh] オプションを有効にして、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速にプロビジョニングされるようにします。
 - ・ 適切な数のデスクトップが事前起動したりリフレッシュされたりするように、 [Maximum desktops] ポリシーで、キオスクデバイスよりも多い数を設定します。
 - ・ グリッドの負荷が高く、デスクトップ更新時の処理にリソースが集中的に使用される場合は、デスクトップの更新ポリシーとして [Scheduled] を設定して、デスクトップが每晚更新されるようにします。この場合、デスクトップの最大数としてキオスクデバイスよりも多い数を設定する必要はありません。
- ・ 事前起動するデスクトップの数を決定します。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。
- ・ デスクトップテンプレートのキオスクデバイスへの割り当てを変更する場合は、注意が必要です。再割り当てにより、新しいデスクトップがキオスクデバイスに配信されますが、古いデスクトップがVDI-in-a-Boxに保持されます。これらの孤立したキオスクセッションは、VDI-in-a-Boxコンソールの [Desktops > User Sessions] タブで削除する必要があります。

キオスクとしてのユーザーデバイスの構成

ユーザーデバイスをキオスクとして構成するには、次の手順に従います。

1. 各ユーザーデバイスのIPアドレスまたはアドレスの範囲にテンプレートを割り当てます。
2. 各ユーザーデバイスをキオスク用にセットアップします。
3. キオスクの接続を確認します。

ユーザーデバイスをテンプレートに割り当てるには

1. VDI-in-a-Boxコンソールで、[Users] タブをクリックします。
2. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。
3. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスを入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。ワイルドカードとしてアスタリスク（*）を使用して、「172.*.」のように172以下のすべてのIPアドレスを表すこともできます。
4. IPアドレスまたは範囲に割り当てるテンプレートを選択します。ユーザーデバイスに割り当てることができるテンプレートは1つだけです。

次の表は、校内の工学研究室、芸術研究室、休憩室、および図書室に対するIPアドレスの割り当て例を示しています。

IPアドレスの範囲	テンプレート名	備考
192.168.1.30-50	Engineering Lab	2つのIPアドレス範囲に対応するには、研究室ごとに個別のテンプレートが必要です。
192.168.1.1-20	Art Lab	
192.168.2.11	Break Room	休憩室のユーザーデバイスには独自のテンプレートが必要です。このデバイスのIPアドレスが192.168.3で始まる場合は、Libraryテンプレートを使用できます。
192.168.3 192.168.4	Library	IPアドレスが192.168.3と192.168.4で始まるすべてのユーザーデバイスには、Libraryテンプレートが使用されます。

ユーザーデバイスをキオスク用にセットアップするには

キオスクデバイスでは、通常のユーザーデバイスと同様にCitrix Receiver（推奨）、Webブラウザ、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用した接続がサポートされます。セットアップ方法については、eDocsの「[ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス](#)」で、使用するユーザーデバイスのトピックを参照してください。

Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、このクライアントをそのデバイスのスタートアップスクリプトに追加して、ユーザーデバイスの起動時にJavaデスクトップクライアントが自動的に起動するようにすることをお勧めします。または、Javaデスクトップクライアントのショートカットを作成します。これを行うには、ユーザーデバイスでコマンドプロンプトのウィンドウを開き、`javaws -viewer`を実行します。次に、Javaデスクトップクライアントのエントリを右クリックして、[Install Shortcuts]を選択します。vdiManagerが複数ある場合は、それぞれについてショートカットを作成し、VDI-in-a-Boxアプライアンスがオフラインになっている場合にユーザーが選択できるようにしておくことをお勧めします。

共通のユーザー名とパスワードを使用してJavaデスクトップクライアントを起動する

デフォルトのユーザー名（「guest」など）とパスワードを省略して、ユーザーが資格情報を入力せずに直接デスクトップに接続できるようにするには、次のコマンドを使用します。

```
javaws https://<IPaddress>/dt/vdiclient.jnlp?"username=<kioskuser>&password=<kioskpassword>"
```

キオスクの接続を確認するには

User ID	Template	Server	VM	Address	Client	Login	Duration	Ops	Status
* andrew	Library	10.207.82.11	Windows x1313d438657	192.168.37	*10.216.50.193	Jul 18, 2011 6:24 AM	0:01	Actions	
* rana	Art Lab	10.207.82.11	Windows x1313d4a7fad	192.168.11	*10.216.50.191	Jul 18, 2011 6:23 AM	0:02	Actions	

vdiManager管理コンソールで、[Desktops > User Sessions] タブに移動します。ユーザーIDとクライアントIPアドレスのエントリはアスタリスク (*) で始まるので、キオスクのエントリを簡単に検索したり並べ替えたりすることができます。

Kaviza VDI-in-a-Box 4.1キオスクからの移行

Kaviza VDI-in-a-Box 4.1キオスクで使用可能な以下のオプションは、使用できなくなりました。

- ・ デフォルトテンプレートの割り当て
- ・ 対話型の起動
- ・ 繰り返しモード

安全なリモートアクセスの構成

仮想デスクトップへの安全な接続をリモートユーザーに提供するには、VDI-in-a-Boxと共に Citrix Access Gateway VPXを使用します。Access Gateway VPXは、Access Gatewayの Citrix XenServerまたはVMware ESXi向けの仮想アプライアンスです。これにより、デスクトップへの安全なアクセスを提供でき、ユーザーはどこからでもデスクトップで業務を行えるようになります。Access Gatewayを使用すると、リモートユーザーが仮想プライベートネットワーク（VPN）接続を構成したり、デスクトップにログオンする前にVPNにログオンしたりする必要がなくなります。

VDI-in-a-BoxのCitrix Access Gateway VPXをインストールおよび構成するには

1. eDocsの「Access Gateway」の「Access Gateway VPX」にある以下のトピックを参照して、セットアップを実行します：
 - ・ Access Gatewayの仮想イメージのダウンロード
 - ・ Access Gateway VPXのXenServerへのインポート、またはAccess Gateway VPXのVMwareへのインポート
 - ・ Access Gateway VPX 5.0.4の基本設定の構成
2. グリッド内の各サーバーのvdiManagerと、Javaデスクトップクライアント用のログオンポイントを作成します。詳しくは、eDocsで「Access Gateway」、「Access Gateway 5.0」、「統合」、「Web Interfaceとの通信のためのAccess Gatewayの構成」の順に選択し、「Web Interfaceをログオンページとして構成するには」を参照してください。

Access Gatewayからは、vdiManagerもJavaデスクトップクライアントもWeb Interfaceとしてログオンポイントを設定できます。

vdiManagerおよびJavaデスクトップクライアントの設定：

- ・ [Authenticate with Web Interface] を選択し、vdiManagerによる認証を許可します。
 - ・ vdiManagerのログオンポイントについては、vdiManagerのURLを入力します（例：https://10.10.10.10）。
 - ・ Javaデスクトップクライアントのログオンポイントについては、完全なURLを入力します（例：https://10.10.10.10/dt/vdiclient.jnlp）。
 - ・ vdiManagerのログオンポイントのいずれか1つをデフォルトとして設定します。
3. グリッド内の各vdiManagerをSecure Ticket Authorityとして追加します。詳しくは、eDocsで「Access Gateway」、「Access Gateway 5.0」、「統合」、「XenAppおよびXenDesktopのAccess Controllerとの統合」、「Web Interfaceの統合」の順に選択し、「Access ControllerでのSecure Ticket Authorityの追加」を参照してください。

vdiManagerの設定：

 - ・ [Connection Type] で、[Unsecure] を選択します。
 - ・ [Port] に、「80」またはカスタムポートを入力します。
 - ・ [Path] に、「/dt/sta」と入力します。
 4. ICAアクセスの制御を構成して、仮想デスクトップが使用するIPの範囲を指定します。詳しくは、eDocsで「Access Gateway」、「Access Gateway 5.0」、「統合」、「XenAppおよびXenDesktopのAccess Controllerとの統合」、「Web Interfaceの統合」の順に選択し、「Access ControllerへのICAアクセスの制御の追加」を参照してください。

vdiManagerの設定：

 - ・ [ICAアクセスの制御] ダイアログボックスに、仮想デスクトップのIPアドレスの範囲を入力します。
 - ・ [プロトコル] ボックスの一覧で、[ICA] および [CGP] を選択します。

5. SSL証明書を構成します。詳しくは、eDocsで「Access Gateway」、「Access Gateway 5.0」、「管理」、「Access Gatewayアプライアンスの管理」の順に選択し、「証明書のインストールと管理」を参照してください。VDI-in-a-Boxのテスト環境では、GeoTrust社の一時証明書を使用することをお勧めします。実務環境では、信頼された機関からのSSL証明書を購入する必要があります。証明書要求では、ホスト名に大文字や「www」を使用しないでください。
6. Access Gatewayの構成を検証します。これを行うには、[Access Gateway Management Console] で、[Monitor] をクリックし、[Warnings] セクションを確認して、処理を続行する前に構成に関する問題を解決します。

Access GatewayへのvdiManager接続を構成するには

Access Gatewayアプライアンスと連動するようにvdiManagerを構成します。Citrix Access Gatewayライセンスによって許可されている数を超えるAccess Gatewayを構成することはできません。Access Gateway VPXのライセンスを使用できます。ライセンス要求では、ホスト名に大文字や「www」を使用しないでください。

1. VDI-in-a-Boxコンソールで [Admin] タブをクリックし、[Advanced Properties] をクリックします。
- 2.

The screenshot shows the 'Advanced Properties' dialog box. The 'MAC address range length' is set to 0. The 'SSL Gateway' section is highlighted, showing 'External SSL gateway address(es): www.gw1.com:443;www.gw2.com:443' and 'Internal SSL gateway IP address(es): 172.16.1.1;172.16.1.2'. The 'Desktop Session' section shows 'Desktop session default width: 0' and 'Desktop session default height: 0'. The 'Require users to re-enter password on Windows logon screen:' checkbox is unchecked. The 'Miscellaneous' section is also visible. The dialog has 'Cancel' and 'Ok' buttons at the bottom right.

[SSL Gateway] セクションまでスクロールします。

3. [External SSL gateway address (es)] に、Access Gatewayの外部FQDNを、ポートを含めて入力します。セミコロンで区切って複数のFQDNを入力できます。例：

www.gw1.com:443;www.gw2.com:443

4. [Internal SSL gateway IP address (es)] に、Access Gatewayの内部IPアドレスまたはDNS名を入力します。セミコロンで区切って複数のアドレスを入力できます。外部ゲートウェイのアドレスと同じ数のAccess Gatewayを同じ順序で指定してください。
例 : 172.16.1.1;172.16.1.2
5. [OK] をクリックします。

Citrix Receiverを構成するには

Access Gatewayを介してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続するには、Citrix Receiverを使用します。複数のユーザーデバイスで同じサーバーURLオプションを設定する方法については、eDocsの「[ReceiverとPlug-in](#)」のセクションを参照してください。URLとして、`https://<AccessGatewayFQDN>/http/<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`を使用します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。ユーザー名は、vdiManager管理コンソールからデスクトップにアクセスするときに使用しているものを使用します。

重要： 「/PNAgent/」の「PNA」は、大文字で入力する必要があります。

ユーザープロファイル管理の構成

ユーザーの個人用設定を仮想デスクトップに適用するには、VDI-in-a-BoxでCitrix Profile managementを使用します。Profile managementにより、ユーザープロファイルが集約化および最適化され、管理の手間と必要なストレージを最小限に抑えることができます。Profile managementをすべてのユーザーの場所またはユーザーデバイスに適用することで、ユーザーのログオンとログオフにかかる時間を短縮できます。

要件

- ・ VDI-in-a-Boxグリッドが、vdiManager 4.1以降を実行している1台以上のサーバーで構成されている。
- ・ vdiManagerでWindows 7またはWindows XPのイメージが公開されている。
- ・ ファイルサーバー上に、ユーザーが読み取りおよび書き込み権限を持つ共有フォルダーがある。

VDI-in-a-BoxのProfile managementをインストールおよび構成するには

eDocsで、使用するバージョンに関する以下の「[プロファイル管理 \(Profile Management\)](#)」のトピックを参照して、展開を計画し、セットアップを実行します。

- ・ Profile managementの製品概要
- ・ Profile managementの展開計画
- ・ Profile managementのインストールおよびセットアップ
- ・ Profile managementを有効にするには
- ・ ユーザーストアへのパスを指定するには
- ・ Profile managementとMicrosoft Outlook

Profile management用にVDI-in-a-Boxイメージを構成するには

デスクトップの作成に使用される各イメージで、GPOテンプレートで設定された組織単位 (OU) を設定します。

1. イメージに設定されているOUを確認するには、[Images] タブをクリックし、イメージ名をクリックします。

2. イメージのOUを設定するには

a. [Images] タブをクリックし、イメージの [Edit] をクリックして、[Confirm] をクリックします。

b.

Import

Install Agent

Test Connection

Edit Image

Prepare Image

Test Image

Please complete the form and verify the info is accurate

Use information from a prior preparation

Domain and Organizational Unit (OU) information. Domain user must have privileges to add and remove computers in the domain.

Domain name: vdi.domain.com (example: example.com)

Domain administrator: administrator

Domain password:

Organizational unit (OU): OU=finance,DC=vdi.domain (optional, example: OU=finance,DC=example,DC=com)

Time zone: (GMT-08:00) Pacific Time (US and Canada); Tijuana

Computer name prefix: VDI401b Default

Copy profile: Make the local administrator's PROFILE the default profile

Help Image Controls Back Prepare

[Edit draft image] ウィザードで、[Organizational unit (OU)] を入力します。

このウィザードについて詳しくは、eDocsのトピック「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」の各ハイパーバイザーに関するセクションで、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。

新しいドラフトイメージを保存すると、そのイメージが新しい公開イメージになり、元の公開イメージは非アクティブになります。公開イメージに対する変更は、そのイメージに関連付けられたテンプレートの更新（リフレッシュ）ポリシーに基づいて各デスクトップに反映されます。

スマートカード認証の構成

VDI-in-a-Boxはスマートカード認証をサポートしているため、ユーザーはスマートカードリーダーを使用して仮想デスクトップにログオンすることができます。ログオンするには、スマートカードを読み取らせてから、スマートカードのPIN（暗証番号）を入力します。Citrix Receiverにより、ユーザーが使用できるデスクトップが表示されます。

要件

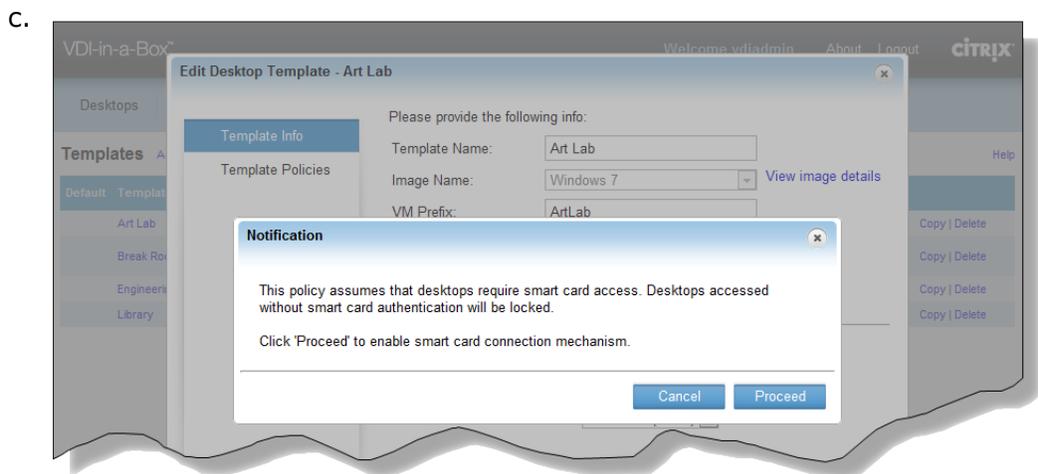
- ・ スマートカードのサポートがサーバーで有効になっている。

導入する環境固有の設定要件について詳しくは、スマートカードの製造元またはシステムインテグレーターにお問い合わせください。

- ・ ユーザーデバイスの要件：
 - ・ Windowsベースのオペレーティングシステム（サポートされるシステムについては、「[VDI-in-a-Box 5.0.2のシステム要件](#)」を参照してください）
 - ・ Citrix Receiver
 - ・ ActivIdentityベースのCommon Access Card（CAC）リーダー
 - ・ キーボード機能用のActivIdentityデバイスドライバーを含むActivIdentity ActivClient 6.2または6.1
 - ・ VDI-in-a-Boxグリッドと同じドメイン
- ・ 以下のWindows Server 2008 R2のActive Directory環境。
 - ・ VDI-in-a-Boxグリッドと統合されている
 - ・ スマートカード認証用に構成されている
- ・ 少なくとも1つのVDI-in-a-Boxデスクトップイメージが公開されている
- ・ 接続を保護する場合は、ユーザーによるVPN接続の確立。Citrix Access Gateway 5.0では、スマートカード認証がサポートされません。

VDI-in-a-Boxでスマートカード認証を設定するには

1. スマートカード認証に必要なテンプレートを設計します。スマートカード用に構成されたテンプレートに基づくデスクトップにアクセスするにはスマートカードが必要です。ユーザーがスマートカードを使用せずにこのデスクトップに接続しようとする、アクセスが拒否されます。
2. スマートカード用のテンプレートを作成します。
 - a. [Templates] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
 - b. Create a New Desktop Templateウィザードで、通常どおりテンプレート情報を指定します。



[Smart cards] チェックボックスをオンにします。

- d. 確認のメッセージで [Proceed] をクリックし、[Next] をクリックします。
 - e. テンプレートポリシーを指定して、[Save] をクリックします。
3. ユーザーまたはグループを新しいテンプレートに割り当てます。詳しくは、eDocsの「VDI-in-a-Box」>「VDI-in-a-Boxの導入」で、各ハイパーバイザーに関する「ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て」を参照してください。
4. スマートカード認証をテストします。スマートカード認証用に構成したユーザーデバイスからエンドユーザーとしてログオンします。

VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン

VDI-in-a-Boxアプライアンスに直接ログオンするには、ハイパーバイザーの管理コンソールや、PuTTYなどのSSH (Secure Shell) クライアントを使用します。アプライアンスの資格情報は以下のとおりです。

- ・ ユーザー名 : kvm
- ・ パスワード : kaviza123

ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス

ユーザーは、Citrix VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップにユーザーデバイスからアクセスします。ユーザーデバイスと仮想デスクトップの通信では、プロトコルとしてCitrix HDXまたはリモートデスクトップ接続（RDP）が使用されます。ユーザーデバイスと仮想デスクトップとの間で通信を行うためには、クライアント側のプロトコルエージェントとサーバー側のプロトコルエージェントが必要です。

VDI-in-a-Boxがサポートするプロトコル

VDI-in-a-Boxは、以下のプロトコルをサポートしています。

- ・ HDX
 - ・ これはデフォルトのプロトコルです。
 - ・ 追加のライセンスは不要です。
 - ・ HDXは高品質のユーザーエクスペリエンスを提供します。
 - ・ HDXは、狭い帯域幅を使用する場合でも、優れたマルチメディアサポートを提供します。
 - ・ HDXは、WANを経由したリモートアクセスに適しています。
- ・ リモートデスクトップ接続（RDP）V6およびV7
 - ・ RDPは、LAN環境に適しています。

注： リモートデスクトップ接続V7を使用する場合は、仮想デスクトップとユーザーデバイスの両方でWindows 7を実行すると最良の結果を得ることができます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップへのアクセス

ユーザーは、以下の3つの方法でVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスすることができます。

- ・ Webブラウザー：Webブラウザーでは、HDXとRDPの両方のプロトコルによる接続がサポートされますが、これらのプロトコル用の設定が必要です。
- ・ Citrix Receiver（旧称「Citrix Online Plug-in」）
 - ・ Citrix Receiverにより、WebブラウザーやVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用することなく、HDX接続を通じて直接VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできます。

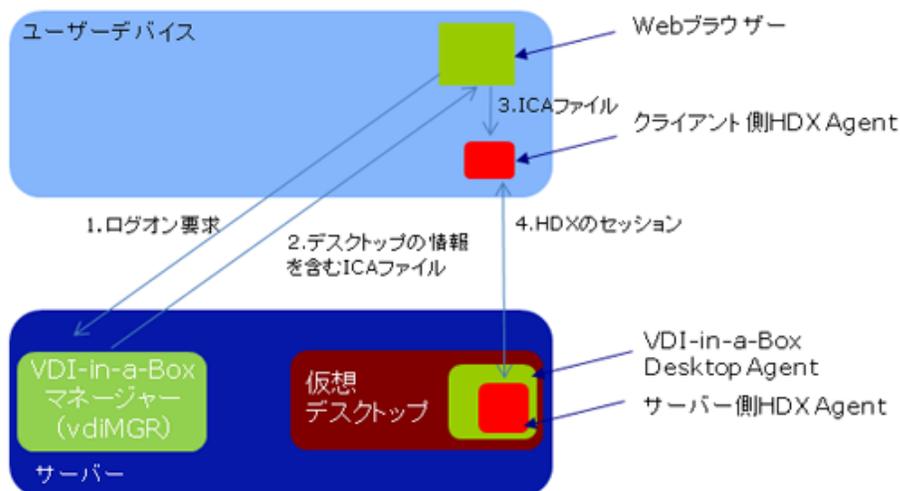
- Receiverでは、Windows、Mac、Linux、iOS、Androidの各プラットフォームからVDI-in-a-Boxデスクトップに接続できます。
- メンテナンス不要のVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアント
 - Javaデスクトップクライアントのアップデートプログラムの有無が自動的に確認され、必要に応じて更新されます。
 - Java Runtime Environment (JRE) 1.6以降が必要です。
 - HDX接続を使用できない場合は、RDP接続に切り替わります。

クライアントアクセスの比較

デスクトップへのアクセス	HDX接続が不能な場合のRDPへの自動切り替え	キオスク	統合エラーメッセージ	vdiMana
ポート	(不要)	サポート		
ポート		サポート	サポート	
ポート	サポート	サポート	サポート	サポート

キオスクオプションは、図書館やナースステーションなどに共有のユーザーデバイスを配置して、デスクトップをログオンユーザーではなく共有デバイスに割り当てる場合に使用します。キオスクデバイスでは、そのデバイス用に設定された同一のデスクトップをすべてのユーザーが使用します。

ユーザーデバイスからログオンする



次の図は、ユーザーデバイス上のWebブラウザとサーバー上のVDI-in-a-Boxマネージャー間における基本的なログオンプロセスを示しています。ユーザーデバイスとサーバー上の特定の仮想デスクトップ間のHDXセッションは、Citrix Receiverを使用して作成されます。接続が確立されると、セッションのトラフィックはReceiverと仮想デスクトップ間でのみ発生します。Javaデスクトップクライアントの使用時も同様のプロセスが適用されます。

Citrix Receiverを使用すると、Webブラウザを持たない古いローエンドのシンクライアントを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスすることができます。iPadのようなモバイルデバイスでも、Receiverを使用することで、WebブラウザやJavaデスクトップクライアントを必要とせずにVDI-in-a-Boxにアクセスすることができます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのWindowsデバイスの構成

前提条件

WindowsのユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、以下のソフトウェアをインストールします：

- ・ Citrix Receiver for Windows 3.0（旧称「Citrix Online Plug-in」）。
<https://www.citrix.com>からダウンロードできます。
- ・ Java Runtime Environment（JRE）1.6以降。<https://www.java.com/>からダウンロードできます。

Webブラウザーを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにWindowsデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「<https://<vdiManagerIPAddress>>」と入力します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザーからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカットを作成します。

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにWindowsデバイスを構成するには

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続させる場合は、ユーザーのデバイス上にCitrix Receiverをインストールします。eDocsの「[Receiver for Windows](#)」のセクションを参照して、サーバーURLオプションを設定します。URLとして、`http://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`を使用します。ユーザー名は、vdiManager管理コンソールからデスクトップにアクセスするときに使用しているものを使用します。

VDI-in-a-Boxデスクトップクライアントを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにWindowsデバイスを構成するには

1. Windowsデバイスでコマンドプロンプトウィンドウを開きます。
2. コマンドプロンプトで、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのアドレスを指定して `javaws http://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp` を実行します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
5. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップに作成します。
 - a. デバイス上でコマンドプロンプトのウィンドウを開きます。
 - b. コマンドプロンプトで、 `javaws -viewer` を実行します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 - c. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのMacデバイスの構成

前提条件

MacのユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、以下のソフトウェアをインストールします。

- ・ Java Runtime Environment (JRE) 1.6以降。 <https://www.java.com/>からダウンロードできます。
- ・ Citrix Receiver for Mac 11.4 (旧称「Citrix Online Plug-in」)。
<https://www.citrix.com>からダウンロードできます。

Webブラウザーを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにMacデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「**https://<vdiManagerIPAddress>**」と入力します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザーからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカット (エイリアス) を作成します。

Javaデスクトップクライアントを使用して VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできる ようにMacデバイスを構成するには

1. Macデバイスでターミナルウィンドウを開きます。
2. ターミナルプロンプトで、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのアドレスを指定して `javaws http://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp` を実行します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
5. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップに作成します。
 - a. Macデバイス上でターミナルウィンドウを開きます。
 - b. ターミナルプロンプトで、`javaws -viewer` を実行します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 - c. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのLinuxデバイスの構成

前提条件

LinuxのユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、以下のソフトウェアをインストールします。

- ・ Citrix Receiver for Linux 11.100. <https://www.citrix.com>からダウンロードできます。
- ・ Java Runtime Environment (JRE) 1.6以降。 <https://www.java.com/>からダウンロードできます。
- ・ rdesktop 1.7.0。 <http://www.rdesktop.org>からダウンロードできます。

Webブラウザーを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにLinuxデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザーを起動します。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、「**https://<vdiManagerIPAddress>**」と入力します。ここで、<vdiManagerIPAddress>はVDI-in-a-BoxマネージャーのIPアドレスです。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザーからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカット（エイリアス）を作成します。

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにLinuxデバイスを構成するには

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続させる場合は、ユーザーのLinuxデバイス上にCitrix Receiverをインストールします。eDocsの「[Receiver for Linux](#)」のセクションを参照して、サーバーURLオプションを設定します。URLとして、`http://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`を使用します。ユーザー名は、VDI-in-a-Boxコンソールからデスクトップにアクセスする際に使用しているものを使用します。

Javaデスクトップクライアントを使用してVDI-in-a-BoxデスクトップにアクセスできるようにLinuxデバイスを構成するには

1. Linuxデバイスでターミナルウィンドウを開きます。
2. ターミナルプロンプトで、VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのアドレスを指定して `javaws http://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp` を実行します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
5. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップ上に作成します。
 - a. Macデバイス上でターミナルウィンドウを開きます。
 - b. ターミナルプロンプトで、`javaws -viewer` を実行します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 - c. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのiOSデバイスの構成

前提条件

- ・ ユーザー認証用のActive DirectoryがCitrix VDI-in-a-Boxグリッドで設定されている。
- ・ iOSデバイス (iPadおよびiPhone) からデスクトップにアクセスするユーザーに、少なくとも1つのテンプレートが割り当てられている。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにiOSデバイスを構成するには

Citrix Receiver for iOSについて詳しくは、eDocsの「Receiver for iOS」のセクション（「[Receiver for iOS](#)」）を参照してください。

1. iTunes App StoreからReceiver for iOSをダウンロードしてインストールします。
2. [新規アカウント] 画面を開きます。 [アドレス] にVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) のアドレスを「`https://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`」のように入力します。
3. [次へ] をタップします。
[検証済み] 画面が開きます。
4. [検証済み] 画面で必要な設定を行って、[保存] をタップします。 そのユーザーアカウントに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。

iOSデバイスからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするには

1. [アカウント] 画面で、使用するVDI-in-a-Boxアカウントをタップします。
2. [資格情報の入力] 画面で、ユーザーの資格情報を入力して [OK] をタップします。

注：アカウントの設定によっては、ユーザーのパスワードが保存されている場合があります。その場合はこの手順は省略されます。

アカウントに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。

3. 目的のデスクトップをタップします。 仮想デスクトップに接続されます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのAndroidデバイスの構成

前提条件

- ・ Citrix VDI-in-a-BoxグリッドのHDXが有効になっている。
- ・ VDI-in-a-Box HDX Gatewayが有効でライセンスが適用されている。
- ・ ユーザー認証用のActive DirectoryがCitrix VDI-in-a-Boxグリッドで設定されている。
- ・ Androidデバイスからデスクトップにアクセスしているユーザーに、少なくとも1つのテンプレートが割り当てられている。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにAndroidデバイスを構成するには

Citrix Receiver for Androidについて詳しくは、eDocsの「Receiver for Android」のセクションを参照してください。

1. AndroidマーケットからReceiver for Androidをダウンロードしてインストールします。
2. [アカウントの追加] 画面を開き、[アドレス] にVDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）のアドレスを「`https://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml`」のように入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. セキュリティ警告のメッセージが表示された場合は、[許可] をタップします。エラーメッセージが表示されます。
4. [手動セットアップ] をタップします。手動で設定するための [アカウントの追加] 画面が表示されます。
5. Add Accountページで、[ユーザー名] と [ドメイン] を入力し、[追加] をタップします。

注意： 必要に応じて、ここでユーザーのパスワードを入力しておくこともできます。これによりパスワードが保存されるので、ユーザーは認証なしにVDI-in-a-Boxデスクトップに接続することができます。

新しいアカウントが [アカウント] 一覧に追加されます。

AndroidデバイスからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするには

1. Citrix Receiverの [アカウント] 一覧で、使用するVDI-in-a-Boxアカウントをタップします。
2. パスワードを入力します。

注： アカウントの追加時にパスワードを保存しておいた場合、この手順は省略されません。

3. ユーザーの資格情報を入力して、 [ログオン] をタップします。 仮想デスクトップに接続されます。